

自然環境保全基礎調査
植生調査実施要領（平成 27 年度版）

平成 27 年 4 月

環境省自然環境局
生物多様性センター

自然環境保全基礎調査植生調査実施要領（平成 25 年度版）以降の改訂

本実施要領は、「自然環境保全基礎調査植生調査実施要領（平成 25 年度版）」の一部を見直し、平成 27 年度版実施要領として改訂したものである。平成 27 年度の植生調査業務は、本実施要領、植生図 GIS データ製品仕様書（第 2.0 版）、植生図 GIS データ作成ガイドライン（第 2.2 版）に準拠する。平成 25 年度版以降の主な改訂は以下の通りである。

- メーリングリスト廃止に伴い記載を削除した。
- 図化基準は、わかりにくい二次林、垂直分布や微地形の相違で凡例が分かれる場合等、作成者間の共通認識が必要な主要凡例のみ作成することとした。
- 現地調査法人による植生図全図の確認の方法は、縮小版による確認と出力図の全図展開チェックを会議前に行い、全体の区分内容を確認し、修正もしくは対応方法を検討しておくこととした。
- 空中写真は、専用のアルバムまたは A3 または A4 の 2 穴ファイル等に収録することとした。
- 卷末資料として「資料 3 統一凡例一覧」、「資料 4 山岳地調査の手引き」の順序をいれかえた。
- 「資料 4 山岳地調査の手引き」は表題を変更し内容を更新した。

目 次

1. 調査の概要.....	1
1.1 目的.....	1
1.2 経緯.....	1
1.3 本要領の位置づけ	1
1.4 調査対象地域.....	2
1.5 実施体制.....	3
1.6 業務管理サイト・メーリングリスト	6
1.6.1 業務管理サイト.....	6
1.6.2 メーリングリスト.....	6
1.7 植生図の基本的仕様	7
1.7.1 基図	7
1.7.2 判読画像	7
1.7.3 最小表示面積	7
1.7.4 凡例	7
1.7.5 隣接植生図との調整	8
1.7.6 GIS データの仕様.....	9
1.8 植生図の図化指針	9
2. 植生図の作成方法	10
2.1 植生図の作成工程.....	10
2.2 工程管理	13
2.2.1 管理資料の確認・承認手順	13
2.2.2 打ち合わせ	15
2.3 計画・準備	17
2.3.1 判読画像の入手及び確認	17
2.3.2 既存資料の収集および活用方法の検討.....	18
2.3.3 2次メッシュ管理リストおよび2次メッシュ別工程表の作成.....	20
2.3.4 着手打ち合わせ	21
2.3.5 ブロック統括委員等のヒアリング	21
2.3.6 現地調査計画書の作成	22
2.4 植生判読及び現地調査	27
2.4.1 予備判読.....	27
2.4.2 現地調査.....	27
2.4.3 図化基準案の作成	33
2.4.4 植生図案の作成・提出	34
2.5 第1回ブロック調査会議.....	38

2.5.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載.....	38
2.5.2 会議の開催	40
2.5.3 議事録及び議事概要の作成.....	40
2.5.4 会議後の打ち合わせ（中間打ち合わせ）	40
2.6 凡例検討部会	41
2.6.1 仮凡例の検討.....	41
2.6.2 仮凡例の検討フロー	42
2.7 植生図 GIS データの作成.....	43
2.7.1 植生図案の確定	43
2.7.2 植生図 GIS データの入力および修正	44
2.7.3 2次管理資料の提出と進捗状況の報告.....	45
2.7.4 植生図全図の確認	46
2.8 第2回ブロック調査会議.....	48
2.8.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載.....	48
2.8.2 会議の開催	50
2.8.3 議事録及び議事概要の作成.....	50
2.8.4 会議後の打ち合わせ	50
2.9 植生分科会	51
2.10 成果品の作成.....	52
2.10.1 植生図の最終確認	52
2.10.2 成果品案等の提出	52
2.10.3 最終打ち合わせ	53
2.11 納品	54
 3. 調査成果とりまとめ.....	55
3.1 成果品の概要.....	55
3.1.1 成果品の概要.....	55
3.1.2 環境省 RL 種にかかる情報.....	58
3.2 GIS 植生図の出力図	59
3.2.1 GIS データおよび植生図	59
3.3 ブロック版報告書.....	60
3.3.1 ブロック版報告書の仕様	60
3.3.2 ブロック版報告書の作成	62
3.3.3 ファイル作成要領	64
3.4 現地調査データ	65
3.4.1 現地調査入出力システムの概要.....	65
3.4.2 現地調査データの内容	69
3.5 電子ファイル（電子媒体）	73

3.5.1 格納媒体.....	73
3.5.2 電子媒体の表題.....	73
3.5.3 CD の内容.....	77
3.6 空中写真等	79
3.6.1 空中写真に関わる成果品の構成.....	79
3.6.2 空中写真アルバムの整理	81
3.6.3 標定図の整理.....	83
3.7 電子ファイル.....	85

資料 1 全国レベルの精度基準

資料 2 伐採跡地・土地利用等判読の手引き

資料 3 環境省統一凡例

1. 調査の概要

1.1 目的

自然環境保全基礎調査（以下「基礎調査」という。）は自然環境保全法第4条に基づき、概ね5年ごとに地形、地質、植生及び野生動物に関する調査その他自然環境の保全のために講すべき施策の策定等のために実施している調査である。本調査は、基礎調査のうち植生に関する調査であり、全国的な観点から我が国における自然環境の現況及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するための基礎資料を整備することを目的として実施するものである。

1.2 経緯

我が国の自然環境の最も基本的な構成要素である植生については、1978年（昭和53年）～1987年（昭和62年）度の第2回・3回基礎調査において全国の縮尺5万分の1現存植生図（以下、「1/5万植生図」という。）が作成され、1988年（昭和63年）～1998年（平成10年）度の第4回・5回基礎調査では人工衛星データにより把握可能な植生改変地域の更新を行ってきた。

しかしながら、環境影響評価法が施行されたこと、また里地・里山の保全等近年の自然環境への関心の高まりの中、植生図は日本全土を面的に網羅する自然環境に関する最も基礎的な資料として今後の自然環境保全施策の適切な推進に必要不可欠であり、環境アセスメントの基礎資料としても精度の高い植生のデータを提供していくことが求められていたため、1999年（平成11年）度以降の第6回基礎調査より新たに縮尺2万5千分の1現存植生図（以下、「1/2.5万植生図」という。）の作成に着手した。第6回基礎調査では、植生図を作成していくために空中写真から植生情報を判読した判読情報資料図を作成するとともに、現地調査を実施して植生原図*の作成を行い、2004年（平成16年）度までの調査期間で全国の約3分の1の図面を整備した。第6回基礎調査では全国規模での凡例の統一等の改訂を行い、作成手法においてもGISを使用した植生図*の作成が進む等の変更を行った。

2005年（平成17年）度より開始した第7回基礎調査では、第6回基礎調査で整理したGIS仕様に基づき、植生図GISデータを作成し、これまでに全国の約70%の地域を整備した。

* 本業務では、第6回植生調査において紙ベースで作成された1/2.5万植生図を「植生原図」と呼ぶ。平成16年度以降、仕様に基づいて作成されたGISデータ並びに出力図は、これと区別する意味で「植生図」と呼ぶ。

1.3 本要領の位置づけ

本要領は、2013年（平成25年）度以降の植生調査業務について、全国的観点から植生図の精度を確保・均質化するため、作業の実施体制、作業内容、作業の進め方を明確にしたものである。

なお、植生図GISデータの技術的事項については、本要領とは別に「植生図GISデータ製品仕様書 第2.0版」及び「植生図GISデータ作成ガイドライン 第2.2版」に定めた。

1.4 調査対象地域

本調査は、基本的に国土を8ブロック（北海道、東北、関東、北陸、中部、近畿、中国・四国、九州・沖縄：図1-1）に分割して業務を実施する。

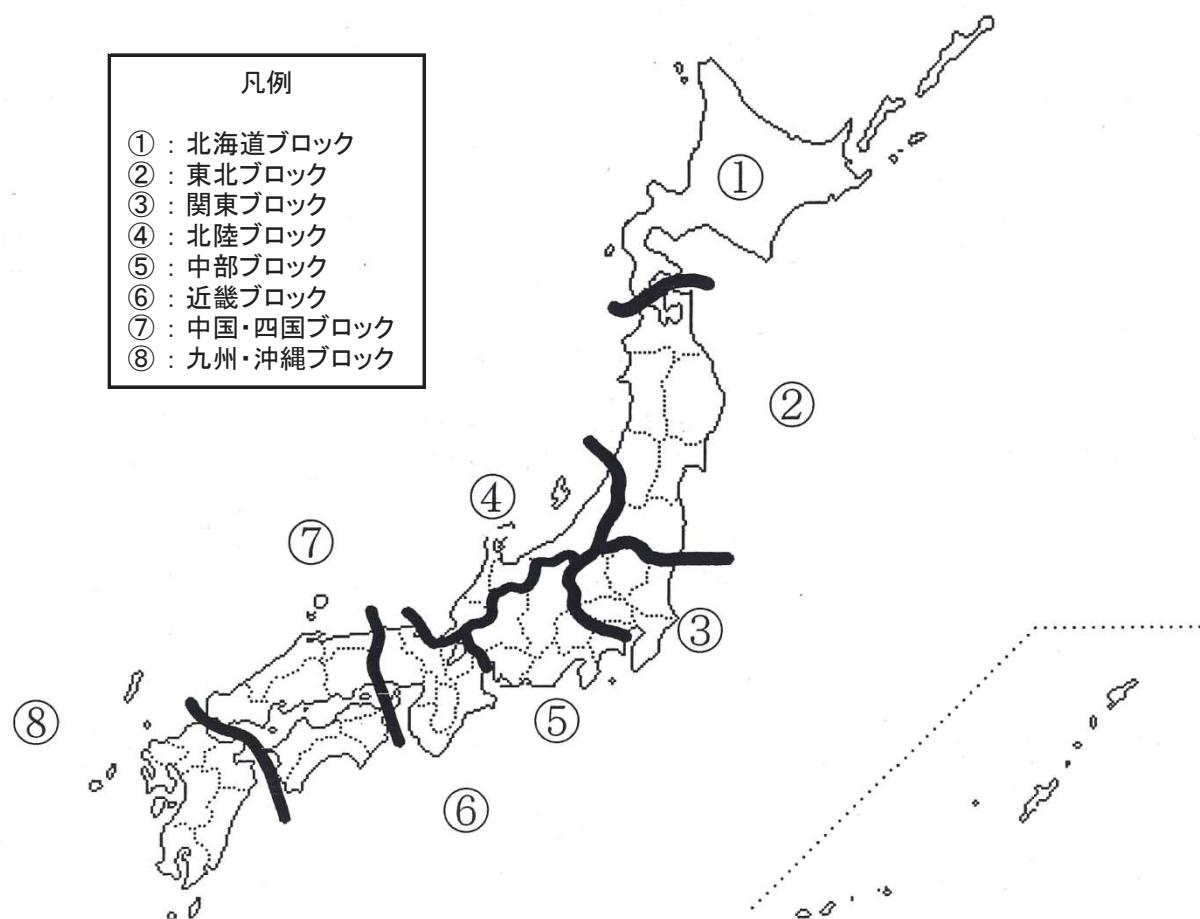


図 1.4.1 調査ブロック位置図

1.5 実施体制

本調査は、環境省（生物多様性センター）、環境省から業務を請け負った「現地調査法人」^{*1}及び「幹事法人」^{*2}が連携し、一定の精度が確保された植生図を作成する。

各者の役割分担は以下のとおりとする。環境省、現地調査法人、幹事法人は、学識経験者の助言を参考にし、植生図の精度管理^{*3}を実施する。図 1.5.1 に実施体制を示す。

*1 現地調査法人：環境省からの業務請負により、植生図作成業務を担当する法人

*2 幹事法人：環境省からの業務請負により、植生図精度管理業務を担当する法人

*3 植生図の精度管理：植生図の精度管理とは、植生図の全国的な精度を確保するため、要領及び協議にて定めた作成手法に沿って、工程に応じて中間成果及び最終成果の植生図の精度を確認し、必要に応じて修正を行う作業を指す。

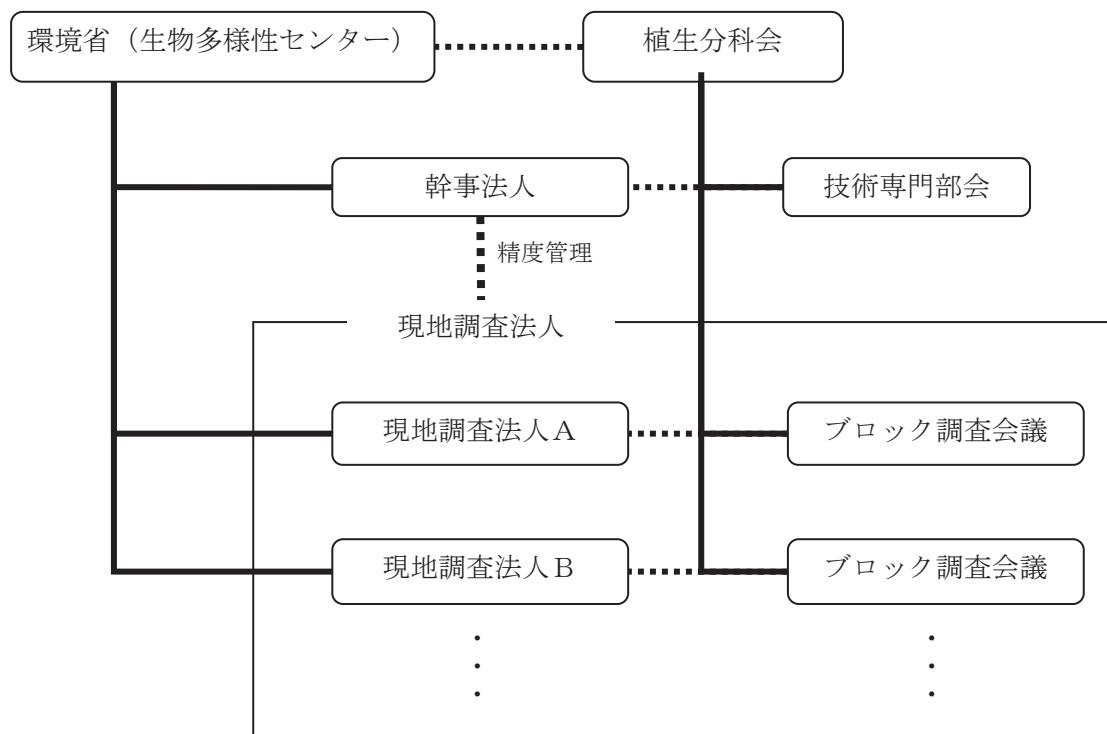


図 1.5.1 植生調査業務の実施体制

環境省（生物多様性センター）

- 植生調査業務の進行管理及び監督
- 植生図最終成果品の検査
- 植生分科会の事務局

幹事法人

- 植生図の全国レベルの精度の均一性及び水準を保つための現地調査法人間の調整
- 現地調査法人の途中成果及び進捗の確認と環境省への報告

- 植生調査業務を円滑に進めるための現地調査法人への情報提供・技術的支援
- 技術専門部会の事務局、植生分科会の会議資料の作成
- 体制

(1) 業務管理者

全国の植生図の精度管理を円滑に進めるため、業務の全体を総括する業務管理者をおく。業務管理者は、精度管理担当者が実施する植生図の精度管理を統括し、全ブロックの進捗管理を行う。

(2) 精度管理担当者

ブロック間の植生図精度を調整するため、精度管理担当者をおく。精度管理担当者は、各ブロックの植生図精度を確認し、確認結果に応じて現地調査法人への作成支援を行い、各ブロックの植生図作成の進捗管理を行う。

現地調査法人

- 植生図成果品の作成（現地調査の実施、調査結果とりまとめを含む）
- 整備地域内及び隣接植生図幅間の精度調整
- 幹事法人からの指示に基づく管理資料等の修正
- ブロック調査会議の事務局
- 体制

(1) 業務管理者

複数の図幅作成者（植生図の図幅別作成者を以下「作成者」とする）相互の調整、図幅間の精度調整、作成者の進捗管理を行うため「業務管理者」をおく。業務管理者は、植生図作成業務全体を統括し、業務の進捗管理を行う。また、図幅ごとの精度管理と全図面間の調整を行い、工程ごとの精度管理結果を環境省及び幹事法人に報告する。

(2) 作成者

各図幅の植生判読を行う「作成者」をおく。作成者は、日本の植生に関する知見を有する者が担当する。作成者は、現地調査法人の業務計画に従い、担当する図幅の植生図を作成する。

植生図精度を均一化するために開催する会議

(1) 植生分科会

目的：植生図精度の均一化を図るため、全国レベルで統一する必要のある事項についての検討、作成された植生図の確認。

事務局：環境省

構成員：植生、画像判読に関する技術を専門とする学識経験者及び各ブロック統括委員（表1.5.1）

(2) 技術専門部会

目的：植生調査を実施する上で必要となる専門的知見による技術的な検討等。

事務局：幹事法人

平成 27 年度に開催を予定している技術専門部会

凡例検討部会

目的：植生図作成業務において現地調査法人から提案される追加凡例の可否、公開にあたって保護上配慮すべき凡例の表示方法等の検討。

構成員：植物社会学、植生学等に関する広範な知見を有するほか、植生図作成に関する統一凡例等に詳しい学識経験者等の専門家。

表 1.5.1 植生分科会検討員名簿（平成 27 年度）（敬称略）

区分	氏名	所属	備考 (担当ブロック)
植生分科会検討員	奥田 重俊(座長)	横浜国立大学名誉教授	
	原 慶太郎	東京情報大学総合情報学部環境情報学科教授	
ブロック統括委員	植村 滋	北海道大学北方生物圏フィールド科学センタ一准教授	北海道ブロック
	斎藤 員郎	山形大学名誉教授	東北ブロック
	星野 義延	東京農工大学農学部地域生態システム学科准教授	関東ブロック
	増沢 武弘	静岡大学理学部特任教授	中部ブロック
	古池 博	石川県地域植物研究会会长	北陸ブロック
	武田 義明	神戸大学名誉教授	近畿ブロック
	波田 善夫	岡山理科大学学長	中国・四国ブロック
	中西 弘樹	長崎大学教育学部教授	九州・沖縄ブロック

(3) ブロック調査会議

目的：植生図作成業務において、調査実施に必要な事項の検討。年2回程度の開催とするが、開催形式、開催時期は環境省とブロック統括委員の協議により決定する。

事務局：現地調査法人

構成員：学識経験者、ブロック統括委員（座長）（表 1.5.1）+都道府県ごとに検討委員1人（北海道は8人）

都道府県担当者：原則として未整備地域を含む都道府県ごとに1人

1.6 業務管理サイト

植生調査関係者（環境省、植生分科会検討員、技術専門部会委員、ブロック検討委員、幹事法人、現地調査法人、都道府県の担当職員）を対象とした、電子データのアップやダウンロードができるサイト。管理資料の提出や植生調査関係者間の情報共有等に利用することができる。幹事法人が運営する。

1.7 植生図の基本的仕様

1.7.1 基図

国土地理院発行の、最新の縮尺 1/2.5 万地形図または数値地図とする。

1.7.2 判読画像

植生判読は、縮尺 1 万分の 1 ~ 3 万分の 1 程度の最新の空中写真による立体視判読を基本とする。現地調査法人は、整備地域を撮影した空中写真及び衛星画像等の画像から、整備地域の植生判読に最適な判読画像を選定し入手する。立体視できない画像配信サービスを使用したり Google、Yahoo 等が提供する Web 画像等を参照する場合には、実施計画書に示した「判読画像の選定方針」に従い、判読の適否について十分に検討を行った上で、判読画像の使用の可否を決定する。ただし、山地の多い地域については空中写真の購入を必須とする。空中写真を購入する際は、60% のオーバーラップをもって立体視できる枚数を購入し、カラー空中写真はカラー現像とする（モノクロ焼きは不可）。

1.7.3 最小表示面積

本業務で作成される植生図は、植生の最小抽出単位概ね 1ha（1/2.5 万地形図上で 4mm × 4mm）で作成するものとし、植生図の区分線の位置精度や、不可とする事例を示した「全国レベルの精度基準（資料 1）」に適合するものとする。

1.7.4 凡例

植生図で用いる凡例は、種組成を重視し植生区分の精度等を全国的な視点で統一した「環境省統一凡例（以下「統一凡例」という）」を用いる。統一凡例は、植生区分一大区分（相観的な区分）－中区分（優占種的な区分）－細区分（群集及び群集レベルの群落）の各段階に位置づけられる（表 1.7.1）。

凡例名で略記する場合は、大・中・細区分の最下の区分名を用い、名称が重複する場合は凡例名の（ ）に植生区分等を付記し凡例名だけで区別ができるようにする。

植生図には原則として、細区分（群集レベル）の凡例を用いるが、植生情報が少なく群集レベルの細分・修正が困難な場合は、中区分・大区分の凡例を用いてもよい。

統一凡例は、調査の結果判明した新凡例の追加登録等、植生情報の蓄積状況に応じて年度単位で更新する。最新の統一凡例一覧表（大・中・細区分）を資料 3 に示す。

凡例のうち、伐採跡地、農耕地、市街地等の凡例は「伐採跡地・土地利用等判読の手引き（資料 2）」に従って図化するものとする。

表 1.7.1 統一凡例の大・中・細区分等

区分	植生区分 ^{*1}	大区分	中区分	細区分
主な基準	クラス域 自然・代償等	主として群系	群団または 優占種群落	群集または 群集レベルの群落
各段階のコード ^{*2}	I から X	大コード:01-58	中コード:00-	細コード:00-
凡例コード(略記) ^{*2}	I から X	大コード+中コード+細コード (例 260000、220500、220501)		

*1. 植生区分は I から X までの 10 区分で全凡例に付加されている。※1/5 万植生図に準拠

- | | |
|----------------------|----------------------|
| I 高山帯自然植生域 | VI ヤブツバキクラス域自然植生 |
| II コケモモートウヒクラス域自然植生 | VII ヤブツバキクラス域代償植生 |
| III コケモモートウヒクラス域代償植生 | VIII 河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等 |
| IV ブナクラス域自然植生 | IX 植林地・耕作地植生 |
| V ブナクラス域代償植生 | X その他 |

*2. 大・中・細の各段階は 2 桁のコードと大区分名・中区分名・細区分名で示される。凡例はコードを結合した 6 桁の凡例コードと大・中・細の最下位の区分名を示した凡例名で略記される。群落を区別するために群落の後の（ ）に植生区分を示す場合がある。(表 1.7.2)。

表 1.7.2 凡例コードと凡例名

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡例コード	凡例名	区分レベル
V	22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	01	オクチヨウジザクラ コナラ群集	220501	オクチヨウジザクラ ーコナラ群集	細
V	22	落葉広葉樹二次林	05	(コナラ群落)	00	-	220500	コナラ群落 (V)	中
V	26	(伐採跡地群落)	-00-	-	00-	-	260000	伐採跡地群落 (V)	大

1.7.5 隣接植生図との調整

整備地域が過年度整備済み植生図と隣接する場合、表 1.7.2 に示しためやすに従って図化するものとする。

本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、該当ブロックと調整を図りながら図化を進めることになるため、幹事法人が情報提供等の支援を行う。

表 1.7.2 整備地域間の植生図不整合の内容と対応策

項目	内容	対応策
経年変化	松枯れ、伐採、土地改変（道路）等	そのまま不整合とする
図化精度	竹林など（1ha 前後的小パッチ）	くくりの細かさは基本的に 1/5 万植生図を下回らないようにする
	くくり全体の精粗の傾向	地域ごとの図化精度のモデルが必要
凡例の考え方	中区分一細区分	そのまま不整合とする
	クラス域	めやすとなる広域のクラス域区分図を整理し、参考とする
	移行帶（日本海－太平洋、クラス域、常緑－落葉）	ブロック調査会議等の協議により対応策を検討する。

1.7.6 GIS データの仕様

植生図の GIS データ及び出力図（紙地図、画像ファイル）の仕様は「植生図 GIS データ製品仕様書」に、作成方法については「植生図 GIS データ作成ガイドライン」による。

1.8 植生図の図化指針

植生図化とは、植生に関する基礎的な知見を持つ作業者が、現地調査結果を反映させながら画像判読を行い、植生と立地環境の関係を明らかにして、植生の配分を地形図上に図化していく作業である。本業務では、植生学の基礎的な知見と現地調査結果に基づき、以下に示す指針に準じて図化を進めるものとする。図化精度は、植生図の区分線の位置精度や、不可とする事例を示した「全国レベルの精度基準（資料 1）」に適合するものを基準とする。

- 1 植生の水平的、垂直的な分布パターンを正しく認識して図化を行う。
- 2 地形の構成や微地形の配列に基づく植生配分を正しく図化する。
- 3 自然植生と代償植生の区別を正しく行う。
- 4 特殊な立地における植生や希少な群落を漏れなく図化する。

1. 調査の概要	1
1.1 目的	1
1.2 経緯	1
1.3 本要領の位置づけ	1
1.4 調査対象地域	2
1.5 実施体制	3
1.6 業務管理サイト	6
1.7 植生図の基本的仕様	7
1.7.1 基図	7
1.7.2 判読画像	7
1.7.3 最小表示面積	7
1.7.4 凡例	7
1.7.5 隣接植生図との調整	8
1.7.6 GIS データの仕様	9
1.8 植生図の図化指針	9

2. 植生図の作成方法

2.1 植生図の作成工程

植生調査業務における植生図の作成工程を表 2.1.1 に、作成フローを図 2.1.1 に示した。

現地調査法人は、作成フロー及び表 2.1.2 に示した工程スケジュールに従って業務を実施する。オルソ画像、衛星画像等のデジタル画像をディスプレイ上に表示し、判読しながら GIS 入力する場合は、「植生判読」と「植生図 GIS データの作成」工程を並行して進めることとなり表 2.1.1 の（2）に示した工程となるが、本要領では（1）の工程に沿って植生図作成方法を示す。

現地調査法人は、植生図の図化精度確保及び作業進捗状況の確認のために必要な資料(以下「管理資料」という。)を工程ごとに作成し、幹事法人及び環境省に提出する。幹事法人の確認及び環境省の承認が得られない場合には、その時点までの業務として業務を中断し、変更契約または契約を解除することがある。

表 2.1.1 植生図の作成工程

	(1) 植生原図作成後に GIS 入力する場合	(2) 植生判読しながら GIS 入力する手法
1	計画・準備	計画・準備
2	植生判読及び現地調査	植生判読 <u>・GIS 入力</u> 及び現地調査
3	第1回ブロック調査会議	第1回ブロック調査会議
4	凡例検討部会	凡例検討部会
5	植生図 GIS データの作成	—
6	第2回ブロック調査会議	第2回ブロック調査会議
7	植生分科会	植生分科会
8	成果品の作成	成果品の作成
9	納品	納品

■ : 環境省・幹事法人・現地調査法人の打ち合わせ (◆必須)、□ : 現地調査法人が行う作業

◆ : 幹事法人の確認と環境省の承認

工程スケジュール

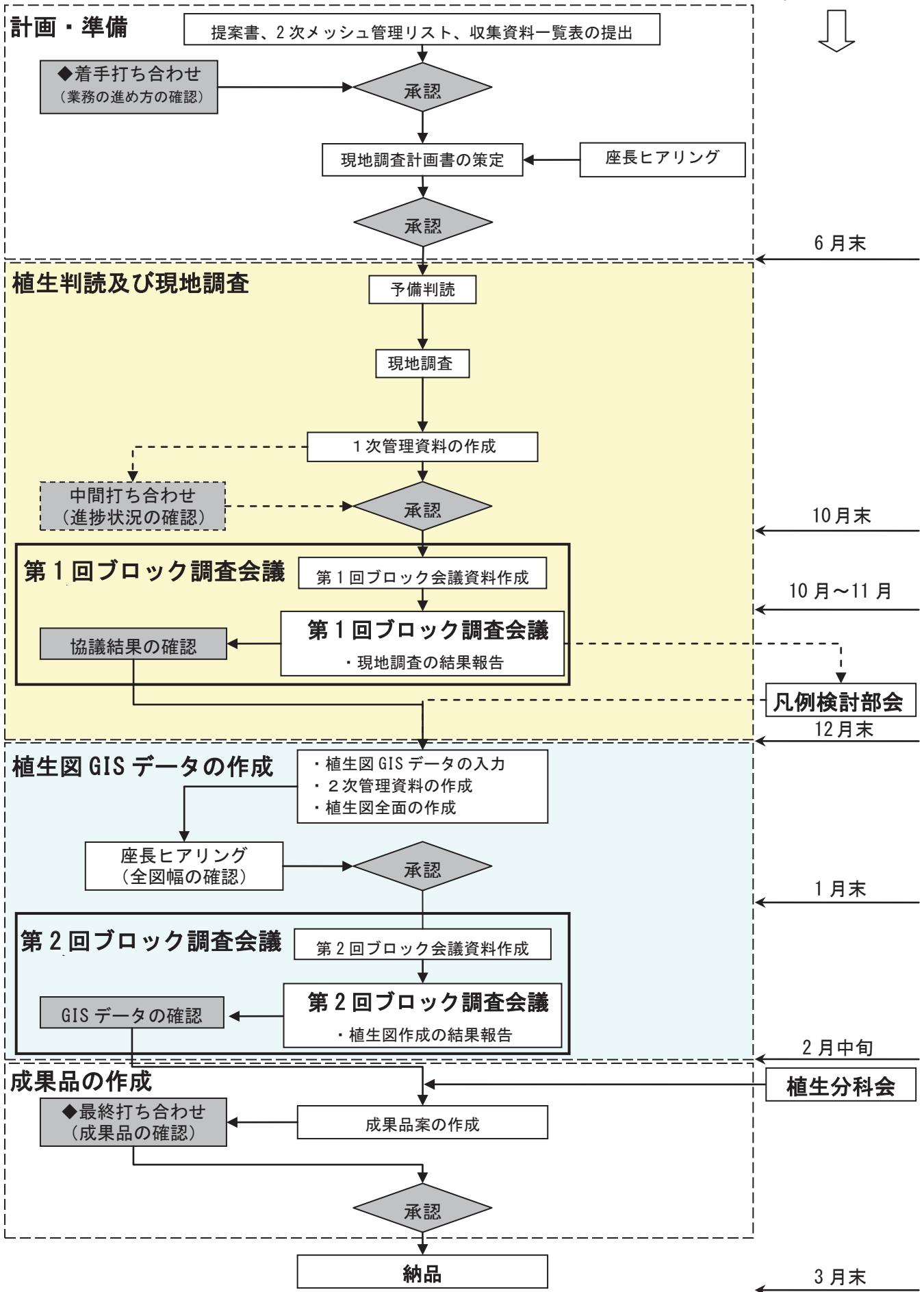


図 2.1.1 植生図作成フロー

表 2.1.2 植生図工程スケジュールのめやす

項目	H25年								H26年			備考
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
0 打ち合わせ・協議		● 着手時			○ 進捗状況確認	● 第1回ブロック調査会議後			○ 進捗状況確認	● 第2回ブロック調査会議後	● 納品前	○：必要に応じて実施
1 計画・準備		○ ヒアリング										
2 植生判読及び現地調査			—				—					
3 第1回ブロック調査会議						●						
4 凡例検討部会								●				
5 植生図GISデータの作成							—	—	—	—		
6 第2回ブロック調査会議									●			
7 植生分科会										●		
8 成果品の作成										—		
9 納品											● 納期：3月31日	

※判読しながら GIS 入力を行う場合は、工程 2 と工程 5 が連続する。

2.2 工程管理

2.2.1 管理資料の確認・承認手順

現地調査法人が作成・提出する管理資料を表 2.2.1 に示した。現地調査法人は、管理資料（案）を作成し、環境省及び幹事法人に同時に提出する。管理資料の提出に際しては、本業務用に運営されている「業務管理サイト」（1.6 参照）にアップロードし、アップロードしたことを環境省及び幹事法人に電話またはメールで連絡する。

幹事法人は、現地調査法人から提出された管理資料（案）について、全国レベルの精度基準等に照らして内容を確認し、環境省と調整の上、必要に応じて現地調査法人に修正を指示する。現地調査法人は管理資料（案）の修正を行い、管理資料の提出と同様の手順で、修正後の管理資料を環境省及び幹事法人に再提出する。修正が不要となった段階で、環境省が承認する。

それぞれの管理資料の確認・承認を受ける期日等の日程に関しては、原則として各打ち合わせ時に協議して定める。日程の変更が必要な場合には、環境省、幹事法人及び現地調査法人が協議し、日程を定める。

現地調査法人は、環境省の承認を受けた後に管理資料の内容を変更しようとする場合には、環境省及び幹事法人に変更案を提出し、当初の管理資料の確認・承認と同様の手順により変更案を確定させる。

表 2.2.1 工程ごとに作成・提示が必要となる資料

工程	管理資料		資料の提出・承認		承認後に着手できる工程
	資料名	資料の内容	提出のみ	確認・承認	
計画・準備	2次メッシュ管理リスト	2次メッシュ別の管理者、作成者、判読画像等の情報をまとめたリスト		●	着手打ち合わせ時に協議する
	2次メッシュ工程表	2次メッシュ別の植生図作成工程をまとめた工程表		●	
	収集資料一覧表	整備地域の植生に関して収集した文献資料の一覧表	●		
	提案書（実施計画書）	業務の実施方針、実施体制、工程計画等をまとめた計画書		●	
	着手打ち合わせ記録簿	環境省、現地調査法人および幹事法人による着手打ち合わせの記録簿		●	ヒアリング対象者に確認をいただく
	ヒアリング調査票	ブロック統括委員、ブロック検討委員および学識経験者等のヒアリング記録をまとめた調査票		●	
	現地調査計画書	現地調査の重点地域、使用凡例案、調査スケジュール、調査の実施体制等をまとめた計画書		●	現地調査
植生判読および現地調査	1次管理資料：使用凡例案	整備地域の凡例（案）の一覧表		●	第1回ブロック調査会議の1ヶ月前までに提出
	1次管理資料：図化基準案	空中写真での特徴（判読キー）、凡例の決定方法、類似する群落との区別点、分布・立地などを凡例ごとにまとめた一覧表		●	
	1次管理資料：1次確認用植生図	重点地域から選定した植生図の一部（植生図成果の最終的な凡例適用を想定したもの）		●	
	1次管理資料：1次確認用植生図一覧表・一覧図	1次確認用植生図の各画面の管理者、作成者、判読写真、判読上の問題点等の一覧表と1次確認用植生図の一覧図		●	
第1回ブロック調査会議	第1回ブロック調査会議資料	第1回ブロック調査会議の配付資料		●	会議の7日前までに提出
	作成中の植生図全図	作成途中の植生図全図	●		第1回ブロック調査会議で提示する。
	中間打ち合わせ記録簿	第1回ブロック調査会議後に行う環境省、現地調査法人および幹事法人による打ち合わせの記録簿		●	植生図の作成
	第1回ブロック調査会議議事録および議事概要	第1回ブロック調査会議の議事録および議事概要		●	
凡例検討部会	仮凡例検討資料（仮凡例があるブロックのみ）	仮凡例の内容、既存凡例との違い、組成調査票、調査地点位置図、既存資料等、仮凡例検討に必要な資料	●		—
植生図の作成	2次管理資料：使用凡例案	第1回ブロック調査会議以降の検討結果を反映した凡例（案）の一覧表		●	第2回ブロック調査会議の1ヶ月前までに提出
	2次管理資料：図化基準案	第1回ブロック調査会議以降の検討結果を反映した図化基準（案）		●	
	2次管理資料：2次確認用植生図	1次確認用植生図の範囲を含む画面一面（整備地域5面あたり1面の頻度で作成）		●	
	2次管理資料：2次確認用植生図一覧表・一覧図	2次確認用植生図の各画面の管理者、作成者、判読写真、判読上の問題点等の一覧表と2次確認用植生図の一覧図		●	
	2次管理資料：1次確認用植生図の反映結果図	幹事法人の1次確認用植生図確認結果に、指摘事項の反映結果を記入した図		●	
第2回ブロック調査会議	第2回ブロック調査会議資料	第2回ブロック調査会議の配付資料		●	会議の7日前までに提出
	植生図全図	植生図案（GISデータ出力図）全図		●	第2回ブロック調査会議で提示する。
	中間打ち合わせ記録簿	第2回ブロック調査会議後に行う環境省、現地調査法人および幹事法人による打ち合わせの記録簿		●	成果品の作成
	第2回ブロック調査会議議事録および議事概要	第1回ブロック調査会議の議事録および議事概要		●	
植生分科会	植生分科会資料	植生図案から得られた知見等をまとめた資料および植生図全図	●		—
成果品の作成	成果品案：GISデータ出力図及び接合部修正案	植生図GISデータ出力図全図、過年度植生図との接合部で修正が生じた場合の修正案		●	最終打ち合わせまでに提出
	成果品案：電子ファイル	植生図GISデータ、報告書案ファイル、現地調査データ		●	
	成果品案：報告書案	植生調査実施要領に準じてまとめた報告書案		●	
	2次確認用植生図の反映結果図	幹事法人の2次確認用植生図確認結果に、指摘事項の反映結果を記入した図		●	
	最終打ち合わせ記録簿	環境省、現地調査法人および幹事法人による最終打ち合わせの記録簿		●	納品

※ブロック調査会議日程の調整は、管理資料の承認前にあってよい。

2.2.2 打ち合わせ

着手、中間、最終の時点で現地調査法人、環境省及び幹事法人との3者等での打ち合わせを持つ。必要に応じ、これ以外の時点にも3者での打ち合わせを行う。現地調査法人は、打ち合わせにおいて協議した事項を「打ち合わせ記録簿」(表 2.2.2)にとりまとめ、打ち合わせ後7日以内に環境省及び幹事法人に提出し、承認を得る。

表 2.2.2 打ち合わせ記録簿フォーム

打ち合わせ協議簿

No.	1	調査年度	2013	ブロック		1 / 2 頁	
件名	平成25年度自然環境保全基礎調査植生調査 △△△△				記入者名	所 属	記入日
日 時		場 所		打ち合わせ方法		留意事項	
年 月 日 () 時 ~ 時				面談・電話・メール			
参 加 者	現地調査 法人	所 属	代表者氏名	△/△ 送付	参加者氏名		
	環境省	所 属	代表者氏名	△/△ 承認	参加者氏名		
	幹事法人	所 属	代表者氏名	-	参加者氏名		
	その他	所 属	代表者氏名	-	参加者氏名		
	協議内容						
着手打ち合わせ事項 1. 作業方針 ①植生情報の収集方針 ②既存資料の活用方針 ③主判読画像の選定方針 ④図化手法及びGISデータ作成手法 ⑤図幅ごとの精度管理手法 ⑥ブロック統括委員等のヒアリング予定 ⑦現地調査の進め方及びスケジュール 2. 実施体制 3. 工程計画							

(1) 着手打ち合わせ

判読画像、既存資料等を収集・整理し、業務全体の工程計画が策定された段階で実施する。

着手打ち合わせでは、提案書、2次メッシュ管理リスト(案)、2次メッシュ別工程表(案)収集資料一覧表の内容について確認するとともに業務の進め方について協議し合意を図る。

現地調査法人は、提案書2次メッシュ管理リスト(案)、2次メッシュ別工程表(案)収集資料一覧表を協議資料とする。幹事法人は、1/5万植生図凡例一覧等協議に必要な資料を提供する。

協議の結果、協議資料の内容で合意された場合は、出席者の確認を得た打ち合わせ記録簿の提出をもって、幹事法人の確認、環境省の承認とする。

打ち合わせ協議の結果、協議資料の修正が必要となった場合には、現地調査法人は、提案書を修正し、環境省及び幹事法人に提出する。その後の確認・承認の手順は2.2.1 管理資料の確認・承認手順に示すところによる。

(2) 中間打ち合わせ

原則として第1回ブロック調査会議及び第2回ブロック調査会議終了後（当日）に、ブロック統括委員等にも出席いただき実施する。打ち合わせの内容は、本章の2.5.4、2.8.4による。そのほか、必要に応じて、環境省、現地調査法人、幹事法人、ブロック統括委員等の委員と中間打ち合わせを行う。会議当日に打ち合わせを実施できない場合は、現地調査法人は、電話、メール等で環境省及び幹事法人、ブロック統括委員等と調整を行う。

現地調査法人は、中間打ち合わせ終了後に打ち合わせ記録簿を作成し、環境省及び幹事法人に提出する。

(3) 最終打ち合わせ（成果品の確認）

最終打ち合わせを納品前に実施する。最終打ち合わせでは、植生図成果品の全てについて幹事法人及び環境省の確認を受ける。確認の内容は、本章の2.10.3による。

幹事法人は、必要に応じ、最終打ち合わせ前に植生分科会座長またはブロック統括委員等の協力を得て成果品の確認を行い、最終打ち合わせでの協議に反映させるものとする。

現地調査法人は、最終打ち合わせ終了後に打ち合わせ記録簿を作成し、環境省及び幹事法人に提出する。

2.3 計画・準備

2.3.1 判読画像の入手及び確認

1.7.2に示した判読画像の仕様に従い、判読画像を入手する。整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の資料4も参照する。撮影年月日、画像の解像度、雲影・山影の状況等を精査し、図幅ごとに主判読画像および判読参照画像を選定し、図幅ごとの判読画像を2次メッシュ管理リストにとりまとめる。図幅ごとに使用した画像の履歴を記録できるよう作業体制を整える。同一図幅でも場所ごとに主判読画像が異なる場合は、複数の主判読画像について「左半分は○○、右半分は△△」等の説明を2次メッシュ管理リストの備考欄に記載する。作成工程の途中段階で主判読画像を変更する場合、判読参照画像を追加・不使用とした場合は、2次メッシュ管理リストを更新し、幹事法人に更新した2次メッシュ管理リストを提出する。

なお、空中写真を購入する際には、植生判読に適した焼付となるよう、購入元と交渉を図るとよい。

主判読画像

植生判読において、ポリゴンの区分線を入れる根拠とした判読画像を主判読画像とする。できるだけ撮影年月日が最新のものが望ましい。判読画像の解像度、撮影時期によって、図幅ごと、あるいは場所ごとに主判読画像が異なる場合もあるため、作成者は使用履歴を記録しておく。

判読参照画像

主判読画像以外に使用した判読画像を判読参照画像とする。各ポリゴンの凡例決定の際、撮影時期の異なる複数の判読画像を比較すると、凡例決定が効率的となる。

2.3.2 既存資料の収集および活用方法の検討

(1) 既存資料の収集・整理

現地調査法人は、地域の植生に詳しい学識経験者や専門家等の協力を得ながら、地域の植生に関する情報や、地方自治体で作成した報告書や植生図などを収集し、次のような植生情報を整理する。情報収集は整備地域を中心とするが、該当する調査ブロック全体を対象とする。

収集した植生情報の位置情報等を整理することにより、植生分布の特徴について把握する。

植生分布に関する情報

- 特殊立地、自然植生に関する情報
- 島嶼部や高山地域のように現地調査実施が困難な地域の植生情報
- 分布が極めて限定される植生に関する情報
- 標高、地形・地質、気象・気候等の立地環境条件に関する情報

統一凡例の検討に関する情報

- 統一凡例の細分・修正等の検討の必要性が高い植生に関する植生情報

収集した資料は、位置情報をもとに整理し「収集資料一覧表（表 2.3.1）」としてとりまとめる。幹事法人は現地調査法人から得た情報を「既存資料データベース」に追加・整理する。

表 2.3.1 収集資料一覧（例）

1) 既存文献情報は既存資料データベースの既存文献情報テーブルに、位置情報は位置情報テーブルへ組みこむ。
2) A:学会誌、紀要等、B:報告書等、C:環境影響評価書、D:その他

既存文献情報1)														
文献ID	プロック文献No	収集年度	文 獻 区 分	タイトル	著者	発行年	出典_名称	出典_巻_号数	出典_pp	出典_発行者	公開の可否	問合せ先	資料の有無	資料保管法人
	8	2010	B	遠音別岳原生自然環境保全地域の植生系調査の概要と気象環境特性	甲山隆司・工藤岳・西村青司	1997	遠音別岳原生自然環境保全地域調査報告書		13-27	環境庁自然保護局	可		有	○○株式会社
	9	2010	D	北海道高山植生誌	佐藤謙	2007			210-225	北海道大学出版会	可		有	○○株式会社
	22	2010	A	野付崎放牧草地の植生	西村裕・安達篤	1975		第21巻 第3号別刷		日本草地学会誌	可		有	○○株式会社
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

(2) 既存資料の活用方法

現地調査法人は、過年度までに作成された「既存資料データベース」と当該年度に新たに収集した既存資料より、調査年度や植生の変化状況などを考慮し、活用方法を検討する。以下に、既存資料の活用方法の留意点を示す。なお、既存資料活用の検討結果については、後述するヒアリング調査結果も含め、図化の参考とともに報告書に記載する。

1) 整備地域に分布する群落・群集に関する資料

ブロック別凡例案の検討資料として活用する。

2) 位置情報の明らかな既存の植生調査資料

以下のような地域については、植生状況が既存資料の調査当時と変化していないことを判読画像等によって確認した上で、現地調査を補完する植生調査資料として活用する。

- 離島島嶼部や高山地域のように現地調査を実施しにくい地域
- 分布がきわめて限定されている群落の分布する箇所

3) 1/5 万植生図等の既存の植生図

整備地域及びその周辺の自然植生、二次林、植林の分布状況を主体として、1/5 万植生図等既存図面の引用方法・参照方法を決定する。自然植生、二次林、植林で大きな変化のない箇所は、必要に応じて現地確認を行い、既存資料の凡例から統一凡例への読みかえを決定する。

4) 地形図情報、森林施業図等の地理情報

地形図に示された水田、農耕地、水域等の土地利用情報や、国有林・県有林・民有林の施業履歴を植生図化に利用する場合、土地利用の現状や施業履歴データの内容を確認した上で、それらの地理情報の活かし方を打ち合わせ又はブロック調査会議等で協議する。

2.3.3 2次メッシュ管理リストおよび2次メッシュ別工程表の作成

適切な工程管理を行うため、現地調査法人は、2次メッシュ別の管理者、作成者、現地調査者、判読画像等の情報をまとめた「2次メッシュ管理リスト（表 2.3.2）」および「2次メッシュ別工程表（表 2.3.3）」を作成し、幹事法人及び環境省に提出する。なお、「2次メッシュ管理リスト（案）」は着手打ち合わせ時の資料とする。

2次メッシュ管理リストおよび2次メッシュ工程表は、幹事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である（確認及び承認の手順は「2.2.1 管理資料の確認・承認手順」参照）。

同一図幅を複数の作成者で判読する場合は、主たる作成者を作成者欄に記載する。2次メッシュ別の工程表には、判読工程、現地調査工程、GIS 入力工程の予定を記入する。また、1次確認用植生図の対象図幅を示す。

業務の途中で使用する判読画像、作成者等を変更する場合は、事前に環境省及び幹事法人と協議する。また、判読作業の精度確保のため作成者が優占種調査等の現地調査者を兼ねることを基本とする。現地調査者は原則として2名以上を配置する。

業務管理者は、作業の進捗とともに2次メッシュ工程表に作業実績を記入して進捗管理を行い、中間打ち合わせ時または必要に応じて環境省及び幹事法人に提出して進捗状況の報告を行う。

表 2.3.2 2次メッシュ管理リスト（例）

プロジェクトコード	アカウト整理番号	地形図情報		植生図作成情報										空中写真諸元										空中写真備考				
		2次メッシュコード	整備方法 (1/2.5万地形図)	注1 1)	注2 1)	1/5万地形図	都道府県	ブロック	植生図作成年度	作業単位コード(1)	植生図作成機関	被生図作成者	被生図管理者	被生図作成者	他作成者	撮影主体3)	白黒・ カラー(4)	整理番号	他整理番号	撮影地区	写真縮尺	他縮尺	撮影年月	他季節	写真枚数	デジタルオルソ	その他補助的に用いた空中写真・資料化の有無	GISコード
1 1	654571	GIS	遠音別岳②	2		八木浜	北海道	北海道	2010	10 ○○(株)	植生太郎	植生花子	3	環境省	3 PTH-42号		知床半島	20,000	2004.11	5	使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1			2004.11		
1 2	654570	GIS	遠音別岳	1		八木浜	北海道	北海道	2010	10 ○○(株)	植生太郎	植生花子	3	環境省	3 PTH-42号		知床半島	20,000	2004.11	6	使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1			2004.11		
1 3	654560	GIS	根室峠浜			八木浜	北海道	北海道	2010	10 ○○(株)	植生太郎	植生花子	2		1 04-24		第3知床・羅臼	16,000	2004.7	23	未使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1	C12(16-21) C13(16-21) C14(17-21) C15(16-21)		2004.7.23		
1 4	654550	GIS	裏別			裏別	北海道	北海道	2010	10 ○○(株)	植生太郎	植生花子	2		1 04-24		第3知床・羅臼	16,000	2004.7 2004.9	12	未使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1	C16(17-20) C17(4-7) C18(4-7)		2004.7.23 2004.9.16		
1 5	654541	GIS	伊奈仁②	2		裏別	北海道	北海道	2010	10 ○○(株)	植生太郎	植生花子	2		1 04-24		第3知床・羅臼	16,000	2004.7 2004.9	1	未使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1	C22A(7)		2004.7.3 2004.9.16		
1 6	654540	GIS	伊奈仁①	1		裏別	北海道	北海道	2010	10 ○○(株)	植生太郎	植生花子	2		1 04-24		第3知床・羅臼	16,000	2004.7 2004.9	20	未使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1	C19(A-4-7) C20(A-4-8) C21(16-21) C22A(1-6)		2004.7.3 2004.7.23 2004.9.16		
1 7	654532	GIS	野付崎①	2		野付崎	北海道	北海道	2010	10 ○○(株)	植生太郎	植生花子	1		1 HO-2005-5X		根室	30,000	2005.10	2	未使用	使用(環境省50000分の1植生図)	1	C2(21-22)		2005.10.7- 2005.10.27		

表 2.3.3 2次メッシュ別工程表フォーム

NO	作成者	1次確認用植生図	図幅管理番号	図幅名	2次メッシュ番号	H25												H26												備考
						5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
(例)																														
1 0000		01 △△	101010							★										★										
		05 □□	...							★										★										
	●	06 ××	...							★										★										
2 △△△△		02	...							★										★										
	●	03	...							★										★										
	●	04	...							★										★										
	●	07	...							★										★										
	●	10	...							★										★										
3 □□□□		11	...							★										★										
	●	12	...							★										★										
	●	13	...							★										★										
	●	14	...							★										★										
	●	15	...							★										★										

第1回ブロック調査会議

第2回ブロック調査会議

2.3.4 着手打ち合わせ

2.3.1～2.3.3 の工程で検討した結果を踏まえ、環境省、現地調査法人および幹事法人にて着手打ち合わせを行う。着手打ち合わせの詳細は、2.2.2 を参照する。

2.3.5 ブロック統括委員等のヒアリング

現地調査法人は、判読画像の整理、地域植生情報の収集、既存資料の活用方法を検討した後、仕様書に定めるブロック統括委員と整備地域に係わる都道府県のブロック検討委員等にヒアリングを行う。複数委員による合同ヒアリング（ワーキング形式）で実施してもよい。ヒアリング（ワーキング）の実施方法、時期については、環境省、幹事法人、ブロック統括委員等と調整を図る。

ヒアリングでは、提案書、現地調査計画書、既存資料等の資料を示して業務の進め方について説明を行い、以下の事項等について助言を得る。現地調査法人は、ヒアリング後1週間以内に協議結果を「ヒアリング調査票」にとりまとめ、環境省及び幹事法人の他、ヒアリング参加者に提出する。

(1) 重点地域の選定

自然植生等の重要な植生、植生判読の難しい地域、植生の分布境界が不明瞭な地域等、植生図化の精度管理、現地調査を重点的に行う地域（重点地域）を協議の上、選定する。なお、重点地域は、現地調査法人が、第1回ブロック調査会議前に提出する「1次確認用植生図」の対象範囲に対応させる。

(2) 現地調査の留意点

現地調査すべき群落とその調査方法等について教示いただく。必要に応じて、現地調査に入る前に現地調査計画書をブロック統括委員に提出する。

(3) 隣接植生との接合

統一凡例に置換した1/5万植生図全体図、整備地域の隣接地域で過年度に作成された1/2.5万植生図を含めた全体図を作成し、クラス域の境界、隣接植生との不整合等、植生図を作成する上で予測される課題を協議する。

(4) 専門家等の紹介

ブロック統括委員およびブロック検討委員が整備地域の情勢や植生に詳しい専門家等をご存じの場合は、紹介していただき、必要に応じてヒアリング等を行う。

(5) 既存資料（地域植生情報）

2.3.2 にて収集した資料等を提示し、既存調査結果を利用できる地域等の確認を行う。また、提示した資料の他に整備地域に関わる植生情報について、未公表の植生情報を中心に紹介していただく。

2.3.6 現地調査計画書の作成

現地調査法人は、表 2.3.4 に示した項目・内容を含む現地調査計画書（案）を作成し、幹事法人及び環境省に提出する。

現地調査計画書は、幹事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である（確認及び承認の手順は「2.2.1 管理資料の確認・承認手順」参照）。

現地調査計画書（案）の作成にあたっては、ブロック統括委員等のヒアリング結果等を踏まえて現地調査を重点的に行う地域、凡例検討に多数の調査地点数を必要とする凡例、調査結果を引用できる既存資料等の確認を行う。整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の資料 4 も参照する。また、現地調査計画書（案）の作成に際して、必要に応じて現地視察を行うこと。

組成調査の調査時期・地点等については、ブロック統括委員等と協議を行った上で現地調査計画書に反映させる。調査時期については、北海道ブロック・東北ブロック等の山岳地域については 9 月末までに、その他の地域については 10 月末までに終了することが望ましい。

表 2.3.4 現地調査計画書の項目

1. 現地調査のポイント：重点的に調査すべき地域や凡例等
2. 隣接植生図との調整：隣接部の重点調査地域、特に注意すべき植生・構成種等
3. 現地調査計画図：現地調査計画、主要な植生の位置等をまとめた全体図
4. 現地調査地点配分表：図幅別、凡例別に調査地点数の配分をまとめた一覧表
5. 使用凡例案：植生図での使用凡例の一覧表
6. 現地調査に係わる許認可事項：立ち入り許可、届出の必要な地域
7. 現地調査の実施体制：現地調査者一覧表、安全管理対策等

(1) 現地調査のポイント

下記等の特に重点的に調査すべき地域・凡例や、現地調査に関わる留意事項等、整備地域における現地調査の要点について記述する。

- 一次確認用植生図の対象図幅
- 特殊立地の植生
- 二次林等、群落境界が不明瞭と考えられる凡例
- 自然性の高い植生
- 特定植物群落
- 季節的に早く落葉・枯死してしまう植生（早く調査を実施すべき植生）
- ヒアリングで指摘された地域・凡例
- 新規凡例となる可能性がある凡例
- 隣接植生図と整合性を図る凡例 など

(2) 隣接植生図との調整

整備地域が、過年度整備済み植生図または本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、接合部調整に必要な現地調査の重点箇所、注意すべき凡例、調査時期等についてまとめる。特に本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、環境省及び幹事法人と調整の上、必要に応じて隣接ブロックの担当現地調査法人と協議して効率的な現地調査計画を作成する。

(3) 現地調査計画図

1/2.5万地形図、第2回～第7回植生図 GISデータ等を用いて、現地調査の重点地域、1次確認用植生図の対象図幅、既存資料の活用地域または箇所（特定植物群落、自然公園地域等）を記載した現地調査計画図を作成する。以下に、留意事項を示す。

- 図面類の体裁は、地形図等に手書き記入する程度でもよい。
- 調査対象地域全体の現地調査計画が確認できるよう、縮尺1/20万程度の地形図に書き込むとわかりやすい。対象地域が広い場合は、作業しやすい図郭に区切って作成してもよい。
- 特に重点的な現地調査を行うべき地域等は、必要に応じて、1/2.5万～1/5万程度の地形図や1/5万植生図を基図とした現地調査計画図を作成してもよい。

(4) 調査地点配分表

既存資料の活用方針（既存資料による現地調査の補完等）を考慮して、「2.4.2 現地調査」に示す調査手法による組成調査及び優占種調査を行う地点配置（ばらつき）を検討する。

調査地域全体における植生分布の偏りの概要を把握するため、1/5万植生図 GISデータ（凡例を統一凡例で置換したもの）を用いた2次メッシュ別の凡例面積集計表を作成した上で、組成調査及び優占種調査の地点配分表を作成する（表2.3.5）。

表 2.3.5 調査地点配分表の例

凡 例		図 幅						
		1	2	3	4	5	…	…
判読対象 I	自然林	ヤマボウシープナ群集	1～2					
		シキミーモミ群集	1～2					
		イロハモミジーケヤキ群集						
	二次林	クリーミズナラ群集		2～5				
		クリーコナラ群集		2～5				
判読対象 II	植林地	スギ・ヒノキ・サワラ植林						
		カラマツ植林						
	…	…						

(5) 使用凡例案

1/5万植生図の凡例、既存資料及びブロック統括委員等のヒアリング結果より、植生図の使用凡例案（表 2.3.6 表 2.3.6）を作成する。凡例名、凡例コード等は巻末資料3に従う。過年度整備済み植生図または本年度の他ブロック整備地域と隣接する場合は、隣接図幅の凡例も入れて凡例案を作成する。現地調査では、使用凡例案の各凡例について植生情報を収集する。

表 2.3.6 使用凡例案（例）

凡例番号	凡例コード	凡例名	植生区分コード	大区分	中コード	中区分	細コード	細区分	区分レベル	更新状況	注記	副凡例	調査品目（津浦）	組成	現地調査番号	第5回調査番号	接合部凡例	接合部凡例	接合部凡例	接合部凡例	現地調査番号	第5回凡例（青木）	接合部凡例	接合部凡例	接合部凡例
1	220503	ユキグニミツバツツジ-コナラ群集	V	22 落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	03	ユキグニミツバツツジ-コナラ群集	細C	辺の定義による	●	34,36		●											
3	271201	ヤブコウジ-スダジイ群集	VI	27 常緑広葉樹林	12	スダジイ群落	01	ヤブコウジ-スダジイ群集	細C		●	25													
4	280500	〔スキ〕群落	VI	28 暖温帯針葉樹林	05	スキ群落	00		中C											●	2				
5	320100	〔ヤナギ〕高木群落(Ⅵ)	VI	32 河辺林	01	ヤナギ高木群落	00		中											●	4				
9	450100	〔スキ〕群落(Ⅳ)	VI	45 二次草原	01	スキ群落	00		中											●	3,9				
18	460000	〔伐採跡〕群落(Ⅷ)	VI	46 伐採跡地群落	00		00		大			●	22												
8	490000	〔秒〕群生	VI	49 秒生	00		00		大			●	14,17,19								●	6,7,8,8-2			
39	470400	ヨクシク	VI	47 混生-河川-池沼植生	04	ヨクシク	00		中																
40	470600	ヒルムシロクラス	VI	47 混生-河川-池沼植生	06	ヒルムシロクラス	00		中			●	28												
12	540100	〔スキ〕-ビキ-サワラ群林	IX	54 種林地	01	スキ-ビキ-サワラ群林	00		中			●	31												
13	540300	〔カズマ〕-梅林	IX	54 種林地	03	クロマツ-梅林	00		中			●	●												
S1	540802	〔ニセアシア〕群落	IX	54 種林地	09	外国産樹種群林	02	ニセアシア群落	細		●	20													
S2	541200	〔その他の樹林(落葉広葉樹)	IX	54 種林地	12	その他樹林(落葉広葉樹)	00		中	移		●	18												
16	550000	竹林	IX	55 竹林	00		00		大			●	29												
h	560100	〔ゴルフ場〕-芝地	IX	56 牧草地-ゴルフ場-芝地	01	ゴルフ場-芝地	00		中	判読区分h		●	●												
f	570100	路傍-空地被草群落	IX	57 耕作地	01	路傍-空地被草群落	00		中	判読区分f															
o	570101	放棄地被草群落	IX	57 耕作地	01	放棄地被草群落	01	放棄地被草群落	細	改	判読区分c														
e	570200	果樹園	IX	57 耕作地	02	果樹園	00		中	判読区分e															
a	570300	烟籠群落	IX	57 耕作地	03	烟籠群落	00		中	改	判読区分a														
b	570400	水田被草群落	IX	57 耕作地	04	水田被草群落	00		中	改	判読区分b														
d	570500	放棄水田被草群落	IX	57 耕作地	05	放棄水田被草群落	00		中	改	判読区分d														
k	580100	市街地	X	58 市街地等	01	市街地	00		中	判読区分k															
i	580101	〔緑〕の多い住宅地	X	58 市街地等	01	市街地	01	緑の多い住宅地	細	改	判読区分l														
L	580300	工場地帯	X	58 市街地等	03	工場地帯	00		中	判読区分L															
m	580400	造成地	X	58 市街地等	04	造成地	00		中	判読区分m															
w	580600	〔開放〕水域	X	58 市街地等	06	開放水域	00		中	判読区分w															
r	580700	自然湿地	X	58 市街地等	07	自然湿地	00		中	判読区分r			●	●											

(6) 現地調査に係わる許認可事項

現地調査に際しては、表 2.3.7 に示す法令等を遵守し、必要な申請の有無について記載する。標本の採取等については、原則として申請が不要になるよう写真で種を判別する等、調査方法を考慮する。やむを得ず申請する場合、国立・国定公園、国有林等の各種許可申請（立ち入り、採集等）については、担当機関への申請は原則として現地調査法人が行う。詳細は担当機関に問い合わせ、所定の様式に調査日程、同行者、調査ルートなどを具体的に記載し、必要に応じて環境省に協力依頼状の発行等を依頼し、許可申請を行う。申請書類等は調査適期を逸しないよう早めに準備する。また、採集に係わる許可証を得た場合には、各調査者は現地調査に際し許可証（必要に応じて許可証の写し）を必ず携行する。

表 2.3.7 標本採集に際し留意すべき法令等

法令等	関連機関	備考
文化財保護法	文化庁	注 1
絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境省	注 2
自然公園法	環境省	注 3
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律	環境省等	
その他の都道府県・市町村の条例等	都道府県・市町村	

注1：天然記念物を採集する可能性がある場合は、天然記念物の現状変更に該当するため、「文化財保護法」に基づき、文化庁・都道府県等に申請し、許可を得る。

注2：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種を採集する場合又は採集の可能性のある場合は、あらかじめ環境大臣と協議を行う必要がある。

注3：「自然公園法」の特別地域、特別保護地区での指定植物を採集する場合には、国立公園にあっては環境大臣、国定公園・県立公園にあっては都道府県知事の許可を受けなければならぬ。また、指定期間中、立入りが規制される区域があるため留意する。

(7) 現地調査者一覧表

現地調査の場所、時期、現地調査者を一覧表にして記載する。現地調査のうち、優占種調査および判読結果の現地確認作業は、植生判読の作業者が加わることを原則とする。

(8) 安全管理対策等

現地調査に際しては、以下のとおり安全の確保に十分配慮し、事故防止に努める。現地調査計画書に安全管理対策を明記し、現地調査者に周知する。

● 現地調査実施前の安全確認事項

- (ア) 現地調査計画は日程に余裕を持って作成し、現地調査の実施前に調査者間で工程、危険要素等について打ち合わせを行う。この結果、必要に応じて安全対策の追加や工程の組替えを行う。
- (イ) 作成している緊急時の連絡体制(組織内、警察署、消防署、病院、労働基準監督署等)を確認しておくとともに、携帯電話が通じない場合もあるので確実な連絡の実施計画を立てる。
- (ウ) 調査に適した服装、安全管理に必要な携行品を確認し、準備する(例：登山靴、ゴム長靴、軍手、雨具、防寒具、非常食、ヘルメット、救急セット、連絡体制表、熊鈴、通信機具(携帯電話・トランシーバー))。
- (エ) 野外に生息する危険な生物(ハチ、マムシ、クマ等)の被害を受けたときの対処(応急手当等)をあらかじめ確認しておき、薬品・必要な器具等を装備に含める。

● 現地調査時の注意点

- (ア) 現地調査実施時は、単独での行動は行わず、原則として2名以上で行動する。
- (イ) 天気予報等により天候、気象状況等を事前に確認し、危険が予想されるような場合には、適宜行程の見直しを行う。
- (ウ) ガレ場や崖地形、水域等、現地の地形に応じた危険への予知や想定を行い、十分な装備を持つとともに無理な行動は行わない。
- (エ) 降雨による急激な増水、急流や水域の深み、吹雪、猛獣・有毒生物との遭遇等、気象・水象の急変や生物的な危険が想定されることに十分留意しておく。
- (オ) 現地調査に入る前に調査に適した服装、安全管理に必要な携行品を再確認する。
- (カ) 水際の調査では、水没等の重大な事故に遭遇する可能性があるため、救命胴衣、安

全ロープ等の準備を十分に行う。

- (キ) 危険な生物(ハチ、マムシ、クマ等)に遭遇する危険を出来るだけ回避するよう心掛け
る(ハチの巣に近づかない等)。
- (ク) 車輌の運用前点検、及び交通法規を遵守した安全運転、悪路走行時の安全確認に努
める。また、地元車輌優先に心がける。

2.4 植生判読及び現地調査

2.4.1 予備判読

2.3 計画・準備で整理した空中写真及び既存資料をもとに、予備的な植生判読を行い、空中写真の色調、肌理、密度、樹高（群落高）、樹冠の大きさ等のパターンに着目して、空中写真での特徴（判読キー）を整理する。必要に応じ、1/2.5万地形図上に判読線を記入する。この段階で、素判読図（樹冠大・小、草地等の大まかな相観区分図）を作成しても良いが、判読が難しい部分を無理に区分しないよう留意する（判読が難しい部分は必ず現地で確認して区分すること）。

2.4.2 現地調査

現地調査では、空中写真及び1/2.5万地形図（予備判読結果、植生判読のキーとなる空中写真パターンの箇所や要確認箇所を記入したもの）を携行し、実際の植物群落の分布と空中写真とを現地で比較、照合することで判読キーを修正・再整理する。これらの作業と並行して、次に示した調査の目的に沿って組成調査と優占種調査を実施する。調査地点数の配分については、表2.4.1の判読対象区分も参考にする。なお、組成調査、優占種調査データを整理する際には、地域植物誌等の照合により誤同定のないようチェックを行う。

特に、整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の資料4を参照して効率的な調査を実施する。

表 2.4.1 判読対象区分

判読対象Ⅰ：自然林、特殊立地の植生

判読対象Ⅱ：植林地、低木林等

判読対象Ⅲ：農耕地、市街地など

(1) 組成調査

● 目的

植生図の凡例を決定するための調査。植物社会学的な植生調査手法に基づき、出現種や植生構造の調査を行う。凡例の根拠となる典型的な群落のデータを取得する。

● 地点

農耕地、市街地を除く全ての凡例及び、特定植物群落（地点位置が特定できない場合及び立ち入りが困難な場合を除く）において実施する。

地点数は、判読対象Ⅲを除く全ての凡例について、少なくとも1凡例につき2地点以上取得する。特に、判読対象Ⅰ、統一凡例に新たに追加する凡例については重点的に調査を行う。広範囲に分布する二次林の凡例については、1凡例につき1地形図あたり2地点以上取得する。二次林、自然林等の植生の境界域が不明瞭な場所については、想定される境界域の周辺において、調査地点数を多めに設定する。雪田など多種の小群落から成る複合体の凡例は、主たる群落のデータがあればよい。

調査地点の位置は、相観や立地条件が均質とみなされるような場所で、対象とする凡例の典型的な植生データを取得できるように設定する。林縁部や、異質の群落が隣接する境界部を含まないように留意する。

調査区の形と大きさは群落高と同等の長さを一片とする方形区を目安とする。調査区の大きさは調査面積を増しても出現種がほとんど増加しなくなるまでの最小面積が必要である。必要な面積があれば、調査区の形は方形区でも円形でもよく、群落の広がりに応じた不定形でもよい。

● 方法

階層別に出現種をリストアップし、被度・群度、立地環境等を組成調査票（表 2.4.2）に記録するとともに、記録写真撮影（外観、林内、林床）を行う。出現種の完全なリストであることと隣接群落の要素を含まないことが重要である。植生調査地点は GPS 等により正確な緯度経度を記録する。

※組成調査票は植生現地調査データベースの「調査地点一覧テーブル（調査地点概況）」と「植物表テーブル（出現種データ）」に入力し、素表を作成してデータの内容、同種異名等を点検する。なお、種の誤同定を避けるために、地域植物誌等との照合によるチェックを行う。また、可能な場合はブロック検討委員（あるいは該当地域のフロラに詳しい学識経験者等）に出現種リストをチェックしていただくことが望ましい。

表 2.4.2 組成調査の調査票例

植生調査票							調査年度 [2015]	
二次メッシュ		調査区分	法人ID	調査者ID	年月日	連番	組成調査	
地点コード	553913	02	013	001	100907	001	調査地点名	S09
二次メッシュ	553913	地形図名	男体山		調査年月日	2015年8月24日		
ブロック名	関東	都道府県名	栃木	市町村名	日光市湯元		出現種数	30
緯度	度 分 秒			新測地系	36度 49分 19.6秒			
経度	度 分 秒				139度 23分 34.9秒			
調査面積	10×10		海拔	2005m		方位	S30W	
傾斜	35°		地形	斜面中部		土壤	褐色森林土	
風当	強		日当	陽		土湿	適	
資料No.			資料名称					
発行年			発行者			記載された群落		
階層	優占種		高さ	植被率	胸高直径		種数	
高木層	オオシラビソ		13	70	38(max50)		4	
亜高木層	シラビソ		7	80	6		5	
低木層1	—		2.5	60	3		9	
低木層2								
草本層1	チシマザサ		1.2	100	—		24	
草本層2								
コケ層								
植生区分	II		凡例コード	050102	凡例名	シラビソーオオシラビソ群集		
大区分	亜高山帯針葉樹林		中区分	オオシラビソ群団		細区分	シラビソーオオシラビソ群集	
群落名	オオシラビソ群落							
被度群度	種名		被度群度	種名	被度群度	種名		
<高木層>			+	ダケカンバ				
3·3	オオシラビソ		+	タケシマラン				
2·3	コメツガ		+	ナナカマド				
2·2	シラビソ		+	ミヤマアキノキリンソウ				
1·1	ダケカンバ		+	ミヤマウラジロイチゴ				
<亜高木層>			+	ミヤマワラビ				
3·3	シラビソ							
2·2	オオシラビソ							
2·2	ナナカマド							
2·2	ネコシデ							
1·2	タカネザクラ							
<低木層1>								
2·2	オオカメノキ							
2·2	オオシラビソ							
2·2	シラビソ							
1·2	サラサドウダン							
1·2	ハクサンシャクナゲ							
1·1	ナナカマド							
1·1	ミネカエデ							
+	クロベ							
+	ムラサキヤシオ							
<草本層1>								
4·5	チシマザサ							
1·2	クマイザサ							
1·2	ゴゼンタチバナ							
1·2	コミヤマカタバミ							
1·2	サラサドウダン							
1·2	ツルツゲ							
++2	シノブカグマ							
++2	スゲ属の一種							
++2	スノキ							
++2	ツルリンドウ							
++2	ヘビノネゴザ							
++2	マイヅルソウ							
++2	ミネカエデ							
+	アズマシャクナゲ							
+	オオカメノキ							
+	オオバズノキ							
+	コメツガ							
+	シラビソ							
調査法人名	〇〇〇〇(株)							
調査者	〇〇〇〇							
代表写真	553913020130011009070010101.jpg							
備考								

(2) 優占種調査

● 目的

組成調査ができない箇所等において、植生判読作業を補足するための調査であり、判読画像の見え方に対して、植生の区分線と区分内容（凡例）をあてはめるための判読キーを収集する調査である。組成調査の簡易なタイプとして優占種や林内の区分種数種をリストアップして凡例を決定する調査（優占種調査 1）と、判読画像の見え方の現地照合を行うために、判読キーとなる地点の景観写真の撮影及び区分方法を記録する調査（優占種調査 2）がある。本調査は、原則として作成者（判読者）が行う。

● 地点

以下のような場所で、優占種調査を実施する。

- 植物群落（凡例）の分布パターンと判読画像との対応が典型的な場所（判読キーとして典型的な場所）
- 画像判読だけでは凡例を特定しにくい場所

判読対象 I に重点をおき、優占種調査 1・2 をあわせて 1 枚の地形図あたり 10~15 地点以上を目安として調査地点を設定する。判読対象 II のうち、凡例との対応が明瞭な地域については簡略化してもよい。判読対象 III は、原則として優占種調査は行わなくてもよいが、放棄耕作地等の遷移によって優占種の確認が必要な箇所は、必要に応じて調査地点を設定する。

なお、空中写真の見え方が鮮明でないために凡例が決定できない箇所等については、優占種調査地点のほかに、同様の群落をできるだけ多く現地で確認する。

● 方法

1) 優占種調査 1

優占種調査地点の相観を把握できるよう、優占種調査地点を外観できる記録写真を撮影し、撮影地点と撮影方向、相観的な特徴、優占種、群集標徴種や群落区分種等の凡例決定の指標となる林内の構成種、立地、空中写真の見え方、想定される凡例等について優占種調査票 1（表 2.4.3）に記録する。種の記載については、既存文献、過年度報告書等で事前に群落区分種、群集標徴種、立地、地域特性等の区分点を把握した上で、優占種以外の必要な種も含めなるべく階層別に 2 種まで記録する。

※ 優占種調査表 1 は植生 DB の調査地点一覧テーブルに入力する。

2) 優占種調査 2

画像判読の目安となるよう、見通しのよい地点から多種の群落の相観や立地の違い、群落相互の配分等が把握できる景観写真を撮影し、撮影地点と撮影方向、相観的な特徴、主たる凡例名、区分線の位置等について優占種調査表 2（表 2.4.4）に記録する。主たる凡例以外の凡例については備考欄に詳細に記載する。

※ 優占種調査表 2 は植生 DB の調査地点一覧テーブルに入力する。

表 2.4.3 優占種調査1の調査票例

植生調査票						優占種調査1		調査年度	2015
二次メッシュ	調査区分	法人ID	調査者ID	年月日	連番				
地点コード	553903	01	013	002	100824	001	調査地点名	Y01	
二次メッシュ	553903	地形図名	中禅寺湖				調査年月日	2015年8月24日	
ブロック名	関東	都道府県名	栃木	市町村名	日光市中宮祠		出現種数		
緯度	旧測地系	度 分 秒		新測地系	36度 44分 42.8秒				
経度		度 分 秒			139度 25分 0.5秒				
調査面積	10 × 10	海拔	1270m	方位	—				
傾斜	0°	地形	平地	土壤	褐色森林土				
風当	中	日当	陽	土湿	適				
資料No.		資料名称							
発行年		発行者		記載された群落					
階層	優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数				
高木層	ハルニレ	15	90	40max					
亜高木層	ハルニレ・ミズナラ	8	30	10					
低木層1	—	3	10	4					
低木層2									
草本層1	シロヨメナ	0.5	30	—					
草本層2									
コケ層									
植生区分	IV		凡例コード	160301	凡例名	ハルニレ群集			
大区分	溪畔林	中区分	ハルニレ群落		細区分	ハルニレ群集			
群落名	ハルニレ群落								
調査法人名	○○○○(株)								
調査者	○○○○								
代表写真	553903010130021008240010101.jpg								
備考									

表 2.4.4 優占種調査2の調査票例

植生調査票							調査年度
優占種調査2							2015
は必須項目 二次メッシュ 調査区分 法人ID 調査者ID 年月日 連番 地点コード 543857 05 013 002 100824 001 調査地点名* Y01 二次メッシュ* 543857 地形図名* 伊香保 調査年月日* 2012年11月3日 ブロック名* 関東 都道府県名* 群馬 市町村名 緯度* 旧測地系 度 分 秒 新測地系 36度 44分 42.8秒 経度* 度 分 秒 139度 25分 0.5秒 調査面積 調査区分を05とする。 海拔(撮影地点) 1270m 方位(撮影方向) S 傾斜 地形 土壤 風当 日当 土湿 資料No. 資料名称 発行年 発行者 記載された群落							
階層	優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数		
高木層							
亜高木層							
低木層1							
低木層2							
草本層1							
草本層2							
コケ層							
植生区分*	V	凡例コード*	221103	凡例名*	ミヤコザサ-ミズナラ群集		
大区分*	落葉広葉樹二次林	中区分*	ミズナラ群落	細区分*	ミヤコザサ-ミズナラ群集		
群落名							
調査法人名*	OOOO(株)	備考は必須。写真で読み取れる群落の説明を入れる。					
調査者*	OOOO						
代表写真*	543857050130021211030010101.jpg						
備考*	標名富士から南方向に三峰山を望む。斜面はミズナラ二次林で広く占められるが、谷沿いにカラマツ植林がある。直下の沿ノ原にはカシワ二次林がみられる。						

景観写真



2.4.3 図化基準案の作成

現地調査計画にて作成した使用凡例案をもとに、現地調査結果及び収集した地域植生情報等を加え、使用凡例案を修正する。修正した凡例には凡例番号をふり、主要凡例について優占種、判読キー（判読画像上で他の植生から区分される特徴）、凡例の決定方法、類似する群落との区別点、分布・立地等を記載した「図化基準案」（表 2.4.5）を作成する。特に、整備地域に高山・亜高山帯の植生を含む場合は、実施要領巻末の「山岳地調査の手引き」に従う。

現地調査法人の管理者は、図化基準案を作成者に周知することで、図化精度の均一化を図る。また、作成者への「資料 2 伐採跡地・土地利用区分等判読の手引き」の徹底を図る。凡例区分の共通認識を得るために以下のような手法が有効である。

- 作成者全員が集まり、図化基準について協議し合意を図る会議を開く。
- 作成者全員で現地エクスカーションを実施し、自然性の高い植生や判定の難しい凡例について現地確認を行い、現場の植生を見て共通認識を図る。
- 自然植生を分布及び立地により配列した上でそれぞれに代償植生を対応させて、ブロック全体の凡例を把握する。

表 2.4.5 図化基準案（例）

編生区分	群落名	優占種	判読の難易度	空中写真上での特徴	凡例決定の方法 (空中写真以外)	分布・立地	類似群落との区別点
IV	スギーブナ群落	ブナ、スギ	C	丸い大きな樹冠の中に三角錐の樹冠が林立している。	現地確認、第2回・第3回植生図 回植生図	加瀬木園幅の標高1,000m付近に分布。 第2回・第3回植生図にも表示。	既存資料や第2回・第3回植生図、ヒアリングなどから分布域を把握する。
IV	クロモジーブナ群集	ブナ、チマキザサ	A	淡色で円形の大きな樹冠が、散在する樹林。	現地確認、第2回・第3回植生図 回植生図	中国山地の標高約700～800m以上に分布する。 大背、加瀬木、郷原、岩屋堂、岩坪、若狭、扇ノ山等の概ね標高800m以上で記録。	中国山地に成立し、ブナの優占することで区分されるが、空中写真では樹高の高いミズナラの優占林、ブナ＝ミズナラ群落と類似するため、現地調査又は第2回・第3回植生図を使用して確認する。
IV	チャボガヤ＝イヌナ群集	イヌブナ	A	淡色、樹高が高く、円形のやや大きな樹冠のまとまり。	現地確認、地形図	ブナラス域の斜面中斜面から下部の急傾斜でやや不安定な立地に分布する。	イヌブナが優占することで区別される。空中写真ではクリー＝ミズナラ群集と類似するため、現地調査により確認する。
IV	イヌシデーアカシデ群落	イヌシデ、アカシデ、ミズメ	A	樹冠はやや小さく、丸みを帯びる。	現地確認、既存資料	急傾斜地などの、レキの散在する不安定な立地。 坂根、加瀬木、郷原、岩屋堂、岩坪、扇ノ山等の園幅で記録。	イヌシデ、アカシデ、ミズメが優占することで区別する。現地確認及び立地条件により区分する。
IV	ジュウモンジンジダーサワグルミ群集	サワグルミ、トチノキ、ジュウモンジダ、リョウメンジダ等	A	淡色。樹高が高く、円形のやや大きな樹冠のまとまり。	現地確認、既存資料	中国山地深い谷筋に分布する。 大背、坂根、加瀬木、智頭、岩屋堂、岩坪、扇ノ山等の園幅で記録。	空中写真によるケヤキ群落との区分は困難。現地調査により確認。
IV	ケヤキ群落(IV)	ケヤキ	A	多様、緩傾斜では樹冠が大きく、急傾斜では樹冠が認識しにくい。早春の空中写真では樹冠を認識しにくい。	現地確認、既存資料	中国山地深い谷筋に付近以上に分布する。 大背、郷原、扇ノ山等の園幅で記録。	ケヤキ群落(IV)とは、標高により区分し、境界は標高約650m～700m。空中写真によるジュウモンジンジダーサワグルミ群集との区分は困難。現地調査により確認。
IV	岩角地・風衝地低木群落	サラサドウダン、ツツジ類	B	樹冠は小さく、まばらである。色調は明るい。	現地確認、第2回・第3回植生図、既存資料	高海抜の尾根筋から北斜面にかけて分布する。 日本原、大背の園幅で記録。	既存資料や第2回・第3回植生図、ヒアリングなどから分布域を把握する。なだれ地自然低木群落とは、斜面方位により区分する。
IV	なだれ地自然低木群落	アセビ、リョウブ、ヤナギ属の一種、チマキザサ	B	淡色、小さな樹冠がややまばらに分布する。群落高は低い。	現地確認、第2回・第3回植生図、既存資料	那岐山系の尾根筋から南斜面にかけて分布する。 椎、日本原、大背の園幅で記録。	既存資料や第2回・第3回植生図、ヒアリングなどから分布域を把握する。なだれ地自然低木群落とは、斜面方位により区分する。
V	ブナ＝ミズナラ群落	ブナ、ミズナラ	A	淡色。樹高が高く、円形のやや大きな樹冠のまとまり。	現地確認、既存資料	中国山地の標高700m以上に分布する。 鹿野、岩坪、加瀬木、美作加茂、智頭、大背、日本原等の園幅で記録。	地盤によって異なるが、標高約700m以上に成立。林冠にブナが優占する林分をクリー＝ミズナラ群集と区分して整理。クリー＝ミズナラ群集に比べ、高海拔地に分布する。
V	クリー＝ミズナラ群集	ミズナラ、クリ	A	淡色の、樹高の高く、不整形の小さな樹冠のまとまり。	現地確認、第2回・第3回植生図、既存資料	中国山地の高海抜地。 鹿野、岩坪、加瀬木、美作加茂、智頭、大背等の園幅で記録。	地盤によって異なるが、標高約650m以上に成立。ブナ＝ミズナラ群落とは、ブナを全くこどりにより区分する。ミズナラの優占することで区別されるが、空中写真ではよく発達した林分が、ブナの優占林と類似する場合がある。現地調査ならびに第2回・第3回植生図、ヒアリング結果を用いて確認する。

※図化基準がわかりにくい二次林、垂直分布や微地形の相違で凡例が分かれる場合等、作成者間の共通認識が必要な凡例のみ作成する。

2.4.4 植生図案の作成・提出

現地調査によって修正した使用凡例案及び図化基準案に準じて、判読画像を再判読し、区分線・区分内容を 1/2.5 万地形図等に移写して植生図案を作成する。不明な区分線・区分内容があった場合は、現地調査を補足的に実施し、植物群落の分布状況を再確認し、これらを決定する。土地利用凡例等の図化については、「資料 2 伐採跡地・土地利用区分等判読の手引き」を遵守する。

植生図案は、重点地域における現地調査→確認→修正→全体へ展開・標準化することにより図幅ごとの精度調整を行う。

植生図案の作成から納品までは図 2.4.1 に示したフローによる。現地調査法人は、工程に応じて 1 次確認用植生図（5 面あたり 1 面で図幅の 1/4～1 面の範囲）、2 次確認用植生図（5 面あたり 1 面で図幅単位）、さらに植生図全図面を、植生図の精度確認のための資料として幹事法人に提出し、修正方法を協議しながら図化を進める。

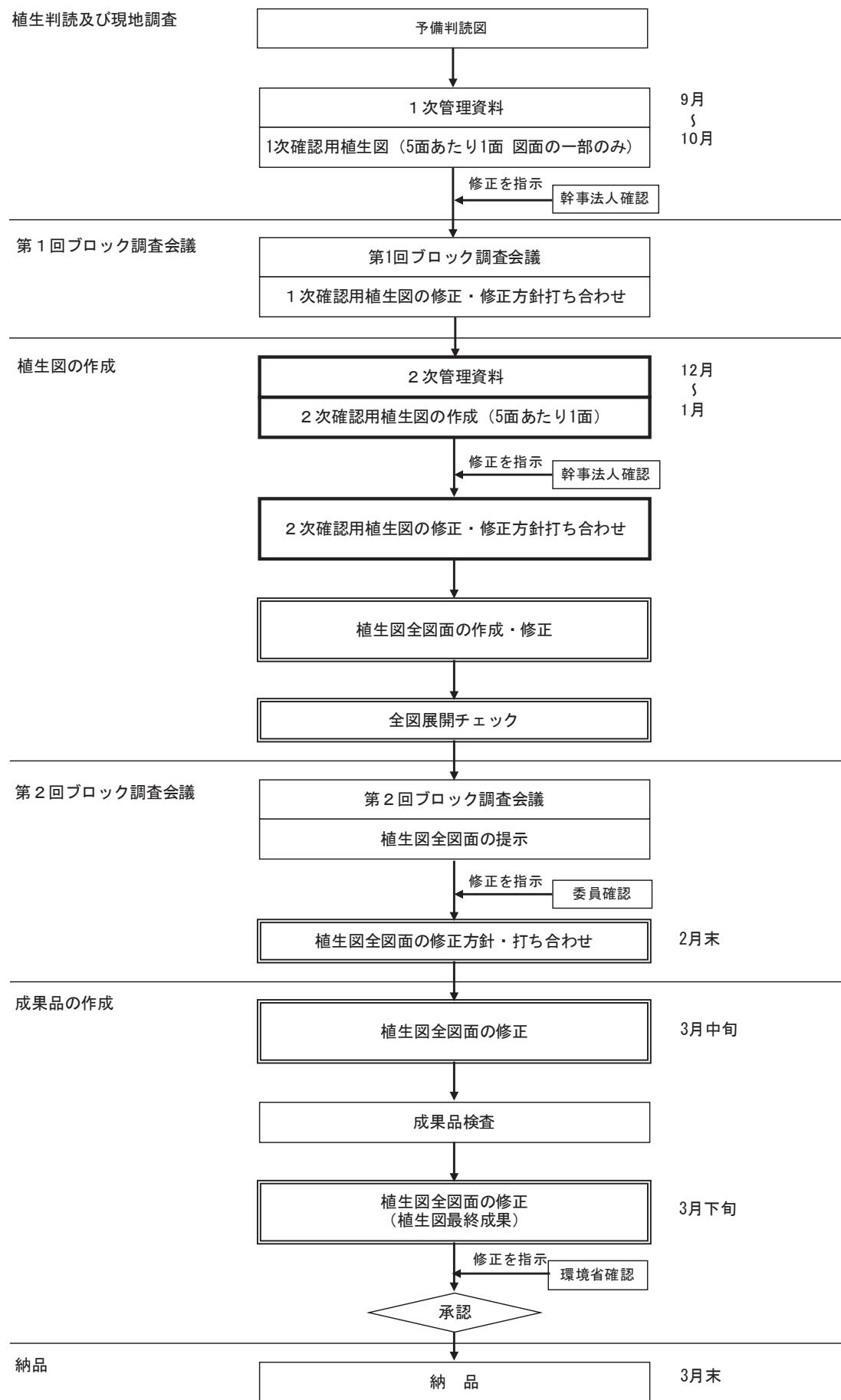


図 2.4.1 植生図の確認資料作成のフロー

(1) 予備判読図

現地調査法人の管理者は、各作成者の予備判読図を精査して、①作成者間の図化精度に違いがないか、②作成者間の図化基準にずれがないか、確認を行う。他作成者と比べて著しく精度の劣る判読図があった場合は、早急に技術指導を行う。また、図化精度の統一性、作業の遅れ等の問題があれば、幹事法人に報告し、対応策を協議する。

(2) 1次管理資料の提出と進捗状況の報告

現地調査法人は、第1回ブロック調査会議開催の1ヶ月以上前までに、植生調査業務の精度を示す管理資料として、次に示す1次管理資料((1)～(3))及び関連資料(4)をとりまとめ、環境省及び幹事法人に提出する。

1次管理資料は、幹事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である（確認及び承認の手順は「2.2.1 管理資料の確認・承認手順」参照）。

提出する1次管理資料の精度は、本要領の資料に例示した全国レベルの図化精度基準に適合することを条件とする。

1次管理資料の提出と進捗状況の報告(4.3.6に示す)の目的は、現地調査法人が作成している植生図の標準的な精度を確かめ、必要に応じて精度の向上を図り、図化精度のレベルを確定することにある。

幹事法人は、必要に応じてブロック統括委員等の学識経験者から助言を得て1次管理資料の内容を確認し、確認結果を「1次確認用植生図の確認結果」にとりまとめ、第1回ブロック調査会議にて「1次確認用植生図の確認結果」を提出し、会議にて協議を行う。

現地調査法人は、幹事法人による確認と、第1回ブロック調査会議で得られる委員の助言を反映して、植生図GISデータ入力前までに1次管理資料を修正し、その他の図幅の植生図化の精度の目安とする。

1) 1次確認用植生図一覧表及び一覧図

現地調査法人は、1次確認用植生図について、各図面の管理者、作成者、使用した空中写真*、及び判読上の問題等を一覧表(表2.4.6)にとりまとめ、位置を一覧図に示す。

デジタルオルソを使用した場合は、デジタルオルソの位置精度の確認結果も記入する。また、整備地域が過年度及び本年度整備地域の植生図と接合している場合は、接合部分での植生の整合性について確認しながら判読を進める必要があるため、接合部分の作成状況を報告する。

*2次メッシュ管理リストに記載したもの

表2.4.6 1次確認用植生図一覧表フォーム

番号	標準判読図	撮影主体等	整理番号	撮影地区	管理者	作成者	管理者のコメント
1	厚床①	国土地理院	H0-2005-5X C12-5	根室	○○▲▲	■■△△	
2	婦羅理	国土地理院	H0-2005-5X C17-2, C18-3	根室	○○▲▲	●●□□	

2) 使用凡例案及び図化基準案

現地調査法人は、使用する凡例の一覧表、図化基準案を整理し、その時点での最新の使用凡例案と主要凡例についての図化基準案を作成する。凡例の判断がつかず図化が難しい場合は、中途段階の凡例で代替する。その場合は凡例の細分の方針や目安を図化基準や配分摸式図に示す（例：図化基準にミズナラ群落とコナラ群落は標高400mをめやすに区分することを記載しマークする）。

3) 1次確認用植生図

1次確認用植生図は、1/2.5万地形図を基図とし、重点地域から現地調査法人が作成地域を選定して、画像判読及び現地調査から最終的な凡例適用を想定した植生図を作成する。作成する枚数は作成者ごとに1地域以上とし、作成地域の配置に偏りがないよう調整する。作成者1名あたりの作成範囲は、1/2.5万地形図の1/4～1/5以上とする。植生図1面全てを提出する場合には、特に確認すべき範囲に印をつけて提出する。現地調査法人の業務管理者は、提出前に1次管理資料の精度を確認し、必要に応じて修正方針等の指示を記入する。

4) 判読画像

1次確認用植生図の範囲が立体視できる空中写真、判読に使用した画像等の一式を提出する。空中写真のコピーは不可とし必ず原写真を提出する。幹事法人が1次管理資料の確認に1ヶ月程度の時間を費やすため、現地調査法人は、写真の提出が他の判読作業に支障のないように留意すること。

2.5 第1回ブロック調査会議

第1回ブロック調査会議の目的は、「植生図作成の進捗状況を確認して、整備地域における植生図作成上の課題について協議を行い、ブロック検討委員から助言を得る」ことにある。

出席者等は1.5.3(3)及び仕様書を参照する。ブロック検討委員が欠席した場合にはヒアリングを行い、ヒアリング調査票にとりまとめて環境省及び幹事法人に提出する。

2.5.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載

現地調査法人は、必要に応じてブロック統括委員及び幹事法人と協議を行い、表2.5.1に示す会議資料を作成して会議開催1週間前までに環境省及び幹事法人に提出する。幹事法人及び環境省は提出後3日以内に資料の内容を確認・承認する。承認後、現地調査法人は、会議資料をブロック調査会議検討委員あてに事前送付するとともに、業務管理サイトに会議資料を掲載し、出席者に周知する。事前送付の日程がとれない場合には環境省及び幹事法人と調整する。

表 2.5.1 第1回ブロック調査会議の提出資料

No.	資料名	内容	報告書との対応
0	議事次第	●議事次第、出席者	—
1	整備地域	●整備地域の一覧図 地形図を基図として、図郭の一覧図を示す。	1.整備地域 図1
2	既存資料による整備地域の植生概況	<ul style="list-style-type: none"> ●整備地域全体の1/5万植生図（縮小版） 1/20万地形図、陰影等を基図とし、1/2.5万植生図統一凡例で置換した1/5万植生図GISデータで、整備地域全体の植生図を作成する。整備地域に隣接する外側の図枠も含める。 自然植生分布図、植生区分別分布図等に分割して示してもよい。 ●植生概況（文章） 山地、海岸部等の植生区分、地域における重要な植生等について、ごく簡単にまとめる。 ●その他の既存資料 特定植物群落の分布、既存の植生図等を示す。植生配分が地形、地質等の環境要素に強く影響を受けている整備地域では、地質図、地形分類図等を示しても良い。 ●収集資料一覧表 	5.検討結果 図5～ 5.検討結果 5.検討結果 6.収集資料 表6
3	現地調査計画及び調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ●現地調査計画の概要 重点地域・植生、調査区分等について図示する。調査地点配分表は不要。 ●現地調査地点位置図 地形図等を基図として、地点位置を表示する。 ●組成表または個票 区分の難しい凡例や仮凡例については、組成表または個票を示す。参考資料としてもよい。 	3.現地調査結果 概要 表3.1 図3 5.検討結果
4	使用凡例案	<ul style="list-style-type: none"> ●現地調査、既存資料及び1/5万植生図をもとに選定した凡例案 隣接図の使用凡例、1/5万植生図凡例のなかで使用しなかった凡例とその理由を付記する。これらは別表としてもよい。 	2.凡例一覧 表2
5	植生図作成上の課題	<ul style="list-style-type: none"> ●課題に関する主題図及び概要（文章） クラス域の境界、隣接植生図との不整合、二次林の分布境界等、植生図作成上の課題を1/5万植生図データ等を用いて図示し、概要をまとめる。 	5.検討結果
参考資料	植生図の作成手法	●植生図作成方法、図化手法及びGISデータ作成手法に関するフローチャート及び説明文	1(2)作成手法
	ヒアリング調査票	●業務開始時のブロック統括委員の助言、ブロック検討委員の助言等のヒアリング結果	資料7
都道府県提供資料	都道府県から資料提供があった場合、会議資料に追加する。	—	—
規定資料外の資料	上記資料のほかに検討すべき事項がある場合、任意に資料を作成する。	—	—

2.5.2 会議の開催

現地調査法人は、会議資料をもとに植生図の作成状況を報告し、作成中の植生図全図を並べて提示し、会議出席者の意見を収集する。会議では、以下の事項を優先して協議する。統一凡例にない新規凡例については、技術専門部会（凡例検討部会）での検討が必要であるため、ブロック調査会議での検討に必要な資料を準備し提示すること。

- 使用凡例案の適切性
- 重点地域として選定した地域の植生の図化方法
- 1/5万植生図からの大きな変更点（使用しなかった1/5万植生図凡例と根拠等）
- その他植生図作成上の課題

現地調査法人は、植生図の精度向上のため、ブロック検討委員より専門的な立場からの助言を受ける。

幹事法人は、1次管理資料の確認結果等を会議にて報告する。

環境省は、植生図の作成状況の報告と協議の内容について確認する。

2.5.3 議事録及び議事概要の作成

現地調査法人は、会議開催後14日以内に第1回ブロック調査会議の議事録及び議事概要を作成し、ブロック統括委員及び検討委員、環境省及び幹事法人に提出する。正確な議事録作成のために、会議中の発言を録音するか速記者を配置する。環境省及び幹事法人は、提出後1週間以内に議事録及び議事概要の内容を確認し、修正の必要があれば現地調査法人に修正を指示する。現地調査法人は、修正を終えた議事録及び議事概要をブロック統括委員、環境省及び幹事法人に提出する。

2.5.4 会議後の打ち合わせ（中間打ち合わせ）

原則として第1回ブロック調査会議終了後（当日）に、以下の事項について打ち合わせを行う。必要に応じて、ブロック統括委員及びブロック検討委員に同席いただく。打ち合わせの手順、記録簿の作成等については2.2.2 打ち合わせ を参照のこと。

- 第1回ブロック調査会議の協議結果に関する今後の対応
- 1次管理資料に修正の必要があった場合、修正内容と修正完了の期日
- 植生図作成の進捗状況の確認と今後の予定

2.6 凡例検討部会

2.6.1 仮凡例の検討

第1回ブロック調査会議で仮凡例（新規凡例または検討を要する凡例）が挙げられた場合、現地調査法人は、幹事法人が主催する凡例検討部会に出席し、仮凡例について報告を行う。また、凡例検討部会の委員から、会議前に現地調査法人へ問い合わせがあった場合は回答を行う。現地調査法人が事前に提出する仮凡例等の検討資料の項目を表2.6.1に示した。

幹事法人は、現地調査法人や凡例検討部会委員の意見を受けて、必要な資料を調整し仮凡例検討資料として凡例検討部会に提出する。また、RL種の有無を確認し、RL種を含む場合は公開用凡例案を提出する。

なお、凡例検討部会の検討を効率的に行うため、関連する既存凡例との違いが明確になるよう、現地調査結果に加え、既存資料の組成データや、過年度調査の組成データを組み入れた組成表を作成する。

表2.6.1 仮凡例検討資料の項目

1. 大・中・細区分の位置づけ
2. 群落の内容
3. 関連する既存凡例とのちがい（新設する理由）
4. 関連するブロック凡例とのちがい
5. 別添資料
組成調査票、組成表、現地写真、調査地点位置図、分布図、空中写真、既存資料、ブロック凡例案＜以上、現地調査法人＞
6. RL種の有無と公開用凡例案＜幹事法人＞

仮凡例の条件

仮凡例は次の要件の①と②を満たし、かつ③以下のいずれかにあてはまるものとする。

- ① 当該の群落の種組成を検討できる調査資料があり（原則として2地点以上、既存資料でもよい）、類似する既存の植生単位と明らかに区別できること。ただし、組成的には明らかに区分できなくても均質な群落が広がりを示している場合は抽出して検討する。
- ② 1/25,000の縮尺で図化可能な分布範囲・面積であること。
- ③ 局地的であっても希少性が高く、図化する必要性が高い群落であること。
- ④ シカ採食草原など野生動物による植生変化の観点から植生図化の必要性が高い群落であること。
- ⑤ 侵略的外来種が著しく広い範囲に優占していて、植生図化の必要性が高い群落であること。
- ⑥ 特定種等の希少な個体群の植分ではないこと。
- ⑦ 維管束植物を主要構成種とする群落であること。

※凡例の類推が困難な不明な箇所に対し、凡例として登録されていない既存凡例の大区分レベル、中区分レベルの凡例を適用することがある。その場合も仮凡例として凡例検討部会で検討する。

2.6.2 仮凡例の検討フロー

仮凡例の検討から新規凡例登録までのフローを図 2.6.1 に示す。

幹事法人は、凡例検討部会の仮凡例検討結果をまとめ、追加される凡例の色を設定する。

現地調査法人は、凡例検討部会の検討結果を第 2 回ブロック調査会議で報告する。また、設定された色で植生図を出力し、仮凡例の色を確認する。修正案や仮凡例の追加がある場合は幹事法人に提出し、凡例検討部会で再検討する。

凡例検討部会の仮凡例検討結果が第 2 回ブロック調査会議で承認されなかった場合、植生分科会で仮凡例の最終確認を行う。

植生分科会の承認を受けて新凡例として決定した場合は、現地調査法人は新凡例コードと凡例名及び凡例色を用いて植生図の図化を行う。

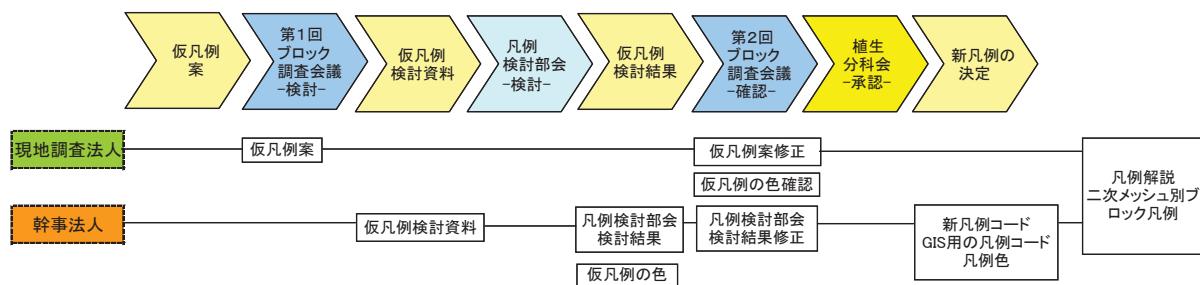


図 2.6.1 新規凡例登録までのフロー

2.7 植生図 GIS データの作成

2.7.1 植生図案の確定

(1) 使用凡例及び図化基準の確定

現地調査法人は、第1回ブロック調査会議の協議結果、現地調査結果及び収集した地域植生情報等をふまえ、使用凡例案の追加、変更の検討を行い最終的な使用凡例を確定する。また、作成者間の図化精度を均一化するため、主要凡例について図化基準の調整を図る。

各凡例は、原則として統一凡例の細区分に位置づけられたものとし、中区分または大区分の追加、変更がある場合は検討課題として整理する。

確定した凡例には凡例番号をふり、各凡例について現地調査結果をもとに以下の項目等を追加し、図化基準を確定する。

- 優占種
- 分布・立地
- 類似群落との区別点
- 優占種調査地点、組成調査地点
- 2次メッシュ（図幅）単位での凡例の出現状況

(2) 区分線・区分内容の確定

現地調査法人は、承認を受けた1次確認用植生図（ブロック調査会議での助言を踏まえた修正が求められた場合にはその修正を施したもの）と同程度の精度で担当図幅全体の植生図案の区分内容・区分線を確定し、最終的な植生図作成に向けて作業を進める。現地調査法人の業務管理者は、幹事法人の1次確認用植生図の確認結果及びブロック調査会議の指摘事項を各作成者に周知し、図幅ごとの精度管理を徹底する。

2.7.2 植生図 GIS データの入力および修正

現地調査法人は、確定した植生図案の GIS 入力をを行う。GIS データの入力は「植生図 GIS データ作成ガイドライン」、GIS データの仕様は「植生図 GIS データ製品仕様書」に従う。

ディスプレイ上で画像を判読しながら GIS 入力をを行う手法の場合は、区分線の屈曲が細かくなりすぎないように留意する。植生判読の際には画像の拡大表示と縮小表示を繰り返すことになるが、区分線を入力表示縮尺としては、標準的な山地植生で概ね 1/7,000～1/8,000 程度が望ましい。区分線を入力する表示縮尺は、整備地域の植生の細かさによって適切な縮尺を決めるこことし、作成者間で表示縮尺の統一を図る。

GIS データ入力後、各図幅の作成者は GIS データの紙出力図（1/2.5 万縮尺）を確認し、区分線の位置ずれ、凡例間違い、誤判読等をチェックし、データの修正を行う。これらの作業を繰り返し、植生図 GIS データを完成させる。

植生判読と GIS 入力を同時並行で行う作成手法においても、植生図 GIS データの紙出力図（1/2.5 万縮尺）を確認し、GIS データの修正を行う。

2.7.3 2次管理資料の提出と進捗状況の報告

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議の1ヶ月前までに、植生調査業務の精度を示す管理資料として、次に示す2次管理資料((1)～(5))を環境省及び幹事法人に提出する。

2次管理資料は幹事事法人の確認及び環境省の承認が必要な管理資料である（確認及び承認の手順は「2.1 管理資料の確認・承認手順」参照）。

(1) 2次確認用植生図一覧表・一覧図

各図面の管理者、作成者、使用した写真、判読上の問題等を一覧表にとりまとめ、位置を一覧図に示す。2次確認用植生図の対象範囲は、1次確認用植生図の確認を行った部分を含む図面一面（5面あたり1面）とする。

(2) 使用凡例及び図化基準

確定した使用凡例一覧、主要凡例についての図化基準を管理資料とする。

(3) 2次確認用植生図

2次確認用植生図は図面一面のGISデータ出力図（縮尺1/2.5万）を単位とし、業務管理者が精査したものとする。現地調査法人の業務管理者は、2次確認用植生図を作成するにあたり、各作成者の作業内容を精査し、図化精度の均一化を図る。また、幹事法人の1次確認用植生図確認結果及び第1回ブロック調査会議の指摘事項が植生図に反映されているかの確認を行う。これまでの指摘事項が反映されていない場合は、業務管理者または作成者が修正を行い、2次確認用植生図を完成させる。

(4) 1次確認用植生図の反映結果図

現地調査法人の業務管理者は、幹事法人の1次確認用植生図の確認結果及び第1回ブロック調査会議の指摘事項についての反映結果を「1次確認用植生図の確認結果」に記入したもの（手書きでもよい）を管理資料とする。

(5) 植生図GISデータ

植生図GISデータのshpファイルを管理資料とする。この後の工程でGISデータを修正することがあるため、各種GISデータ検査（植生図GISデータ作成ガイドライン P11 4.9 データの検査 参照）をクリアしていなくともよい。

2.7.4 植生図全図の確認

(1) GIS データの出力と確認

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議までに整備地域全域の植生図 GIS データ及び出力図を作成し、会議で提示する。また、植生図の全体図（縮小版）を作成し、植生概況を把握するとともに図面間の不連続等を確認する。

会議前に出力図により全図面の区分内容を確認し、修正もしくは対応方法を検討しておき、協議資料としてまとめる。

(2) 全図面の区分内容の確認（全図展開チェック）

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議の前に、出力図全面を並べて区分内容の確認を行う全図展開チェックを実施する（図 2.7.1 参照）。確認事項は、植生学上の間違이がないか、個別の図面では確認しにくい問題点がないか（図面間の隣接部分、作成者による著しい差等）、GIS データ入力時に発生する間違이がないか等とする（1.8 植生図の図化指針及び資料 1 参照）。この時点での図化基準の検討が必要な場合は、第2回ブロック調査会議での検討課題とする。

会議前に出力図全面の展開チェックにより全体の区分内容を確認し、修正もしくは対応方法を検討しておき、協議資料としてまとめる。

全図面の確認時には、図面一面一面の確認を同時に行うと効果的である。

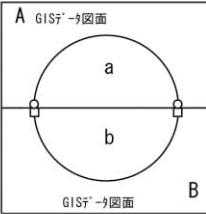
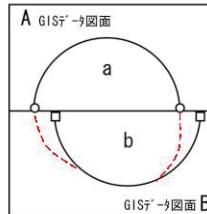


図 2.7.1 植生図の全図展開チェック写真

(3) 過年度図幅との接合の確認

現地調査法人は、過年度作成図と接合する図幅について、接合エラーを調整する。ただし、経年変化等の理由で接合できない場合は不整合とする。過年度の植生図の修正が必要な場合は接合エラー修正図案をとりまとめる。過年度植生図との不整合と対応策については、表 2.7.1 を参考にする。

表 2.7.1 植生図（A図）と過年度植生図（B図）の接合

接合図（B図）のデータ仕様	A図の接合方法	接合エラー	データ作成方法
GISデータ	図形を構成するノードなどについて図部圖で一致させる。	①同じ凡例がない場合 A図にB図と類似する凡例を適用しノードを一致させる。 ②古いB図に変化がある場合 Bの出力図に赤で修正内容を記入する。	 

(4) GIS データの確認

現地調査法人は、GIS データの構造を確認する。以降の作業段階で図形の変更が発生する可能性があるため、納品検査用の論理検査プログラムではなく GIS ソフトで対応可能な確認でもよい。問題点があれば打ち合わせ等で協議する。

2.8 第2回ブロック調査会議

第2回ブロック調査会議の目的は、「調査成果を確認し、植生図としての精度が確保されているかを検討する」ことにある。

第2回ブロック調査会議は植生図の全面最終案が出来た段階で開催し、植生分科会開催前の2月下旬までに終了することとする。会議の出席者等は1.5.3(3)を参照する。なお、整備地域に係わる都道府県のブロック検討委員が欠席した場合にはヒアリングを行い、ヒアリング調査票によりまとめて環境省及び幹事法人に提出する。

2.8.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載

現地調査法人は、必要に応じてブロック統括委員及び幹事法人と協議を行い、表2.8.1に示す会議資料を作成して会議開催1週間前までに環境省及び幹事法人に提出する。幹事法人及び環境省は提出後3日以内に資料の内容を確認・承認する。承認後、現地調査法人は、会議資料をブロック調査会議検討委員あてに事前送付するとともに、業務管理サイトに会議資料を掲載し、出席者に周知する。事前送付の日程がとれない場合には、環境省及び幹事法人と調整する。

表 2.8.1 第2回ブロック調査会議の提出資料

No.	資料名	内容	報告書との対応
0	議事次第	●議事次第、出席者	—
1	協議事項	●第2回ブロック調査会議の協議事項 第1回ブロック調査会議であげられた検討課題、第1回ブロック調査会議以降に発生した問題点等から、当日の協議事項をまとめる。	—
2	整備地域	●整備地域の一覧図 第1回ブロック会議資料と同じ	1.整備地域 図1
3	使用凡例	●使用凡例表 凡例検討部会の結果を反映する。現地写真、組成表、個票等で説明を補足してもよい。	2.凡例一覧 表2
4	調査結果	●植生図案の全体図（縮小版）および植生概況（文章） 地形図または陰影図を基図とし、作成した1/2.5万植生図GISデータを用いて全体図を作成する。また、1/5万植生図との比較結果をまとめる。 ●自然植生分布図等の主題図および植生の特徴（文章） 地形図または陰影図を基図とし、作成した1/2.5万植生図GISデータを用いて、自然植生の分布図、クラス域別の植生区分図を抽出して分布図を作成する。主題図の種類は、会議の協議事項を踏まえて選定する。また、必要に応じて1/5万植生図との比較結果をまとめる。1/5万植生図の凡例適用を大きく変えた場合は場所と理由を示す。（例：ブナ林→ツガ林、岩角地・風衝地低木群落→なだれ地低木群落） ●重点地域の1/2.5万植生図および植生の特徴（文章） 重点地域の植生について、図表や写真等を用いて調査結果を簡単にとりまとめる。会場提示した植生図を用いて説明してもよい。 ●現地写真 植生の状況をわかりやすく示すため、必要に応じて現地写真を資料に差し込む。	以下、5.検討結果 参考資料4
5	検討結果	協議事項の検討結果について、必要に応じて主題図等に図示し、現地調査法人の検討結果をとりまとめる。	5.検討結果、植生分科会資料
6	植生図出力図	●植生図出力図 1/2.5万縮尺の出力図全面を会場に提示する。	
参考資料	第1回ブロック調査会議議事録	●第1回ブロック調査会議議事録	資料2
	現地調査結果の概要	●現地調査結果の概要 調査地点位置については、組成調査地点と優占種調査地点を色分けする等、違いがわかるように図示する。	3.現地調査結果概要 表3.1、図3
	凡例解説案	●凡例解説	表4
都道府県提供資料	該当県および任意の県から資料提供があった場合、会議資料に追加する。		—
規定資料外の資料	上記資料のほか、検討すべき事項がある場合、任意に資料を作成する。		—

2.8.2 会議の開催

現地調査法人は、会議資料をもとに最終成果から得られた知見等を報告し、整備地域全域の植生図案を並べて提示する。会議では、以下の事項を優先して協議する。

- 植生図の精度
- 整備地域全体の植生配分（1/5万植生図との比較等）
- 植生図作成上の課題の検討結果

現地調査法人は、ブロック検討委員による植生図の精度向上のための専門的な立場からの助言を受ける。特に図幅ごとの植生図の精度について確認を受け、修正の必要な箇所の指摘を踏まえ修正方法を協議する。（指摘を受けた修正内容については後の修正漏れがないよう付箋等で記録しておく）。出席者が植生図を確認する時間を会議時間中に確保する。

幹事法人は、会議にて最終成果及び進捗状況の確認結果等を報告する。

環境省は、植生図の作成状況の報告と協議の内容について、確認する。

2.8.3 議事録及び議事概要の作成

現地調査法人は、会議開催後14日以内に第2回ブロック調査会議の議事録及び議事概要を作成し、ブロック統括委員及び検討委員、環境省及び幹事法人に提出する。正確な議事録作成のために、会議中の発言を録音するか速記者を配置する。幹事法人及び環境省は、提出後10日以内に議事録及び議事概要の内容を確認し、修正の必要があれば現地調査法人に修正を指示する。現地調査法人は、修正を終えた議事録及び議事概要を環境省及び幹事法人に提出する。

2.8.4 会議後の打ち合わせ

原則として第2回ブロック調査会議終了後（当日）に、以下の事項について打ち合わせ協議を行う。修正の必要が生じた場合には、ブロック統括委員等に同席いただき、植生図修正の確認工程について協議する。打ち合わせの手順、記録簿の作成等については、2.2.2 打ち合わせ を参照のこと。

- 第2回ブロック調査会議の協議結果に関する今後の対応
- 最終成果に修正の必要があった場合、修正内容と修正完了の期日
- 植生図作成の進捗状況の確認と今後の予定
- 植生分科会で報告するブロック別成果の内容

2.9 植生分科会

現地調査法人は、植生分科会に出席し、植生図案から得られた知見等について概要を報告する。また、整備地域全域の植生図案を会場に提示し、植生分科会委員の確認を受ける。

幹事法人は、植生分科会の会議資料を作成し、各ブロックの植生図案化の精度管理結果等について報告を行う。また、技術専門部会やブロック調査会議であげられた課題のうち全国統一の必要性の高いものを整理し、対応策が示せるものは案をとりまとめる。

植生分科会委員は、現地調査法人及び幹事法人の報告結果について、専門的な立場から意見を述べる。また、植生図案を確認し、修正の必要があれば意見を述べる。

2.10 成果品の作成

現地調査法人は、成果品案を作成し、幹事法人及び環境省と最終打ち合わせを行う。最終打ち合わせでは、全ての成果品案についての確認を主とし、最終打ち合わせで合意された修正を実施し、成果品として環境省に納品する。

2.10.1 植生図の最終確認

現地調査法人は、第2回ブロック調査会議以降に修正した植生図の最終確認を行う。現地調査法人は、幹事法人が作成した「2次確認用植生図の確認結果」、第2回ブロック調査会議議事録、及び植生分科会にて指摘を受けた場合は該当指摘事項と照合し、幹事法人等の指摘箇所が植生図出力図に反映されているかどうか確認する。2次確認用植生図の反映結果については、幹事法人が作成した「2次確認用植生図の確認結果」に書き込み、管理資料として成果品案とともに幹事法人に提出する（2.10.2 参照）。

2.10.2 成果品案等の提出

（1）成果品案確認の提出物

現地調査法人は、最終打ち合わせまでに、表 2.10.1 に示した成果品案及び管理資料（2次確認用植生図の反映結果図）を幹事法人に送付し、幹事法人による成果品案の確認を受ける。報告書案は、業務管理サイトにアップし、環境省、幹事法人の確認を受ける。

表 2.10.1 成果品案確認のための提出物

提出資料	
成果品案	1 GIS データ出力図及び接合部修正案
	2 電子ファイル（報告書案、GIS データ、現地調査データベース）
管理資料	3 2次確認用植生図の反映結果図
	4 電子ファイル（GIS データ論理検査ログファイル、現地調査データベースエラーチェック結果）

1) GIS データ出力図及び接合部修正案

「植生図 GIS データ製品仕様書」、「植生図 GIS データガイドライン」により作成した植生図の GIS データ出力図。

過年度植生図と不整合がある場合は、接合部修正図案を添付する。

2) 電子ファイル

3. 調査成果とりまとめ（3.3～3.5 参照）により整理した報告書案、GIS データ、現地調査データベースの電子ファイル。

3) 2次確認用植生図の反映結果図

幹事法人の2次確認用植生図確認結果に、指摘事項の反映結果を記入した図

(2) 確認結果の連絡

幹事法人及び環境省は、主に以下の事項について成果品案の確認を行い、必要に応じて植生分科会座長もしくはブロック統括委員に確認した上で環境省と調整し、最終打ち合わせで中心的に協議される事項について現地調査法人へ連絡する。現地調査法人は連絡を受けた事項に対して最終打ち合わせまでに対応方針を検討する。

- 中間打ち合わせで合意した修正事項について未修正箇所
- 植生区分または入力方法に問題のある図幅（空中写真、現地写真による確認）
- 未決定凡例（仮凡例、二次林の適用等の決定方法）
- その他改善すべき事項（凡例色の変更等）

2.10.3 最終打ち合わせ

現地調査法人は、納期の10日前を目途に幹事法人及び環境省との最終打ち合わせを行い、成果品案について中間打ち合わせ等で必要とされていた修正事項の反映状況等を協議する。協議はGISデータ出力図を中心に行う。現地調査法人は、植生図一面一面について具体的な修正内容も含め環境省もしくは幹事法人からの指示を受け、その場で修正内容の協議を行う。現地調査法人は、最終打ち合わせにおいて合意した修正を納期までに完了させる。

他の打ち合わせの手順、記録簿の作成等については、[2.2.2 打ち合わせ](#)を参照のこと。

2.11 納品

現地調査法人は、最終打ち合わせで合意された修正事項を反映させた成果品一式を作成し、環境省に納品する。環境省は最終打ち合わせで合意された修正がなされていることを確認する。また、現地調査法人は、承認後の報告書及び植生図 GIS 出力図をブロック調査会議関係者（ブロック統括委員、ブロック検討委員、整備地域に該当する都道府県の担当者）に1部ずつ送付する。

2. 植生図の作成方法	10
2.1 植生図の作成工程	10
2.2 工程管理	13
2.2.1 管理資料の確認・承認手順	13
2.2.2 打ち合わせ	15
2.3 計画・準備	17
2.3.1 判読画像の入手及び確認	17
2.3.2 既存資料の収集および活用方法の検討	18
2.3.3 2次メッシュ管理リストおよび2次メッシュ別工程表の作成	20
2.3.4 着手打ち合わせ	21
2.3.5 ブロック統括委員等のヒアリング	21
2.3.6 現地調査計画書の作成	22
2.4 植生判読及び現地調査	27
2.4.1 予備判読	27
2.4.2 現地調査	27
2.4.3 図化基準案の作成	33
2.4.4 植生図案の作成・提出	34
2.5 第1回ブロック調査会議	38
2.5.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載	38
2.5.2 会議の開催	40
2.5.3 議事録及び議事概要の作成	40
2.5.4 会議後の打ち合わせ（中間打ち合わせ）	40
2.6 凡例検討部会	41
2.6.1 仮凡例の検討	41
2.6.2 仮凡例の検討フロー	42
2.7 植生図 GIS データの作成	43
2.7.1 植生図案の確定	43
2.7.2 植生図 GIS データの入力および修正	44
2.7.3 2次管理資料の提出と進捗状況の報告	45
2.7.4 植生図全図の確認	46
2.8 第2回ブロック調査会議	48
2.8.1 会議資料の作成及び業務管理サイトへの掲載	48
2.8.2 会議の開催	50
2.8.3 議事録及び議事概要の作成	50
2.8.4 会議後の打ち合わせ	50
2.9 植生分科会	51
2.10 成果品の作成	52

2.10.1 植生図の最終確認	52
2.10.2 成果品案等の提出	52
2.10.3 最終打ち合わせ	53
2.11 納品	54

3. 調査成果とりまとめ

3.1 成果品の概要

3.1.1 成果品の概要

- 成果品は植生図、報告書、及びそれらに対応する電子ファイルからなる。電子ファイルには内部管理資料として現地 DB、現地写真等の電子ファイルのみのものも含まれる。また、判読に使用した空中写真は原則として全て納品する。本章は下記の項目に分けて述べる。

- GIS 植生図の出力図
- ブロック版報告書
- 現地調査データ
- 電子ファイル（電子媒体）
- 空中写真・判読参照画像等

- 植生図は、秘匿すべき環境省レッドリスト（以下、RL 種）が含まれる凡例がある図面は非公開の「確認用」植生図とし、別途環境省 RL 種が含まれない「公開用」植生図を作成する。
- 報告書は、構成の異なる「公開用」報告書と「確認用」報告書の 2 種を作成する。「公開用」報告書は秘匿すべき環境省 RL 種を除いて作成する。
- 成果品その他の概要を表 3.1.1～表 3.1.3 に示す。
- 平成 27 年度からの変更があるのはブロック版報告書のみである。なお、下記の平成 25 年度からの変更点にも留意する。

【平成27年度からの成果品の変更点・留意点】

- ブロック版報告書
 - 本編 1 の表題を調査概要に、表 1-1 の表題を 2 次メッシュ別管理リストに変更する。（表 3.1.1 参照。平成 27 年度より変更）
- GIS 植生図出力図
 - 出力図右下に管理ラベルを貼る。
- 現地調査データ
 - 組成（資料）は新たに設定した入力方法により入力する（表 3.4.4 参照）。
- 電子ファイル（電子媒体）
 - 内部管理用 CD に隣接図修正案を収録する。
- 空中写真・参照画像等
 - 空中写真は専用アルバムに収録する。

表 3.1.1 成果品一覧 1 (紙媒体)

区分	調査年度	ブロック(例)	該当電子ファイルコード	内容	備考	部数	詳細
報告書	H27	北海道	1	ブロック版報告書		1	公開用
	H27	北海道	2	ブロック版報告書		1	公開用
	H27	北海道	3	ブロック版報告書		4	公開用
	H27	北海道	4	ブロック版報告書(確認用)		1	確認用
	H27	北海道	5	ブロック版報告書(確認用)		1	確認用
植生図 GIS出力 図	H27	北海道	6・7	植生図GIS出力図		各1	計〇枚
	H27	北海道	8・9	植生図GIS出力図(環境省RL情報あり)*		各1	計〇枚 (秘匿すべき環境省RL情報がない場合はなし)
空中写真・参照 画像	H27	北海道	12	空中写真アルバム		各1	空中写真計〇枚
	H27	北海道	13	参照画像出力図		1	納品可能な場合のみ

* 秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例がない場合は不要

* この他、ブロック版報告書（確認用）、植生図出力図は、ブロック調査会議関係者（ブロック統括委員、検討委員、該当する都道府県担当者）に1部ずつ送付する。

表 3.1.2 成果品一覧 2 (電子ファイル)

区分	調査年度	ブロック(例)	電子ファイルコード	内容	備考	部数	詳細
報告書	H27	北海道	1	ブロック版報告書		1	公開用報告書のpdf・オリジナルファイル
	H27	北海道	2	ブロック版報告書		1	
	H27	北海道	3	ブロック版報告書		1	確認用報告書のpdf・オリジナルファイル、ブロック調査会議資料のpdf・オリジナルファイル
	H27	北海道	4	ブロック版報告書(確認用)		1	
	H27	北海道	5	ブロック版報告書(確認用)		1	
植生図 GISデータ	H27	北海道	6	植生図GISデータ	正	各1	公開用shpデータ、色設定ファイル
	H27	北海道	7	植生図GISデータ	副	各1	
	H27	北海道	8	植生図GISデータ(環境省RLあり)*	正	各1	秘匿すべき環境省RLあり版を含むshpデータ、色設定ファイル
	H27	北海道	9	植生図GISデータ(環境省RLあり)*	副	各1	
内部管理 用データ	H27	北海道	10	内部管理用データ	正	各1	現地データ・現地写真・その他の管理ファイル
	H27	北海道	11	内部管理用データ	副	各1	現地データ・現地写真・その他の管理ファイル
	H27	北海道	12	内部管理用データ(数値地図)		1	背景図の数値地図等
	H27	北海道	13	内部管理用データ(参照画像)		1	納品可能な場合のみ

* 秘匿すべき環境省RL種を含む凡例がない場合は不要

表 3.1.3 平成 27 年度成果品の概要

		公開用		確認用(非公開)		内部管理用(非公開)	
報告書	報告書印刷				ラベルあり/なし ※環境省RL種の有無にかかわらず必ず作成する ※環境省RL種が出現する場合は「環境省RL情報あり 取扱注意」とマークする 複製をブロック統括委員、検討委員全員、行政担当官に各1部送付。		
	報告書に関する電子ファイル		上記に該当するファイル ORG.PDF		上記に該当するファイル ORG.PDF ラベルあり/なし ※環境省RL種が出現する場合は「環境省RL情報あり 取扱注意」とマークする		報告書(公開用・確認用) 現地DB 現地写真 作業用Shp等 空中写真情報 過年度植生図修正案.jpg
植生図	植生図印刷		図面一式 各1部 複製をブロック統括委員、担当県委員、行政担当官に各1部送付。		該当する図面のみ各1部 ラベル 複製をブロック統括委員、担当県委員、行政担当官に各1部送付。 ※「環境省RL情報あり 取扱注意」とマークする		
	植生図に関する電子ファイル		Shp. Jpg 凡例色設定Shp ログファイル 一式		ラベル Shp. Jpg一式 環境省RL情報 凡例色設定Shp ※「環境省RL情報あり 取扱注意」とマークする		数値地図(背景図として加工したもの) 作業用Shp等
空中写真・参照画像	空中写真・参照画像(紙媒体)				※秘匿凡例のあるブロックのみが該当する。他のブロックは不要。		空中写真アルバム 参照画像出力図 (ネットで公開されている画像は除く)
	空中写真・参照画像(電子ファイル)						判読に使用した画像・ デジタルオルソ HD等

3.1.2 環境省 RL 種にかかる情報

- 環境省 RL 種にかかる情報とは、秘匿すべき環境省 RL 種を含む凡例、秘匿すべき環境省 RL 種及びこれらの所在地等のうち、凡例検討部会等の協議により秘匿対象となったものを指す。
- 公開用の成果品は、RL 種にかかる情報をプログラム*により抽出し、凡例置換、削除等によって調整する（表 3.1.4）。* プログラムは幹事法人から配布する。

報告書

公開用報告書は、確認用報告書をもとにして、「新 RL 抽出マクロ」等を用いて環境省 RL 種がないように文章や表を整える。変更内容は報告書の資料に示す。

植生図

公開用植生図は、「RL 凡例置換プログラム」により別凡例に置き換える。同じ凡例が隣接する場合はポリゴンを統合する（植生図 GIS データ作成ガイドライン第 2.2 版参照）。

表 3.1.4 環境省 RL 種にかかる情報と公開用データ作成方法

	対象	公開用データ作成方法	備考
報告書	環境省RL種を含む凡例のうち、公開561種に該当せず凡例検討部会の協議により秘匿対象になったもの	置換・統合	報告書用の新RL抽出マクロで抽出し置換する。
	環境省RL種のうち、公開561種に該当せず凡例検討部会等の協議により秘匿対象になったもの	削除	報告書用の新RL抽出マクロで抽出し削除する。
	環境省RL種を含む既存の群落名	削除	報告書用の新RL抽出マクロで抽出し別名に変更する。
	"稀少""貴重種"等の語	削除	凡例解説、本文から検索し削除する。
	秘匿すべき環境省RL種を含む凡例の位置が特定可能な表現	削除	位置情報を地域名等に変更する。
植生図	秘匿すべき環境省RL種を含む凡例	置換／統合	RL凡例置換プログラムにより属性の凡例コード、凡例名等を置換する。 凡例番号は以下を確認して記入する。 ①置換後の凡例がロックの凡例にない →凡例番号は変更しない。 ②置換後の凡例がロックの凡例にすでにある →凡例番号をすでにある凡例と同じにする。また、置換した結果同じ凡例のポリゴンが接する場合はポリゴンを統合する。

*2011 年に公開種が 408 種から 561 種に変更されたため、2012 年度から 561 種とした。

3.2 GIS 植生図の出力図

3.2.1 GIS データおよび植生図

植生図 GIS データおよび植生図の仕様は「植生図 GIS データ製品仕様書（第 2.0 版）」「植生図 GIS データ作成ガイドライン（第 2.2 版）」に準ずるものとする。

植生図出力図（図 3.2.1）は各 1 部作成し納品する。また、植生図を複製し、ブロック調査会議関係者（ブロック統括委員、検討委員、該当する都道府県担当者）に 1 部ずつ送付する。

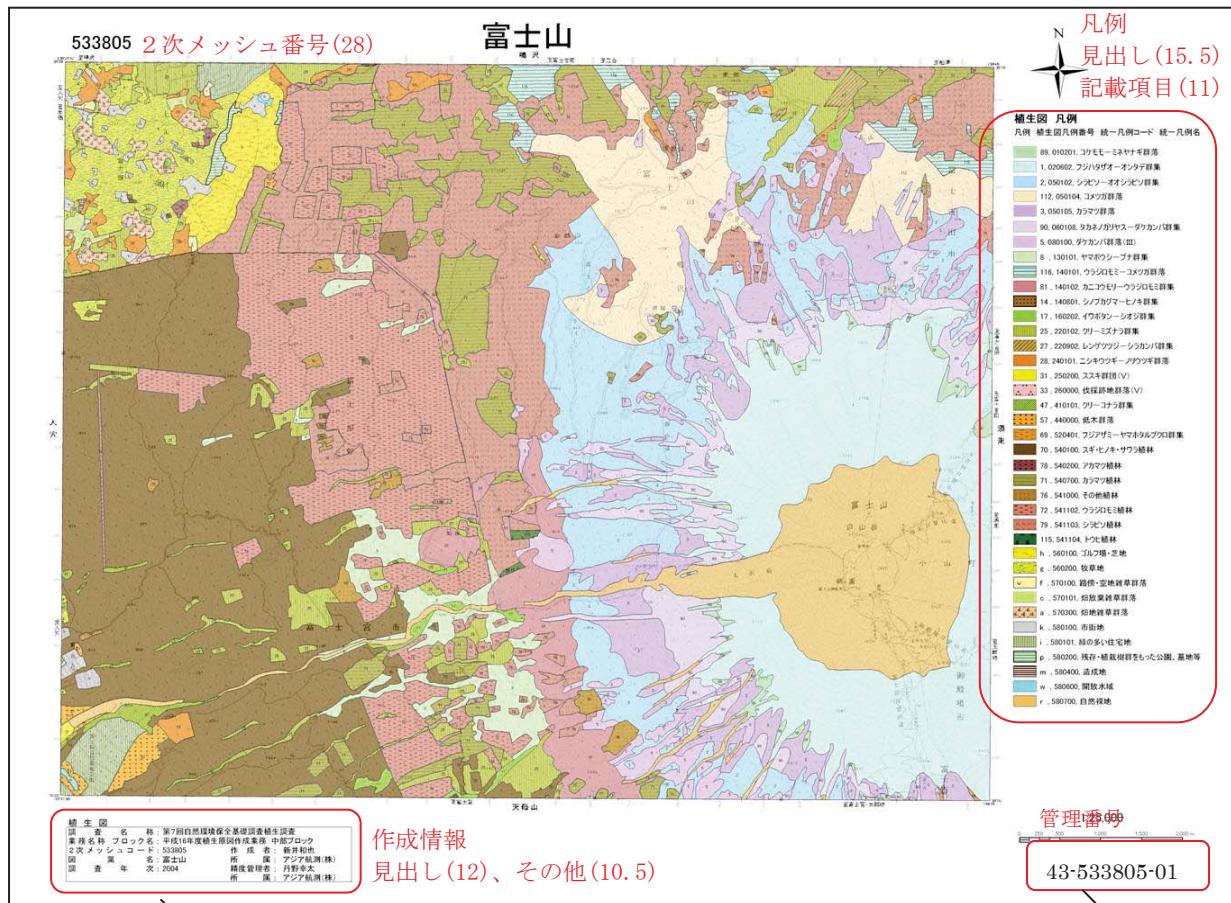


図 3.2.1 出力図のレイアウト及び記載例

調査名	称：自然環境保全基礎調査植生調査	
業務名称	ブロック名：平成 27 年度植生図作成業務 ○○ブロック	
2次メッシュコード	533805	作成者：
図査葉	名：富士山	所属：現地調査法人
年次	2013	業務管理者：
		所属：現地調査法人

43-533805-01
植生図 GIS データ
作成ガイドライン p50～参照。新規作成図は後に
-01 を付ける。

植生図 GIS 出力図は折らずに紙筒等に格納する（形態は任意）。図葉リストを必ず添付する。

3.3 ブロック版報告書

植生調査の結果は、植生調査報告書（ブロック版報告書）公開用と確認用にとりまとめる。

公開用報告書と確認用報告書との違いは次のとおりである。

- ・公開用報告書は RL 種を削除または置き換える。
- ・資料の構成が異なる。 公開用報告書の資料は議事概要のみであるが、確認用報告書の資料はその他に議事録、RL 種出現状況、図化基準等を含む。
- ・確認用報告書の方が作成上は重要であり、確認用報告書から公開用報告書を作成する。
- ・確認用報告書は納品するほかに、ブロック統括委員、検討委員全員、該当する都道府県担当者に送付する。

ブロック版報告書は所定の「ブロック版報告書フォーム *」に従って作成する。

* 「ブロック版報告書フォーム」のファイル(ワード、エクセル)は幹事法人から送付する。

3.3.1 ブロック版報告書の仕様

(1) 分冊方法

法人別ブロック別に分け「公開用」と「確認用」を作成する。

公開用報告書は、秘匿すべき環境省 RL 種等について、位置が特定できる表現や貴重種を多く含むという表現を基本的に全て削除する。

確認用報告書は環境省 RL 種等の秘匿を行わないものとし、秘匿すべき環境省 RL 種等を含む場合は「環境省 RL 情報あり（取扱注意）」のマークを付ける。RL 種が無い場合は表紙のマークは不要であるが、必ず確認用（非公開）と記載する。

(2) 製本

- 公開用報告書の体裁は表紙にミント（レザック 66 175 kg）を用い、くるみ製本とする。
部数は 6 部。
- 確認用報告書の体裁は表紙にミント（レザック 66 175 kg）を用い、くるみ製本とする。
部数は 2 部。
- 用紙は可能な限り市中回収古紙を含む再生紙を使用する（図 3.3.1）。

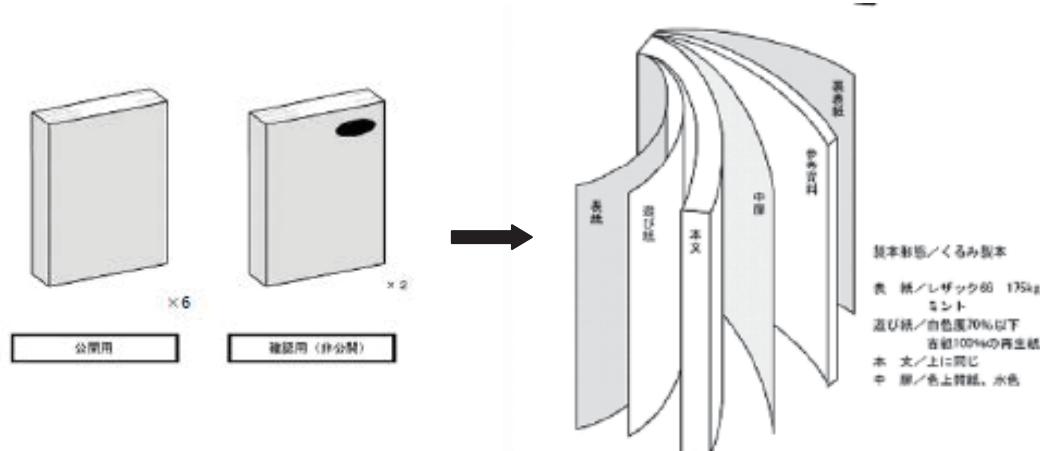


図 3.3.1 装丁・印刷形態

(3) ページのふり方

- 先頭に、遊び紙、はじめに、サマリー、まえがき、目次（ページ外）をおく。
- 中扉は水色紙とし参考資料目次、資料目次（確認用報告書のみ）を印刷する（ページ外）。
- 本文は“－1－”、参考資料は“－参1－”、確認用報告書の資料は“－資1－”からの連番とする。
- A4は原則として両面印刷とし、右側ページは奇数、左側ページは偶数とする。
- A3は片面印刷とし右下に奇数と偶数2ページを連続してふる（例：－1－－2－）。
- A3をはさむと、その前のA4が奇数ページの場合はA4裏面を白紙とし1ページ分とばす（図3.3.2）。

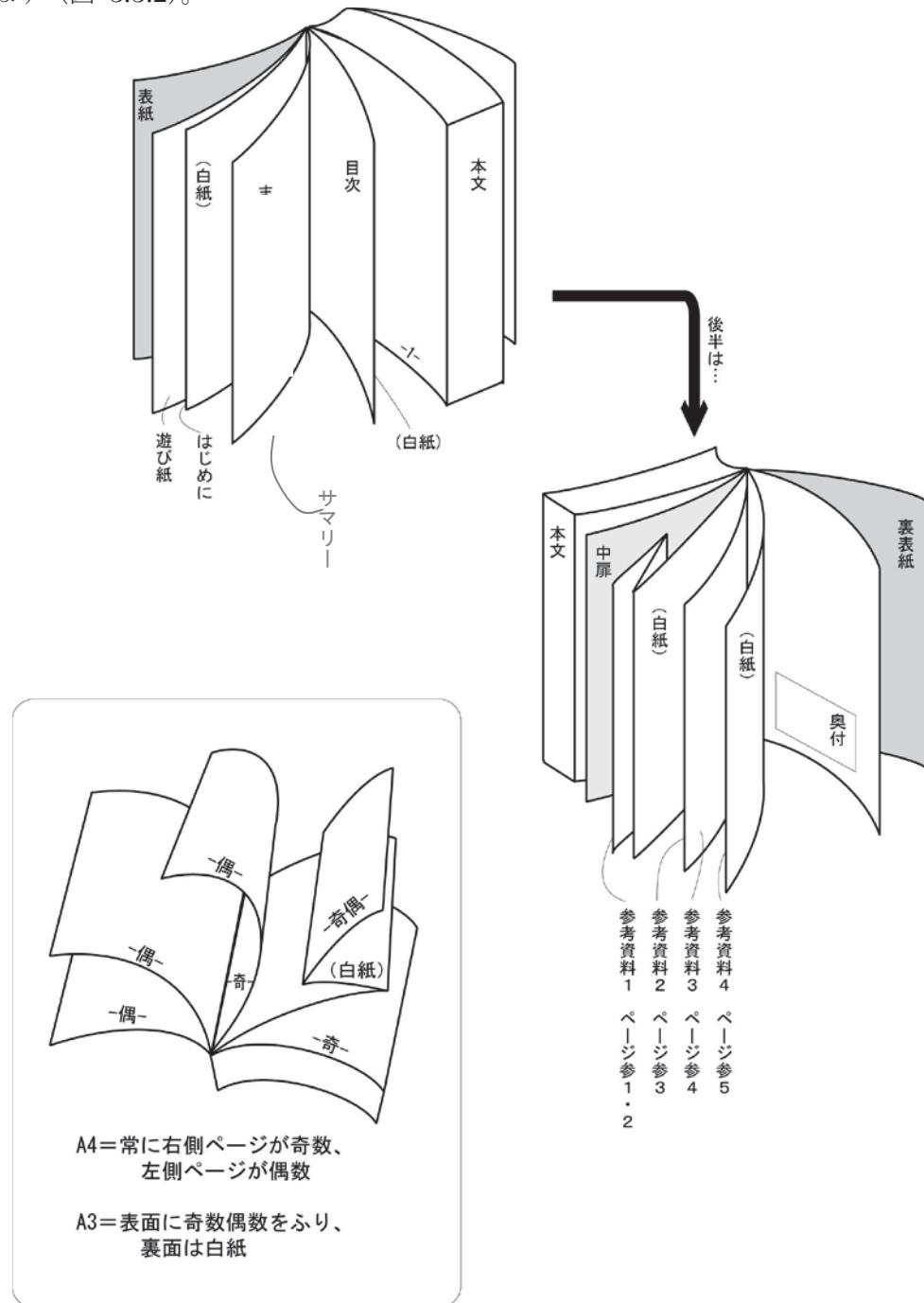


図 3.3.2 ページのふり方

3.3.2 ブロック版報告書の作成

(1) 目次・構成

ブロック版報告書は公開用・確認用ともに本編、資料編、参考資料の構成とする。目次・図表・資料一覧を表 3.3.1 に示す。

表 3.3.1 植生調査報告書＜ブロック版＞の目次・図表・資料一覧

●は秘匿すべき環境省RL種を削除する

	報告書の構成	公開用	確認用	備考
本編	本文 1 調査概要 2 凡例一覧 3 現地調査結果概要 4 ブロック別凡例解説 5 検討結果 6 収集資料 7 検討委員・調査者	●	○	
本編中図表	図1 整備地域	○	○	ブロック調査会議規定資料
	表1-1 2次メッシュ別管理リスト	○	○	実施計画書
	表1-2 判読情報_2015_〇〇	○	○	
	表2 ブロック別凡例一覧表_2015_〇〇	●	○	ブロック調査会議規定資料
	表3-1 現地調査概要	○	○	ブロック調査会議規定資料
	表3-2 調査地点一覧（組成調査）	●	○	ブロック調査会議規定資料
	表3-3 調査地点一覧（優占種調査1・2）	●	○	ブロック調査会議規定資料
	図3 調査地点位置図	○	○	ブロック調査会議規定資料
	表4 ブロック別凡例解説	●	○	
	表5-1・図5-1～	●	○	
資料編	表6 収集資料一覧表	○	○	ブロック調査会議規定資料
	表7 〇〇ブロック検討委員・調査者名簿	○	○	
	資料1 非公開の環境省RL種の掲載状況	-	○	
	資料2-1 第1回〇〇ブロック調査会議議事概要	●	○	
	資料2-2 第2回〇〇ブロック調査会議議事概要	●	○	
	資料3-1 第1回〇〇ブロック調査会議議事録	-	○	ブロック調査会議規定資料
	資料3-2 第2回〇〇ブロック調査会議議事録	-	○	
	資料4 〇〇ブロック検討事項一覧表	-	○	
	資料5 〇〇ブロック図化基準	-	○	ブロック調査会議規定資料
	資料6 〇〇ブロック凡例	-	○	
参考資料	資料7 ヒアリング調査票	-	○	
	資料8 空中写真・衛星画像の数量	-	○	
	資料9 植生図全体図（植生図一覧図）	-	○	ブロック調査会議規定資料
	参考資料1 平成27年度整備地域一覧（全国）	○	○	
	参考資料2 組成調査票サンプル	●	○	
備考	参考資料3 優占種調査票1サンプル	●	○	
	参考資料4 優占種調査票2サンプル	○	○	
	参考資料5 現地写真サンプル	○	○	

平成 26 年度からの変更点

- ・本編 1 の表題を業務概要に、表 1-1 の表題を 2 次メッシュ管理リストとする。作成にあたり以下の点に留意する。

- 凡例解説（表4）は凡例の定義、地域的な特記事項（優占種、構造、生態的立地、他凡例との関係、分布）の順に述べ、原則として254文字以下でまとめる。

- 議事概要、議事録の参加者所属・役職とブロック検討委員・調査者名簿（表7）のそれとを一致させる。

本文5の検討結果はブロック調査会議等の具体的な資料、図表を示し、検討結果と課題を明確にさせる。

- 環境省の著作物となるため、「環境省は…」等の表現は避ける。
- 共通の表記方法に準拠する（例：1/5万植生図、○○—○○群集等）。
- 表（エクセルファイル）は文字が隠れないように行幅、列幅を調整する。
- 下記の(2)共通の表記方法に準拠する。特に、群集名に使用する「一」は全角マイナスを用いる。

(2) 共通の表記方法

凡例解説、本文等の用語はすべて以下のように統一する。

1) 調査名等

- 調査地域、調査範囲、対象範囲、整備範囲、整備対象地域 → 整備地域
- 第2回第3回、第2回3回、第2回第3回調査 → 第2回・第3回基礎調査
- 第7回調査 → 第7回基礎調査（平成22年度以後、第8回の語は不使用）
- 旧植生図 → 1/5万植生図（平成22年度から変更）
- 第6回（平成12年度）以降の植生図 → 1/2.5万植生図（平成22年度から変更）
- 旧凡例 → 1/5万植生図凡例
- ブロック会議 → ブロック調査会議
- 現地法人 → 現地調査法人

2) 年号

- 文中では和暦（例：平成27年度）
- DBデータは西暦（例：2015）
- 昨年→具体的な年を和暦で示す。

3) 漢字

- など→等

4) 数字

- 2桁以上の数字は半角で統一する。なお、表題の平成2*年度のみ全角とする。
- 1桁の数字は文中では全角で統一し、表やファイル名の数字は原則として半角を用いる。
- 4桁以上の数字には3桁区切りを入れる（例2,300m）。
- 植生区分を示すローマ数字I～Xは使用可とする。凡例名でローマ数字を使用する場合は半角アルファベット大文字（IV等）で表記してもよい（HTML変換で文字化けするため）。

5) 専門用語

- 群集名に使用するーは全角マイナスを用いる (〇〇ー〇〇群集)。

(3) 公開用の環境省 RL 種の扱いについて

「3.1.2 環境省 RL 種にかかる情報」参照。

(4) ブロック版報告書の確認

現地調査法人は報告書案をとりまとめ、環境省および幹事法人に送付する。環境省および幹事法人によるチェックを受け修正を行い、環境省の承認を得て印刷する。

3.3.3 ファイル作成要領

オリジナルファイルから PDF ファイルを作成し、各フォルダに格納する。

(1) オリジナルファイル

- ファイル名は年度、ブロック、図表および資料番号を_で連結し示す。
(例：20xx_北海道_表 3-1 組成調査一覧表.xls)
- ファイルから不要なシートは削除する。
- 本編、資料編、参考資料の各フォルダに格納する。

(2) PDF ファイル

- 公開用報告書は全部まとめて 200x_北海道ブロック報告書.pdf とする。
- 確認用報告書も同様に 200x_北海道ブロック報告書（確認用）.pdf とする。

3.4 現地調査データ

3.4.1 現地調査データ入出力の概要

現地調査データは、データベースとして整理する。その後出力用ユーティリティーにより個票や組成表に出力することができるので、組成検討に活用する（図 3.4.1）。

*H27 全国植生 Db、入力フォーマット、植生データ出力マクロ等は幹事法人により配布する。

(1) 入力

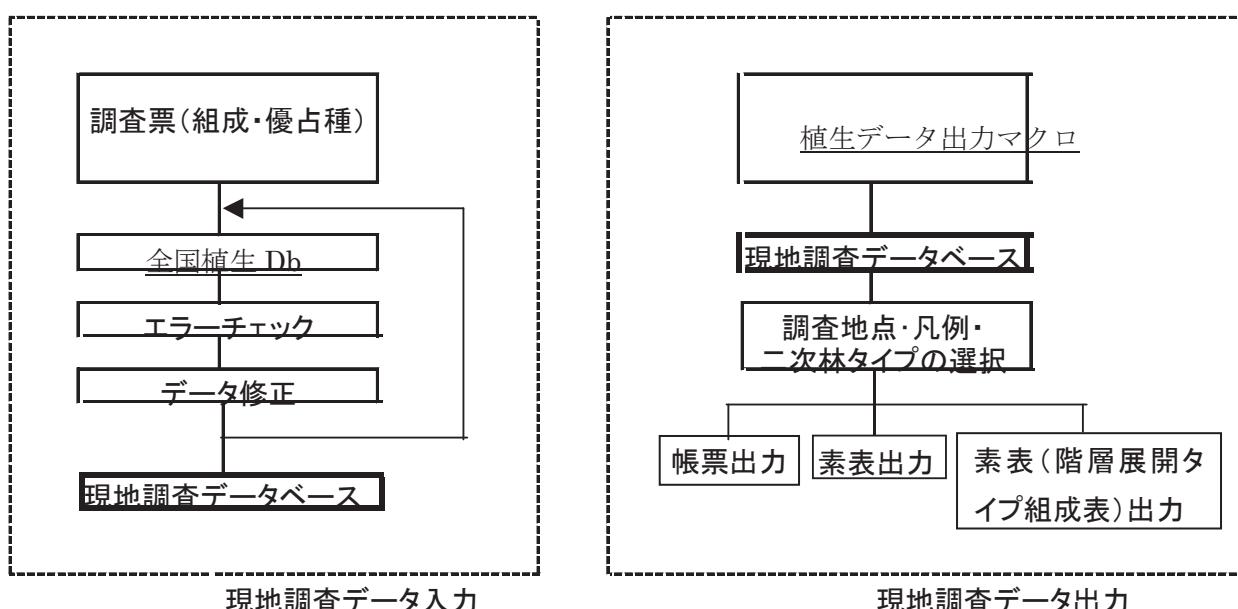
現地調査データの入力は、植生現地調査データベース "H27 植生 Db.mdb"（アクセスファイル）によって行う（図 3.4.2）。

- H27 全国植生 Db.accdbはデータ入力、表示・編集、エラーチェック、データ出力、写真ファイル名変換の機能をもつ。
- 入力には 入力フォーマット（エクセルファイル） を使って Db にインポートすることができるが、現地調査地点コード（23 衔）の間違いを避けるため、できるだけアクセスファイルで入力する。

(2) 出力

植生データ出力マクロ "H27 植生出力.xlsxm"（エクセルファイル）（図 3.4.3）で入力した植生現地調査データベースを読み込むと、選択した調査地点について個票（帳票）や組成表（素表）が出力できる。帳票出力例を表 3.4.1 に、素表出力例を表 3.4.2 に示した。

図 3.4.1 現地調査データ入出力の関連



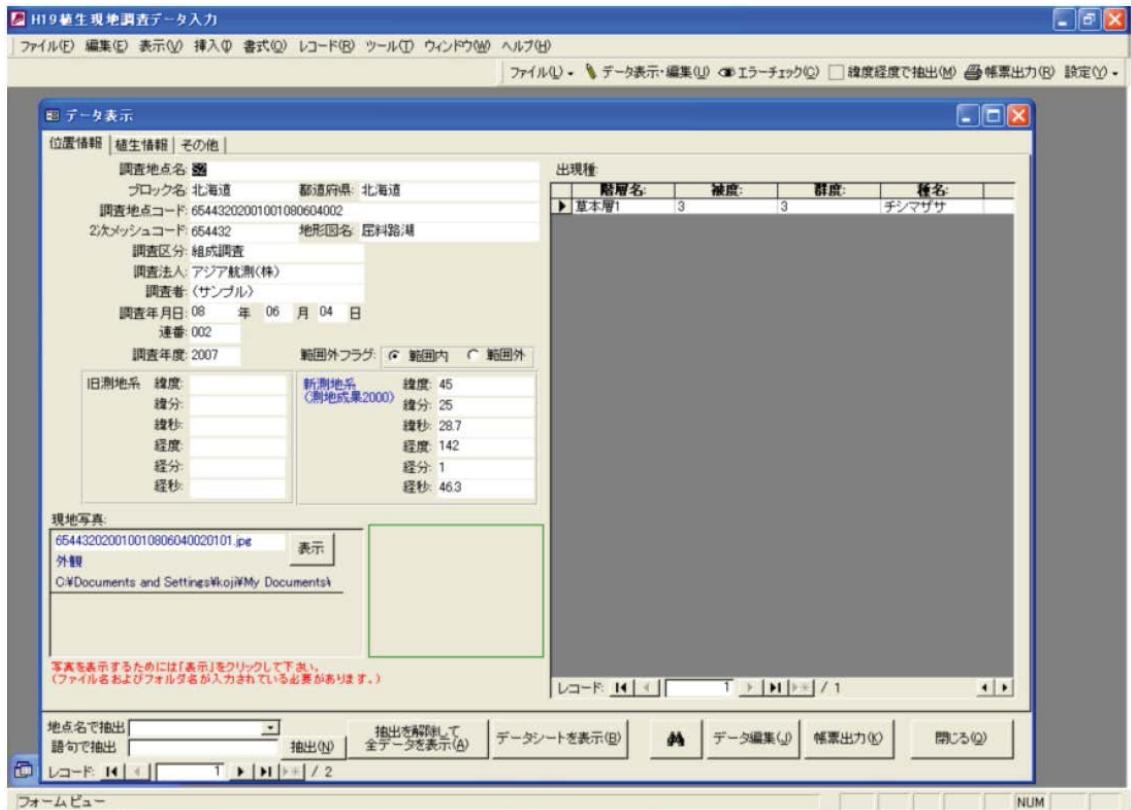


表 3.4.1 全国植生データ出力マクロによる帳票出力例（組成調査）

植生調査票							組成調査		調査年度 2009	
二次メッシュ		調査区分		法人ID	調査者ID	年月日				
地点コード	533642	02	013	001	090728	003	調査地点名	S03		
二次メッシュ	533642	地形図名	広野				調査年月日	09年07月28日		
ブロック名	北陸	都道府県名	福井	市町村名	南条郡南越前町広野		出現種数	87		
緯度	35度 43分 30秒									
経度	136度 17分 19秒									
旧測地系							新測地系			
調査面積	10×10	海拔	400m				方位	S80W		
傾斜	20°	地形	斜面下部				土壤	褐森土		
風当	弱	日当	中陰				土温	適		
資料No.		資料名称								
発行年		発行者					記載された群落			
階層	優占種	高さ	植被率	胸高直径	種数					
高木層	ミズナラ	16	90	50	7					
亜高木層	-	8	65	15	9					
低木層1	-	4	50	5	8					
低木層2										
草本層1	チシマザサ	2	80	-	11					
草本層2	-	0.5	75		66					
コケ層										
植生区分	V	ブナクラス域代償植生	凡例コード	220103	凡例名	オオバクロモジーミズナラ群集				
大区分	落葉広葉樹二次林	中区分	ブナ-ミズナラ群落		細区分	オオバクロモジーミズナラ群集				
群落名										
被度群度	種名	被度群度	種名	被度群度	種名					
<高木層>		2・3	キバナアキギリ	+	ウワミズザクラ					
3・3	ミズナラ	2・3	ツタウルシ	+	オオカメノキ					
2・3	シナノキ	2・2	ハイイヌガヤ	+	オオバキボウシ					
2・2	ミズメ	2・2	ミヤマカタバミ	+	クモキリソウ					
1・2	ケヤキ	1・2	アカソ	+	サルナシ					
1・2	ケンポナシ	1・2	イワガラミ	+	シシガシラ					
1・1	コナラ	1・2	エゾアジサイ	+	ショウジョウバカマ					
1・1	ネムノキ	1・2	オクノカンスゲ	+	チゴユリ					
<亜高木層>		1・2	シロヨメナ	+	ナガバモミジイチゴ					
2・2	ウワミズザクラ	1・2	タチシオデ	+	ナライシダ					
2・2	サワシバ	1・2	チャボガヤ	+	ナルコユリ					
2・2	ハクウンボク	1・1	ニワトコ	+	ノササゲ					
2・2	ヤマモジ	++2	アキチヨウジ	+	ハクウンボク					
1・2	イタヤカエデ	++2	アキノタムラソウ	+	ヒメアオキ					
1・2	ウリハダカエデ	++2	ウツギ	+	ホソバトウゲシバ					
1・1	イヌブナ	++2	ウリハダカエデ	+	マユミ					
++2	ツルアジサイ	++2	オオカモメヅル	+	マルバアオダモ					
+	ヤマボウシ	++2	カエデドコロ	+	マルバマンサク					
<低木層1>		++2	キヅタ	+	ミズナラ					
2・2	シナノキ	++2	コチヂミザサ	+	ムラサキシキブ					
2・2	ヤマモジ	++2	サカゲイノデ	+	ムラサキマユミ					
1・2	サワシバ	++2	ジュウモンジンジダ	+	ヤマザクラ					
1・2	ムラサキシキブ	++2	スミレサイシン	+	ヤマジノホトギス					
1・1	ウリハダカエデ	++2	ゼンマイ	+	ヤマハッカ					
+	タカノツメ	++2	タンナサワフタギ	+	ヤマブキショウマ					
+	ヤマボウシ	++2	ツルアリドオシ	+	ユクノキ					
+	ユクノキ	++2	トウゴクシダ							
<草本層1>		++2	ハナイカダ							
3・4	チシマザサ	++2	ハンショウヅル							
2・3	ユキツバキ	++2	フジ							
2・2	オオバクロモジ	++2	ミズヒキ							
2・2	コマユミ	++2	ミゾソバ							
1・2	コアジサイ	++2	ミツバアケビ							
1・2	タンナサワフタギ	++2	ヤブコウジ							
1・2	ミヤマガマズミ	++2	リョウメンシダ							
1・2	ヤブデマリ	+	アカシデ							
1・1	リョウブ	+	イタドリ							
+	ツノハシバミ	+	イヌシデ							
+	ナナカマド	+	イボタノキ							
<草本層2>		+	ウリカエデ							
調査法人名	〇〇株式会社									
調査者	植生太郎									
代表写真	533642020130010907280030101.jpg									
備考										

表 3.4.2 全国植生データ出力マクロによる素表出力例（組成調査）

3.4.2 現地調査データの内容

現地調査データは、「調査地点一覧」、「植物表（階層別種リスト）」「全写真リスト」の3つのテーブルとして整理する。調査地点一覧のフィールドを表3.4.3に、植物表のフィールドを表3.4.4に示した。また、組成（資料）の入力事例を表3.4.5～3.4.6に示した。

*ファイル（アクセス、エクセル）は幹事法人より送付する。

(1) 調査地点一覧

調査地点一覧には、1地点1レコードとして以下の項目を記載する。優占種調査結果は、「調査地点一覧」のみに格納する。

- 調査地点情報（調査地点コード*1、2次メッシュ、調査区分、ブロック、都道府県、市町村、緯度・経度等）
- 調査実施情報（調査者、調査年月日等）
- 凡例（植生区分、凡例、付加情報等）
- 階層区分（高木層～コケ層の優占種名、植被率、高さ等）
- 立地情報（海拔、方位、傾斜、地形、土壤等）
- 資料情報（既存資料引用の場合）
- 現地写真ファイル名*2

(2) 植物表（階層別種リスト）

植物表には、組成調査結果の出現種1種を1レコードとして調査地点コード*1、階層区分、被度、群度、種名を記載する。組成調査票の項目は「調査地点コード*1」をキーとして「調査地点一覧」および「植物表」を組み合わせて表示される。

*1 調査地点コード

- ・ 調査地点コードは、**地点管理コード**と**地点識別コード**の組み合わせにより設定（全て半角数字の23桁表示）。
- ・ 管理コードは、[二次メッシュ+調査区分]の組み合わせで管理。優占種調査2は調査区分05とする。
- ・ 地点識別コードは、[法人ID+調査者ID+年月日+連番]の組み合わせで管理。
- ・ ※[法人ID+調査者ID+連番]で、地点の個別識別は可能であるが、調査実施時における誤設定を軽減させるため、[年月日]単位に連番を振りなおすこととする。

例) 管理コード・[二次メッシュ+調査区分]+地点識別コード・[法人ID+調査者ID+年月日+連番] → 53394501001001010801001

項目	コード設定	桁数	例
二次メッシュ	標準地域メッシュの第2次地域区画のコード	6	533945
調査区分	優占種調査1;01、組成調査；02、組成（資料）；03 優占種（資料）；04、優占種調査2；05	2	01
法人ID	全国単位に設定する、法人のID	3	001
調査者ID	法人単位に設定する、調査者のID	3	001
年月日	年（2桁）十月（2桁）十日（2桁）	6	010801
連番	[法人ID+調査者ID+年月日]別に振られる、連続番号	3	001

*2 現地写真ファイル名（写真ファイル名のつけ方）

- ・ 全て半角の英数字・記号の30桁表示。
- ・ 写真ファイル名は、調査地点コード、写真区分、連番、ファイル形式（拡張子）の組み合わせにより設定。
例) [調査地点コード] + [写真区分+連番] + [ファイル形式] → 5339450100100101080100101.jpg

項目	コード設定	桁数	事例
調査地点コード	上記に示す調査地点コード	23	上記参照
写真区分	外観；01、林内；02、林床；03	2	01
連番	調査地点コード別に振られる連続番号。	2	01
ファイル形式	画像ファイルの拡張子。	3	.jpg

表 3.4.3 調査地点一覧のフィールド

1 調査地点コード	2 調査地点名	3 2次メッシュコード	4 調査区分コード	5 調査法人コード	6 調査者コード	7 調査年	8 調査月	9 調査日	10 連番		
39270501004004020128006	ok-y6	392705	01	004	004	02	01	28	006		
11 緯度	12 緯分	13 緯秒	14 経度	15 経分	16 経秒						
17 緯度_NEW	18 緯分_NEW	19 緯秒_NEW	20 経度_NEW	21 経分_NEW	22 経秒_NEW	23 範囲外フラグ					
26	4	49.2	127	38	37.5	0					
24 ロックコード	25 都道府県コード	26 群落名称(相観区分的な視点)	27 最高階層区分	28 最高階層優占種名	29 最高階層高さ	30 代表写真ファイル名	31 植生区分	32 凡例コード	33 凡例名	34 群落名	
8	47		3	アダン	3.5	3927050100 4004020128 0060101.jpg	VII	390200	アダン群団		
35 高木層優占種	36 高木層高さ	37 高木層植被率	38 高木層胸高直径	39 高木層種数							
40 亜高木層優占種	41 亜高木層高さ	42 亜高木層植被率	43 亜高木層胸高直径	44 亜高木層種数							
45 低木層1優占種	46 低木層1高さ	47 低木層1植被率	48 低木層1胸高直径	49 低木層1種数							
アダン	3.5										
50 低木層2優占種	51 低木層2高さ	52 低木層2植被率	53 低木層2胸高直径	54 低木層2種数							
55 草本層1優占種	56 草本層1高さ	57 草本層1植被率	58 草本層1胸高直径	59 草本層1種数							
60 草本層2優占種	61 草本層2高さ	62 草本層2植被率	63 草本層2胸高直径	64 草本層2種数							
65 コケ層優占種	66 コケ層高さ	67 コケ層植被率	68 コケ層胸高直径	69 コケ層種数							
70 調査面積	71 出現種数	72 市町村名	73 海拔	74 方位	75 傾斜	76 地形	77 土壤	78 風当			
		糸満市	20	S	45						
79 日当	80 土湿	81 資料No	82 資料名称	83 発行者	84 発行年	85 記載された群落名	86 記載ページ等	87 備考	88 調査年度		
									2013		

表 3.4.4 植物表のフィールド

1 調査地点コード	2 階層	3 被度	4 群度	5 種名	6 備考
57401002001008001014007	1	1	1	オオヤマザクラ	

表 3.4.5 調査地点一覧における組成（資料）の入力事例

調査地点コード	調査地点名	2次メッシュコード	調査区分コード	調査法人コード	調査者コード	調査年	調査月	調査日	連番	
39270503004008020128006	Na06-11	392705	03	004	008	73	08	04	078	
11 緯度	12 緯分	13 緯秒	14 経度	15 経分	16 経秒	2次メッシュコード 調査地などからできるだけ2次メッシュを入れる。 1次メッシュしか確定できなければ 3927-99とする。				
						調査者コード 資料+Tabで1つの調査者コードを設ける。				
17 緯度_NEW	18 緯分_NEW	19 緯秒_NEW	20 経度_NEW	21 経分_NEW	22 経秒_NEW	23 範囲外フラグ	連番 資料のTabのうち、該当する地点の連番または調査番号を入れる。			
0	0	0	0	0	0	0				
24 ブロックコード	25 都道府県コード	26 群落名称(相観区分的な視点)	27 最高階層区分	28 最高階層優占種名	29 最高階層高さ	30 代表写真ファイル名	31 植生区分	32 凡例コード	33 凡例名	34 群落名
5	20						IV	140802	シャクナゲ -ヒノキ群集	ホソバシャク ナガ-ヒノ キ群集
35 高木層 優占種	36 高木層 高さ	37 高木層 植被率	38 高木層 胸高直径	39 高木層 種数						
	13	80								
40 亜高木層 優占種	41 亜高木層 高さ	42 亜高木層 植被率	43 亜高木層 胸高直径	44 亜高木層 種数						
	6	10								
45 低木層1 優占種	46 低木層1 高さ	47 低木層1 植被率	48 低木層1 胸高直径	49 低木層1 種数						
	3	40								
50 低木層2 優占種	51 低木層2 高さ	52 低木層2 植被率	53 低木層2 胸高直径	54 低木層2 種数						
55 草本層1 優占種	56 草本層1 高さ	57 草本層1 植被率	58 草本層1 胸高直径	59 草本層1 種数						
	0.4	20								
60 草本層2 優占種	61 草本層2 高さ	62 草本層2 植被率	63 草本層2 胸高直径	64 草本層2 種数						
65 コケ層 優占種	66 コケ層 高さ	67 コケ層 植被率	68 コケ層 胸高直径	69 コケ層 種数						
70 調査面積	71 出現種数	72 市町村名	73 海拔	74 方位	75 傾斜	76 地形	77 土壌	78 風当		
30×20	21	木曾郡木曽町 開田	1680							
79 日当	80 土湿	81 資料No	82 資料名称	83 発行者	84 発行年	85 記載された 群落名	86 記載ページ 等	87 備考	88 調査年度	
			長野県の現存植生	長野県	1979	ホソバシャク ナガ-ヒノ キ群集			2013	

表 3.4.6 植物表の組成（資料）の入力事例

調査地点コード	階層	被度	群度	種名	備考
39270503004008020128006	1	2	2	ヒノキ	

(3) 種名の表記

- 植物の種名は地域植物誌との照合等を行い誤同定のないようにチェックする。
- 植物の種名は基本的に「環境庁植物目録」に準じることとし、全角カタカナで表記する。
- 「－」は全角マイナスを用いる（例：ギーマ→ギイマ、ビロードイチゴ→ビロードイチゴ）。
- 不明種のうち、科または属レベルまでわかるものは、「○○科の一種」、「○○属の一種」とする。学名の科名、属名を用いて「sp.」を付しても良い（例：Compositae sp. Angelica sp.）。同じ属で複数出現する場合は「○○属の一種 1」「○○属の一種 2」…とする。
- 不明種のうち、種レベルまではほぼわかるが同定に疑問の残るものは、種名の後に「sp.」を付ける。
- 種名の注記や備考等は、別フィールドに記入する。種名と同じフィールドには入れない。
- 「環境庁植物目録」に掲載されていない地域固有種等は、標準和名＋学名を入力する。

3.5 電子ファイル（電子媒体）

3.5.1 格納媒体

格納媒体は、CD-R または DVD-R 等とする。

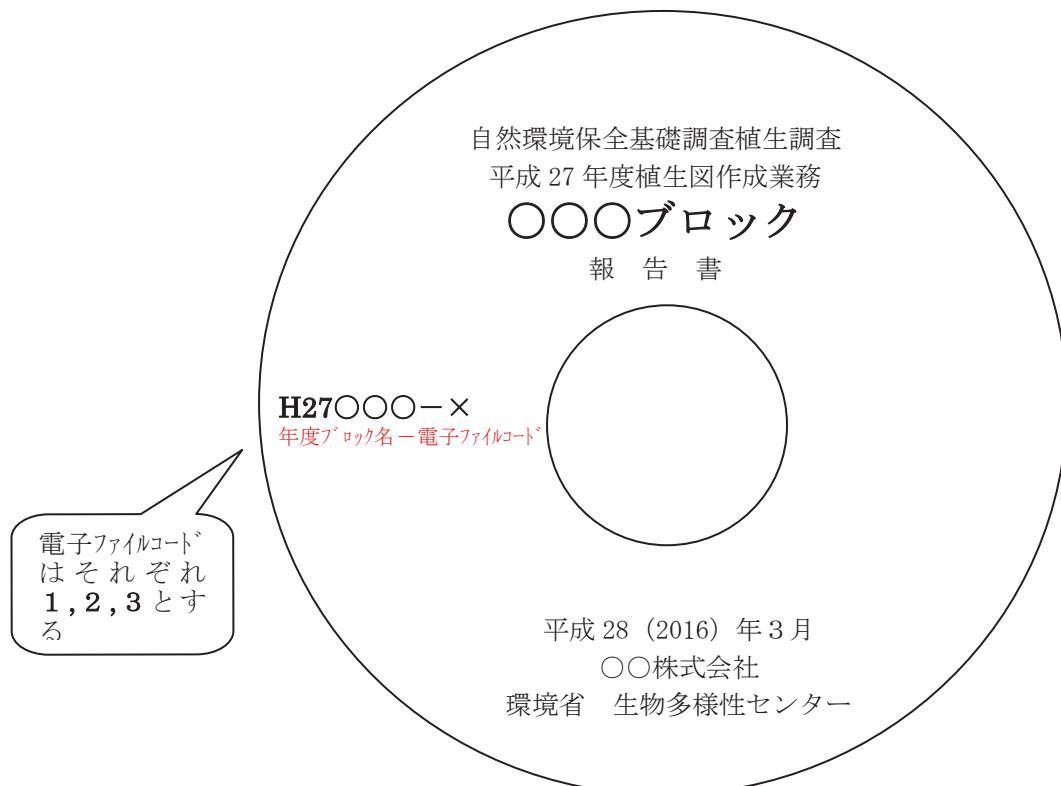
3.5.2 電子媒体の表題

格納媒体には電子ファイルコードを付け、以下の項目を印刷する*。報告書、植生図 GIS データに秘匿すべき環境省 RL 種が含まれている場合は「環境省 RL 情報あり」という赤ラベルを付ける。

- 事業名称：自然環境保全基礎調査植生調査
- 業務名称：平成 27 年度植生図作成業務
- ブロック名：○○○ブロック
- 内容（項目）：報告書・植生図 GIS データ・内部管理資料 ※項目が複数 CD にまたがる場合は、項目名の後に（通し番号／該当項目がまたがる枚数）を表記する。
- ID: ※H2*○○○-電子ファイルコード（表 3.1.2）
- 事業年度（納品年月）：平成○（20xx）年 3 月
- 受注者名称：○○株式会社
- 発注者名称：環境省 生物多様性センター

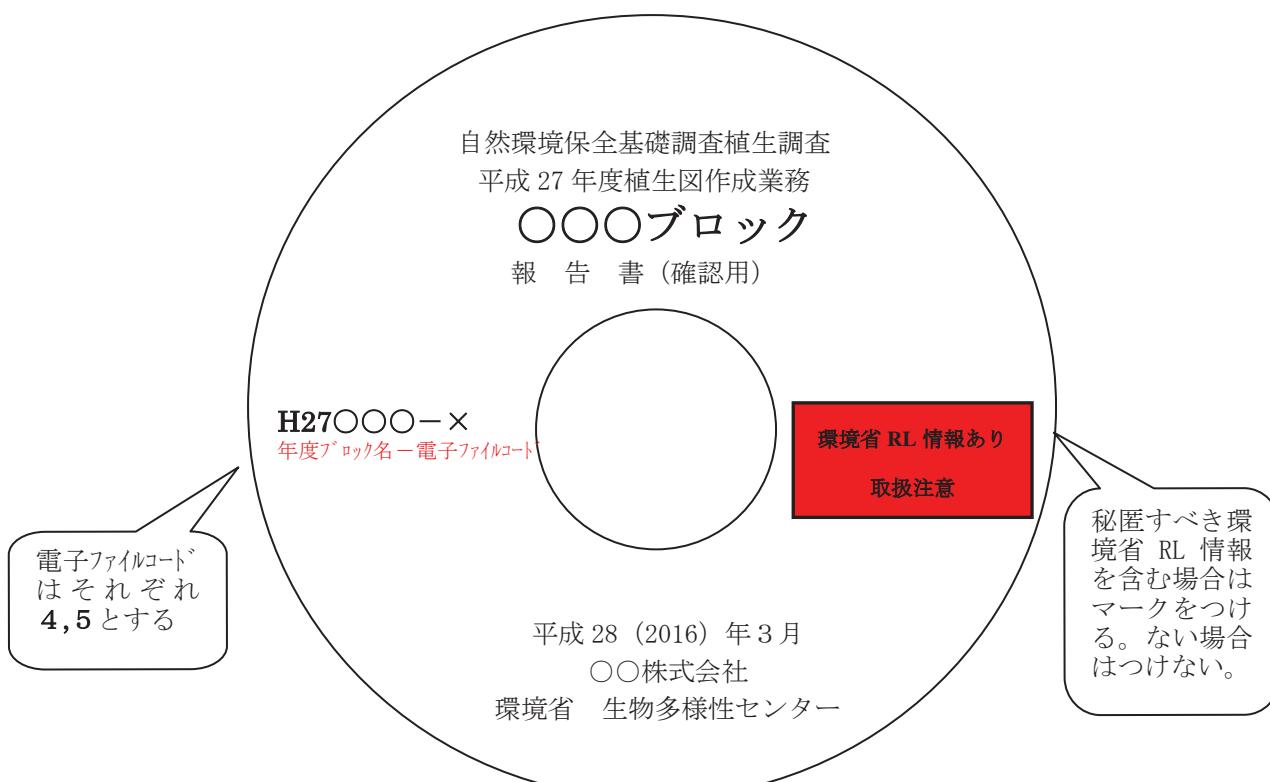
(1) 報告書（公開用）CD（納品部数3部）

秘匿すべき環境省 RL 情報を含まないブロック用報告書の電子ファイルを格納する。



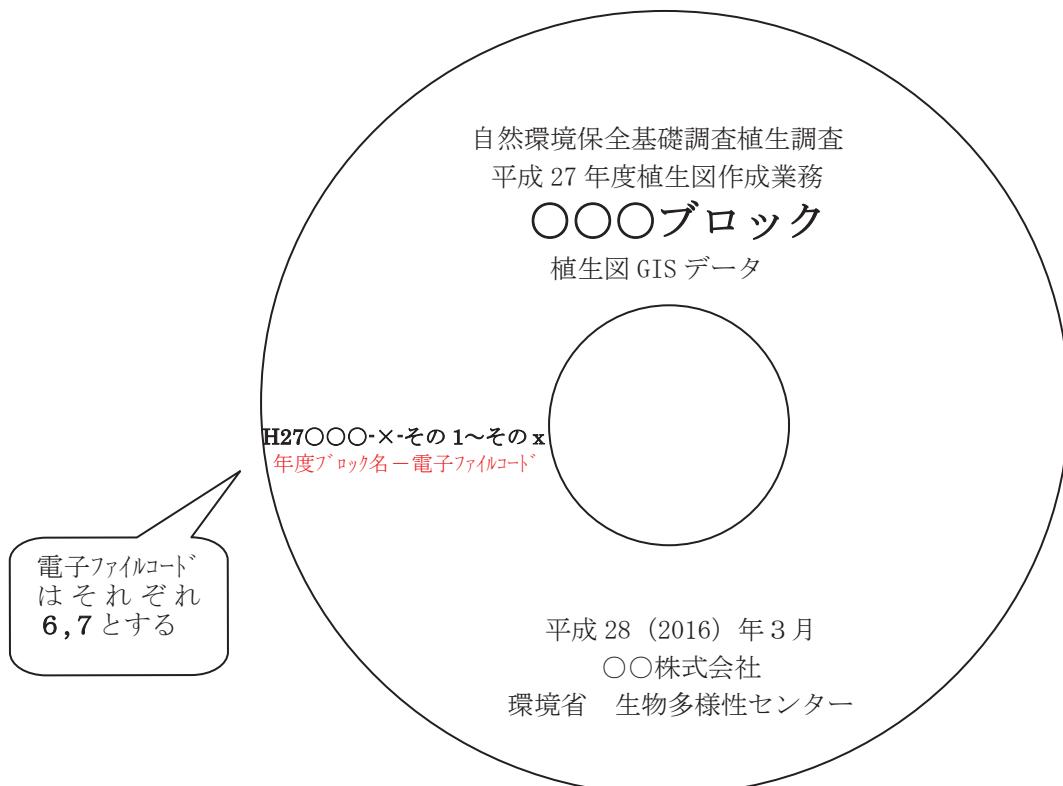
(2) 報告書（確認用）CD（納品部数2部）

資料編や秘匿すべき環境省 RL 情報を含むブロック用報告書、及びブロック調査会議資料の電子ファイルを格納する。



(3) 植生図 GIS データ（公開用）CD（納品部数 2 部）

秘匿すべき環境省 RL 情報を含まない植生図 GIS データ・色設定ファイル一式を格納する。



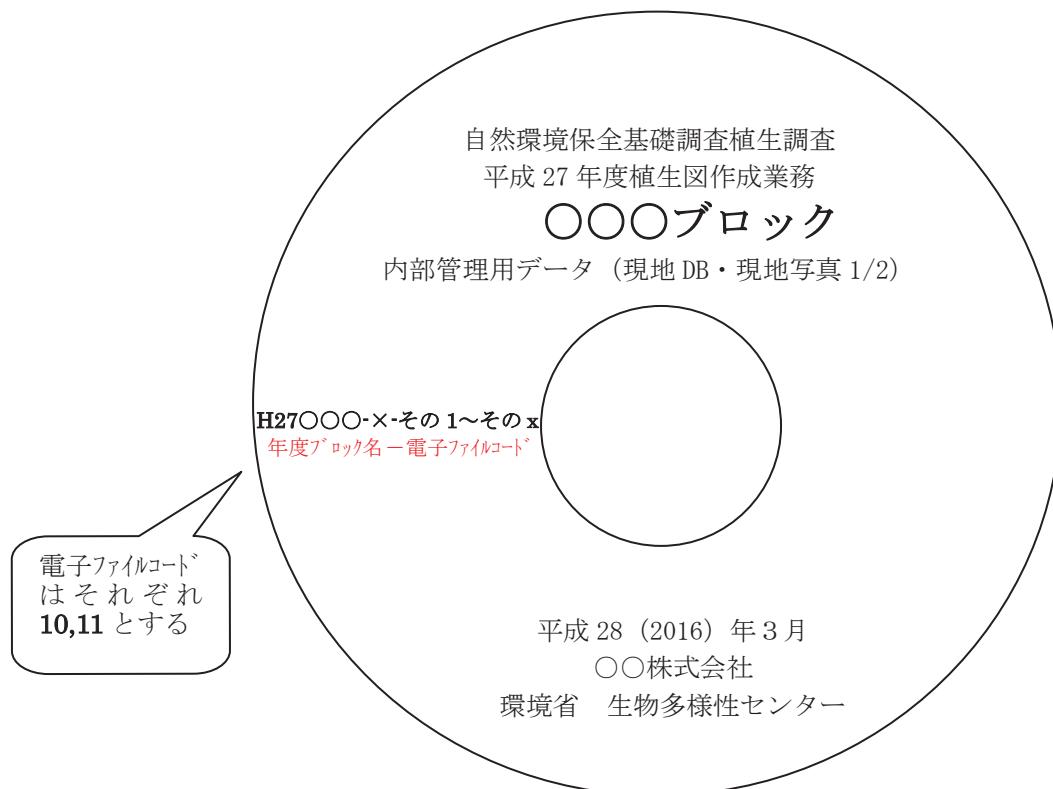
(4) 植生図 GIS データ（環境省 RL あり版）CD（納品部数 2 部）

秘匿すべき環境省 RL 情報を含む植生図 GIS データ・色設定ファイル一式を格納する。環境省 RL 情報を含む植生図がない場合は不要とし、電子ファイルコードは欠番とする。



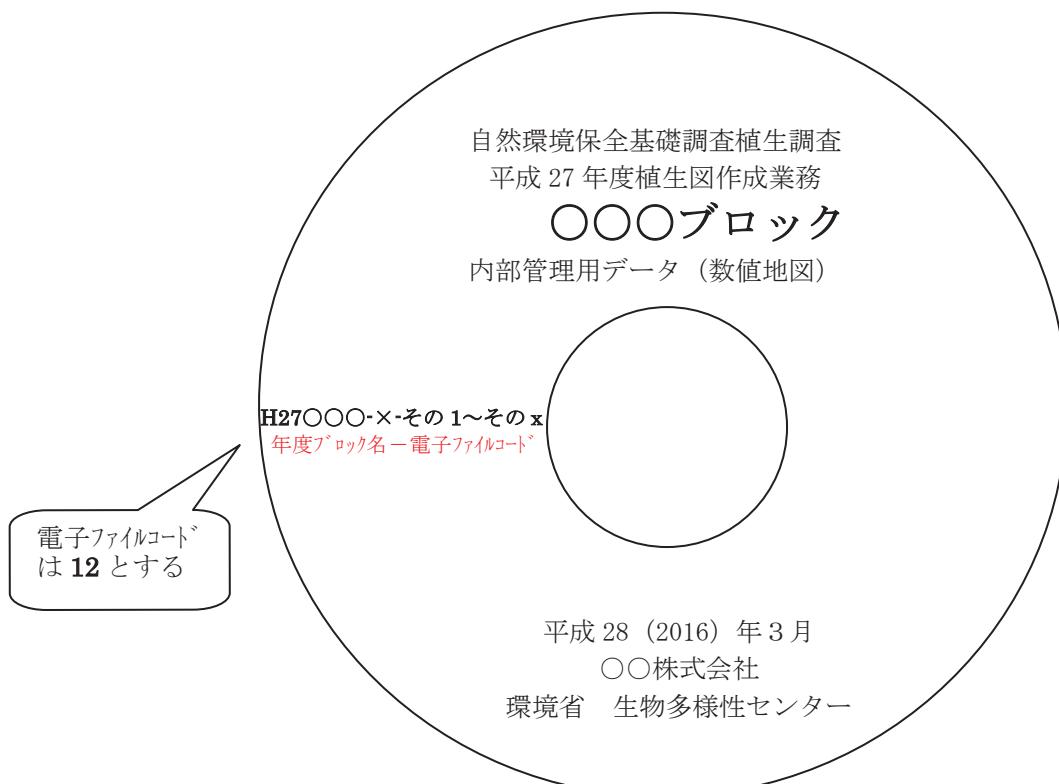
(5) 内部管理用データ（納品部数2部）

数値地図以外の内部管理用データを格納する。



(6) 内部管理用データ（納品部数1部）

数値地図、デジタルオルソ等の内部管理用データを格納する。



3.5.3 CD の内容

(1) CD の部数

納品する CD は表 3.1.2 に示す部数とする。

(2) フォルダ構成

以下のフォルダに該当ファイルを格納する。

<1-1. 報告書公開用>

01 ブロック版報告書

<1-2. 報告書確認用>

01 ブロック版報告書

02 ブロック調査会議資料 ※以下のサブフォルダを設定して会議資料(ファイルのみ)を格納する。

第1回ブロック調査会議 ※最終版、pdf またはオリジナルファイル(組成表は必ずオリジナルファイルを入れる。)

第2回ブロック調査会議 ※同上

<2-1. 植生図 GIS データ公開用>

04 植生図 GIS データ ※04 植生図 GIS データの下に以下のサブフォルダを設定して格納する。

JGD- shape, jpg ※LOG ファイルは shape のサブフォルダにそれぞれ格納する。

COLOR ※凡例色設定にかかるレイヤーファイルまたはエクセルファイルを格納する。

<2-2. 植生図 GIS データ環境省 RL あり版>

04 植生図 GIS データ ※同上

<3-1. 内部管理用データ>

02 現地データ

03 現地写真 ※03 現地写真の下に以下のサブフォルダを設定して格納する。

2 次メッシュコード (半角数字 6 衔) _ (半角アンダーバー) 図葉名

05 内部管理用データ ※ブロック調査会議議事録(オリジナル)、空中写真台帳、その他作業用 shape ファイル

08 過年度植生図修正案.jpg、修正した過年度植生図 GIS データ

<3-2. 内部管理用データ (数値地図等)>

06 数値地図 ※背景図として使用したファイルを格納する。

07 デジタルオルソ (任意) ※空中写真コード、コース、番号等をファイル名または別添の対応表で示す。

(3) 電子ファイル 報告書ファイル等

ファイルは原則としてフィルタをとっても当該ブロックのみが表示されるものとする。ファイル名は原則として年度、ブロック名、図表番号、図表名を組み合わせて付ける。

ファイル名 : 年度 (西暦年 4 衔半角数字) _ (半角アンダーバー) ブロック名_図表名等.xls

・例 : 20xx_北海道_表 3-1 組成調査一覧表.xls

・例 : 20xx_北海道_現地写真リスト.xls

(4) 植生図 GIS データ

「04 植生図 GIS データ」に JGD, COLOR のサブフォルダを設定し、関連ファイル一式を格納する。JGD には shape, jpg を設ける。

(5) 現地写真ファイル等

現地写真は、内部管理用のフォルダ「03 現地写真」に、サブフォルダとして 2 次メッシュコード_図葉名等を設け、該当する現地写真（jpg ファイル）を格納する。

(6) クリアリングハウスメカニズムのメタデータ

クリアリングハウスメカニズム（CHM）のメタデータは全体が含まれる範囲（右上・右下等の 4 点）を登録する。登録番号は未記入でよい。

<3-1. 内部管理用データ>に 06 CHM のフォルダを設け、メタデータを格納する。

(7) 参照画像等

公開されていない画像を主判読画像とした場合は、納品可能な場合は電子ファイルまたは画像出力図を納める。参照画像出力図は、1 面を左右に分け A3 に 1/2.5 万で印刷し、冒頭に画像一覧図及び撮影時期一覧図をつけ A3 フォルダに収録する。

なお、WEB で公開されている「地図・空中写真閲覧サービス」や Google, Yahoo, BingMap の画像を参照した場合は納品の対象外とする。

3.6 空中写真等

使用した空中写真、標定図、収録アルバム別写真リスト等を空中写真アルバムに整理し納品する。

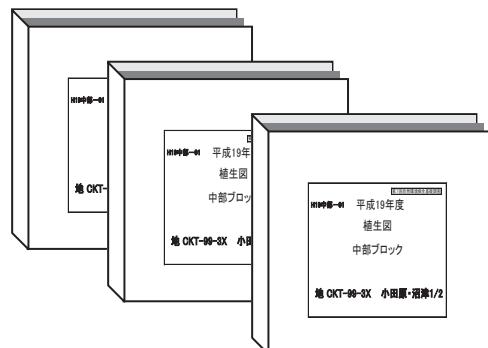
3.6.1 空中写真に関する成果品の構成

(1) 空中写真に関する成果品とは

空中写真アルバムに関する成果品は、以下の2点で構成される（図3.6.1）。これらの成果品の構成の概要を図3.6.2に示し、以下に空中写真アルバムの内容についてまとめた。

① 空中写真アルバム

空中写真、アルバム別写真リスト、標定図を収納した空中写真アルバム（空中写真収納ファイル）。またはA3またはA4の2穴ファイル。



② 電子ファイル（電子データ）

アルバムラベル、アルバム別写真リスト、収録アルバムリスト、標定図集の表紙・背表紙等を所定のエクセルフォームでまとめた電子ファイル。

なお、エクセルフォームは2013_空中写真フォーム.xlsを使用する。



図3.6.1 成果品

空中写真アルバム

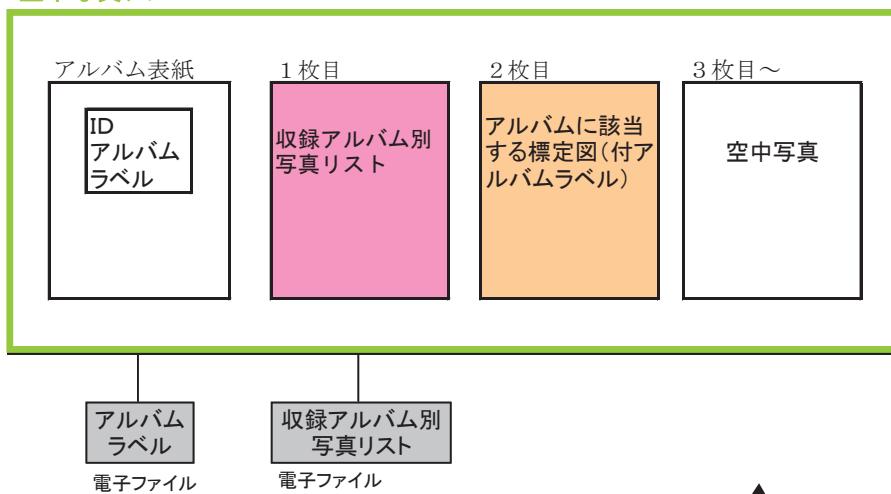
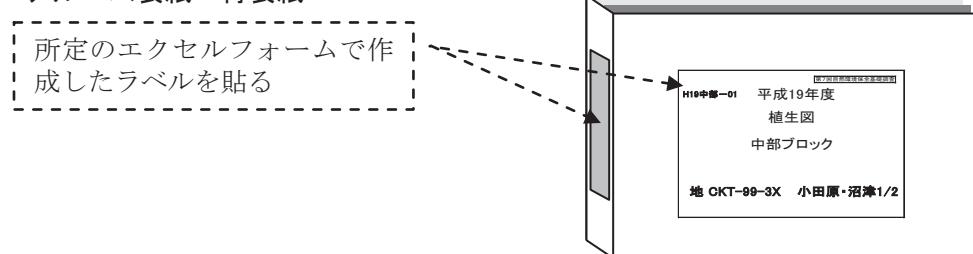


図3.6.2 空中写真に関する成果品構成の概要

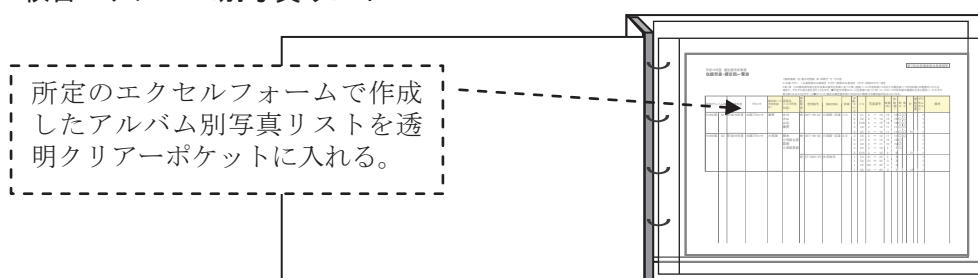
(2) 空中写真アルバムの構成

空中写真アルバムは、標定図と空中写真、およびアルバム別にまとめた空中写真リストを収録したアルバムファイルである。

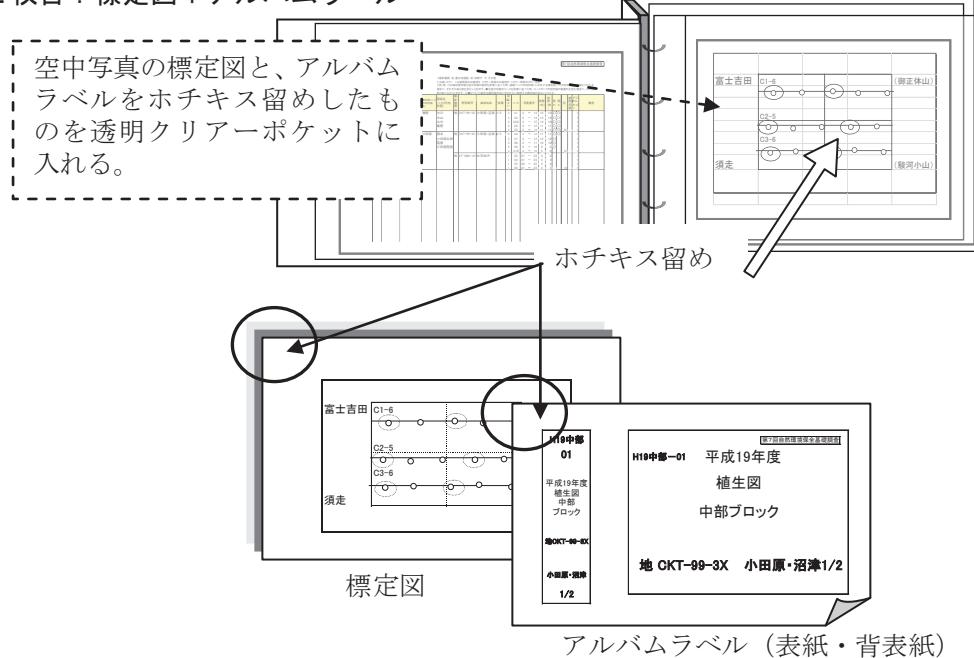
1) アルバム表紙・背表紙



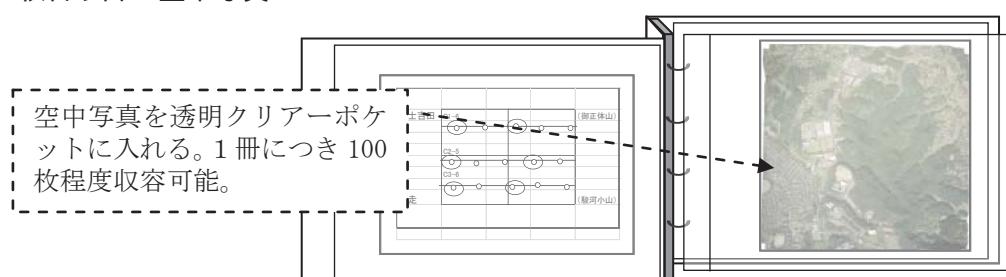
2) 1枚目：アルバム別写真リスト



3) 2枚目：標定図＋アルバムラベル



4) 3枚目以降：空中写真



3.6.2 空中写真アルバムの整理

(1) アルバム単位の決定

空中写真は原則として年度別法人別、ブロック別、撮影地区別にまとめ、コース、番号の若い順に整理する。

ブロックの撮影地区別の枚数によって、各アルバムに収録する撮影地区を決定し*、年度ブロック単位で連番をふりアルバム ID を設定する。1つの撮影地区が2つ以上のアルバムに分かれる場合、また1つのアルバムに2つ以上の撮影地区を収録する場合は特に留意する。アルバム単位はアルバム一覧表にまとめる（表 3.6.1）。

表 3.6.1 アルバム一覧表（例）

収録アルバムID	作成年度	図の区別	ブロック	撮影機関	整理番号	撮影地区	枝番
H24中部	01	平成24年度	植生図	中部ブロック(2/2)	地 CKT-99-3X	小田原・沼津	1／2
H24中部	02	平成24年度	植生図	中部ブロック(2/2)	地 CKT-99-3X、KT-2001-2Y	小田原・沼津2/2、大月地方	2／2

(2) アルバムへの収録

アルバムに収録する空中写真については、以下のことに留意する。

【空中写真収録の留意点】

- 空中写真はアルバム別（ブロック別、撮影地区別）にまとめ、コース、番号の若い順に並べる。
- アルバムの台紙には、写真を3枚以上入れない。
- コースごとに写真の上下を揃える。
- コースの変わるところにインデックスをつける。「C1 1～10」のように書く。
- 補助写真は撮影範囲の該当する写真の近くに入れる。枚数が多い場合はまとめて収納してもよい。
- 補助的に使った写真の標定図は、その写真が収録されている直前に入れてもよい。

(3) アルバムラベルの作成

アルバムラベル（表紙、背表紙）は所定のエクセルフォームを用いて作成する。1部を表紙・背表紙として切り抜いて使用し、1部を標定図に添付する。

アルバムラベルには表 3.6.2 の諸元を記入する。年度別法人別の連番をふり、アルバム ID とする。アルバム名は収録写真の撮影地区とする。アルバムラベル例を図 3.6.3 に示す。

表 3.6.2 アルバムラベルの諸元

項目	例	注
収録アルバム ID	H25 中部－01	年度ブロッcker連番(01 から)
作成年度	平成 27 年度	
図の区別	植生図	
ブロック	北海道	
撮影機関	地/林/そ	地:国土地理院 林:林野庁 そ:その他
整理番号	HO-02-1X	
撮影地区	岩見沢	“地区”は不要
枝番	1/4	1つの撮影地区が2つ以上のアルバムにわたる場合は、“連番/全体の数”として示す。「その1」などは不可。
撮影機関	地/林/そ	1つのアルバムに2つ以上の撮影地区を収納する場合は、全ての撮影地区を示す。
整理番号	HO-02-2X	同上
撮影地区	帯広	同上

**留意点

- 表紙ラベルには撮影地区を原則として全て記入する。ただし、補助写真の枚数が少ない場合は除いてもよい。
- 背表紙ラベルに撮影地区が書ききれない場合は代表的なものにする。

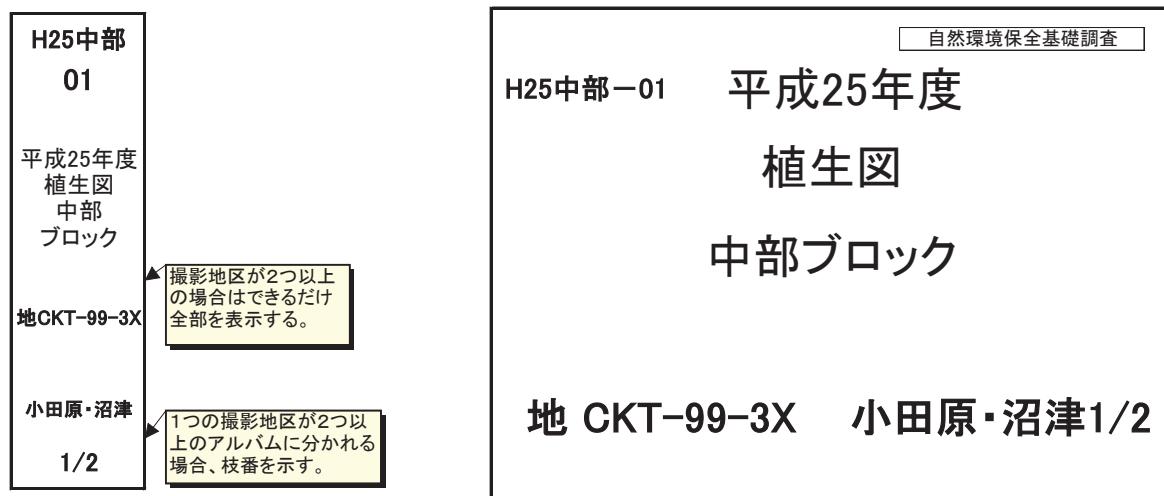


図 3.6.3 アルバムラベル（例）

(4) アルバム別写真リストの作成

アルバム別写真リストを所定のエクセルフォームを用いて作成する。作成例を表 3.6.3 に示す。

表 3.6.3 アルバム別写真リスト（例）

平成25年度 植生図作成業務 収録写真・標定図一覧表														自然環境保全基礎調査			
収録アルバムID	作成年度	ブロック	標定図(1/5万地形図名)	図幅名(1/2.5万地形図)	撮影機関番号	撮影地区	枝番	白黒/カラー(2)	コース	写真番号	枚数(式)	枚数(値)	前(3)	後(3)	計	補助写真オルソ	備考
1)撮影機関 地:国土地理院 林:林野庁 そ:その他 2)白黒・カラー 1:白黒原版の白黒焼き 2:カラー原版の白黒焼き 3:カラー原版のカラー焼 3)前、後 ○は実体視可能な空中写真的番号を昇順に並べた時、図幅(1/2.5万地形図)に対応する標定図(1/5万地形図)の範囲外にわたる場合に、それぞれ前と後を含むことを示す。●は空中写真的コースを昇順に並べた時、コースが(1/5万地形図)の範囲外を含む場合に、それぞれ前と後にならぶことを示す。○●がついた場合は標定図の列に示されない隣接する標定図があることになる。																	
H25中部	01	平成25年度	中部ブロック	秦野	中川大山山北秦野	地 CKT-99-3X	小田原・沼津	1/2	3	C1 C2 C3A C4 C5	2 ~ 13 2 ~ 14 2 ~ 15 2 ~ 12 2 ~ 12	12 13 14 11 11	12 13 14 11 11	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	1 1 1 1 1	
H25中部	02	平成25年度	中部ブロック	小田原	関本小田原北部箱根小田原南部	地 CKT-99-3X KT-2001-2Y	小田原・沼津 大月地方	2/2	3 3 3 3 3 1 1 1 1 1	C6 C7 C8 C9 C10 C3 C4 C5 C6	2 ~ 12 2 ~ 13 2 ~ 11 2 ~ 10 2 ~ 10	11 12 10 9 9	11 12 10 9 9	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	1 1 1 1 1	
									1 1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	
									1 1 1 1	C3 C4 C5 C6	21 ~ 23 21 ~ 23 20 ~ 22 21 ~ 23	3 3 3 3	3 3 3 3			1 1 1 1	

(2) アルバムへの収録

アルバムごとの標定図の先頭にアルバムラベルをつける。

左上をホチキス留めし、アルバムの巻頭2枚目に収録する。

なお、撮影地区が2つ以上のアルバムにわたる場合、原則としてアルバムごとに標定図を添付する。

3.7 電子ファイル

ファイルは以下の一式をエクセルのシート別にまとめ、ファイル名を「20xx_北海道_空中写真.xls」のようについて、ブロック別に内部管理用データとして格納する。

- (1) アルバムラベル
- (2) 収録アルバム別写真リスト
- (3) 収録アルバムリスト：アルバム1冊につき1行のアルバム名のリスト

3. 調査成果とりまとめ	55
3.1 成果品の概要	55
3.1.1 成果品の概要	55
3.1.2 環境省 RL 種にかかる情報	58
3.2 GIS 植生図の出力図	59
3.2.1 GIS データおよび植生図	59
3.3 ブロック版報告書	60
3.3.1 ブロック版報告書の仕様	60
3.3.2 ブロック版報告書の作成	62
3.3.3 ファイル作成要領	64
3.4 現地調査データ	65
3.4.1 現地調査データ入出力の概要	65
3.4.2 現地調査データの内容	69
3.5 電子ファイル（電子媒体）	73
3.5.1 格納媒体	73
3.5.2 電子媒体の表題	73
3.5.3 CD の内容	77
3.6 空中写真等	79
3.6.1 空中写真にかかる成果品の構成	79
3.6.2 空中写真アルバムの整理	81
3.6.3 標定図の整理	83
3.7 電子ファイル	85

資料編

資料1 全国レベルの精度基準

資料2 伐採跡地・土地利用等判読の手引き

資料3 環境省統一凡例一覧

資料1 全国レベルの精度基準

全国レベルの精度基準

◆植生図の精度を向上させるポイント

1. 植生学の基礎的な知見と現地調査結果の反映に関する事項

- 植生の水平的、垂直的な分布パターンを正しく認識し、図化が行われているか。
- 地形の構成や微地形の配列に基づく植生配分を正しく図化しているか。
- 自然植生と代償植生の区別が正しく行われているか。
- 特殊な立地における植生や希少な群落が漏れなく図化されているか。
- 伐採地など、土地利用に従った凡例を正しく適用しているか。

2. 画像判読と図化技術に関する事項

- 判読画像から正しく植生の内容を判読して図化しているか。
- 植生の区分線の位置精度が正確か。
- 植生ポリゴンの粗密さに偏りがなく、適切な抽出面積が保たれているか。
- GIS 入力線と地形図にずれがないか（判読結果を地形図に移写する際に移写ずれがないか）

◆位置精度

地形図の位置を正、尾根・谷・海岸のズレの許容度は 25m 未満とする（図 1）。特に、オルソ画像上等で判読した判読線を地形図と重ね合わせる作業がある場合は、細部にわたって精査し、ズレが生じていた場合は修正入力する。

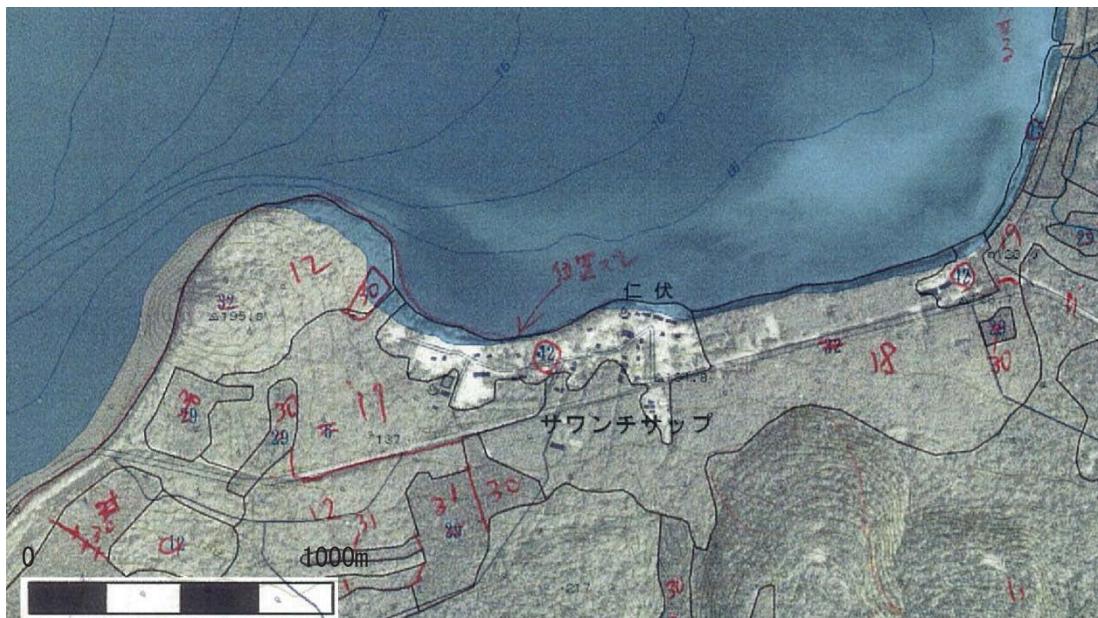


図 1 地形図と海岸線がずれている例

◆群落の最小取得面積：

群落の最小取得面積は、1 ha とする。ただし自然植生は必要に応じて1 ha より細かいものも抽出してよい。(図2)

原則として最小取得面積は1 ha (縮尺1/2.5万万地形図上で4mm×4mm) とする。ただし、写真判読時点で既存資料などから稀少な植生等と判断できる場合は、1 ha 未満であっても、625 m² (縮尺1/2.5万地形図上で1mm×1mm) を限度として、空中写真および地形図上に表示する。

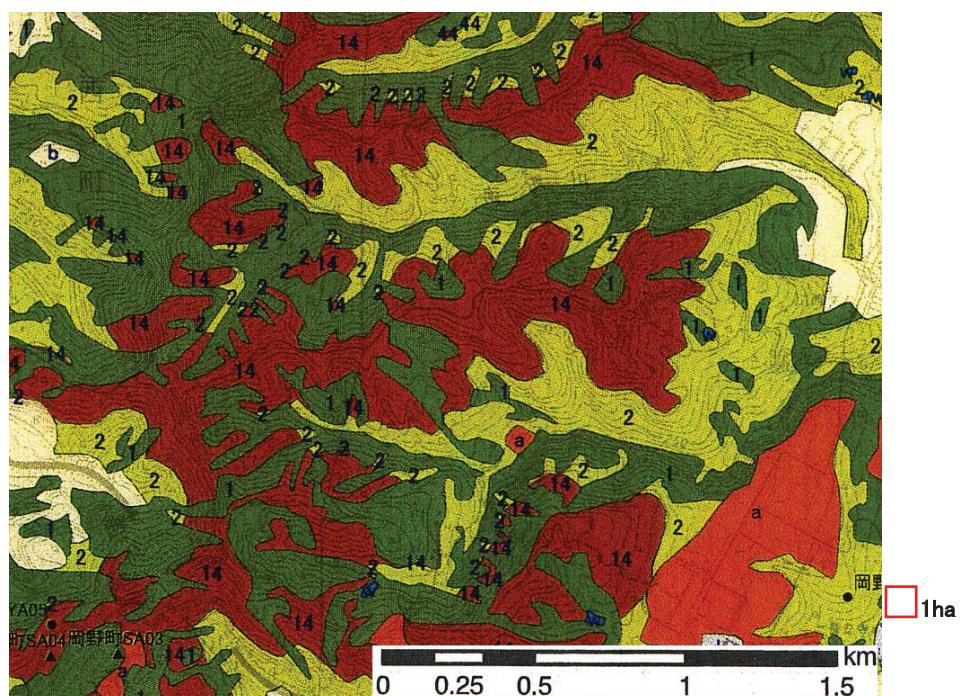


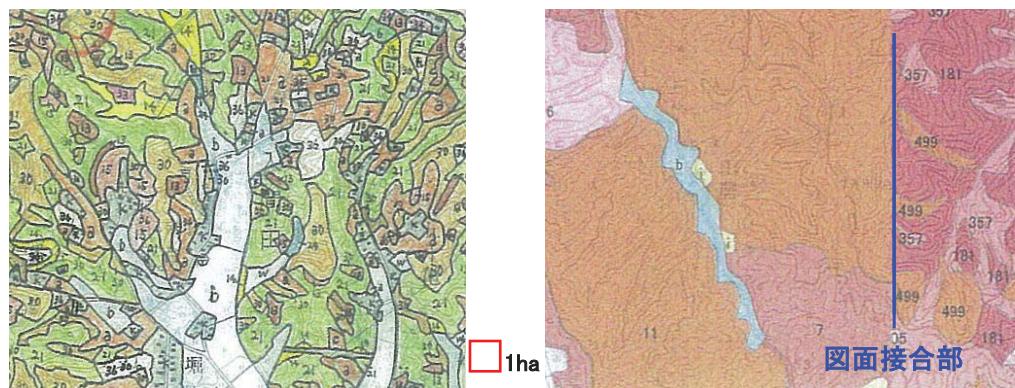
図2 最小取得面積が小さい例

◆精度が低いと判断する基準

- ポリゴンが細かすぎる・粗すぎる（写真によって異なる場合はブロックで検討）、作成者により精粗の差が著しいもの（図 3）
- 特殊立地の植生で地形との対応がまちがっているもの（図 4）
- 植生パターンが全くわからないもの（図 5）
- 判断しやすい凡例がまちがっているもの（図 6、7）
- GIS データが粗いもの（図 8）
- ポリゴンの凹凸が細かすぎるもの（図 9）
- 雲影、山影を植生と見誤っているもの
- 地形形状や植生学の知見が生かされていないもの（図 10）

その他

- 小面積混在型のパッチを代表させる方法（図 11）



ポリゴンが細かすぎる例
代償植生 1ha 未満のポリゴンを抽出
しちすぎている。

ポリゴンが粗すぎる例
1ha ポリゴンの抽出が粗く（青ライン左側）隣接図と不整合が起きている。

図 3 ポリゴンが細かすぎる・粗すぎる例

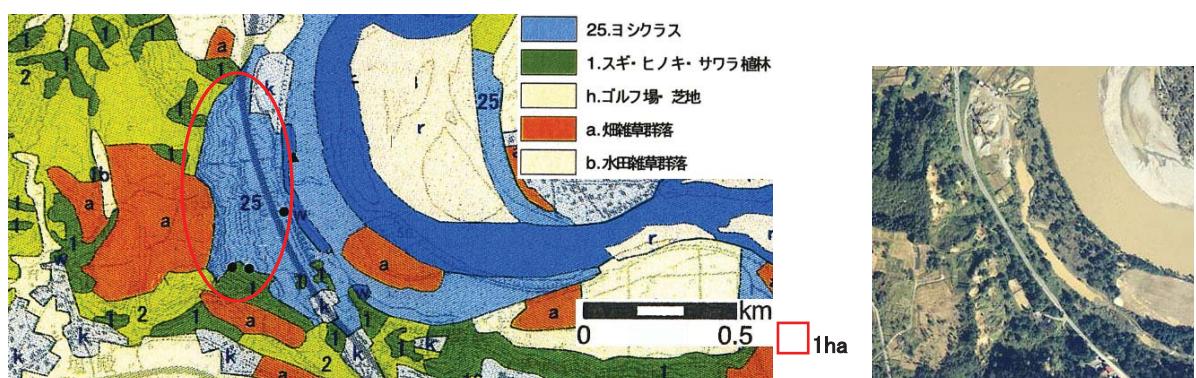


図 4 特殊立地と地形との対応がまちがっている例

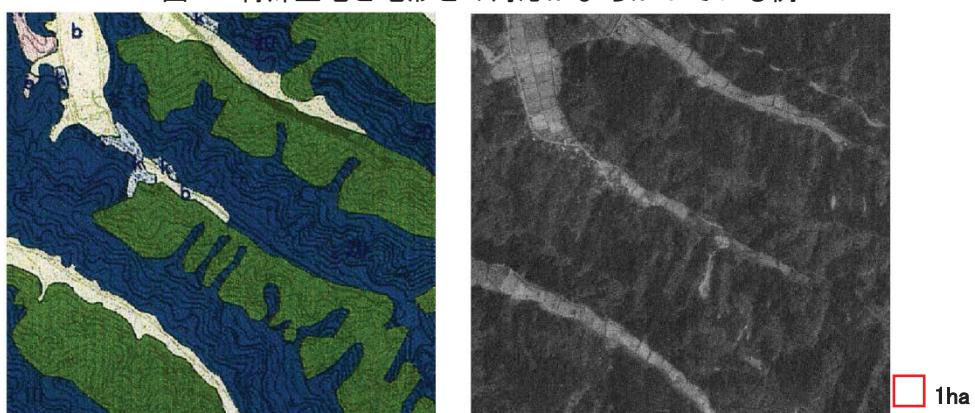


図 5 抽出精度が粗く、空中写真で見える植生パターンが反映されていない例



図 6 判別しやすい凡例がまちがっている例



図 7 誤った凡例が記入されている例

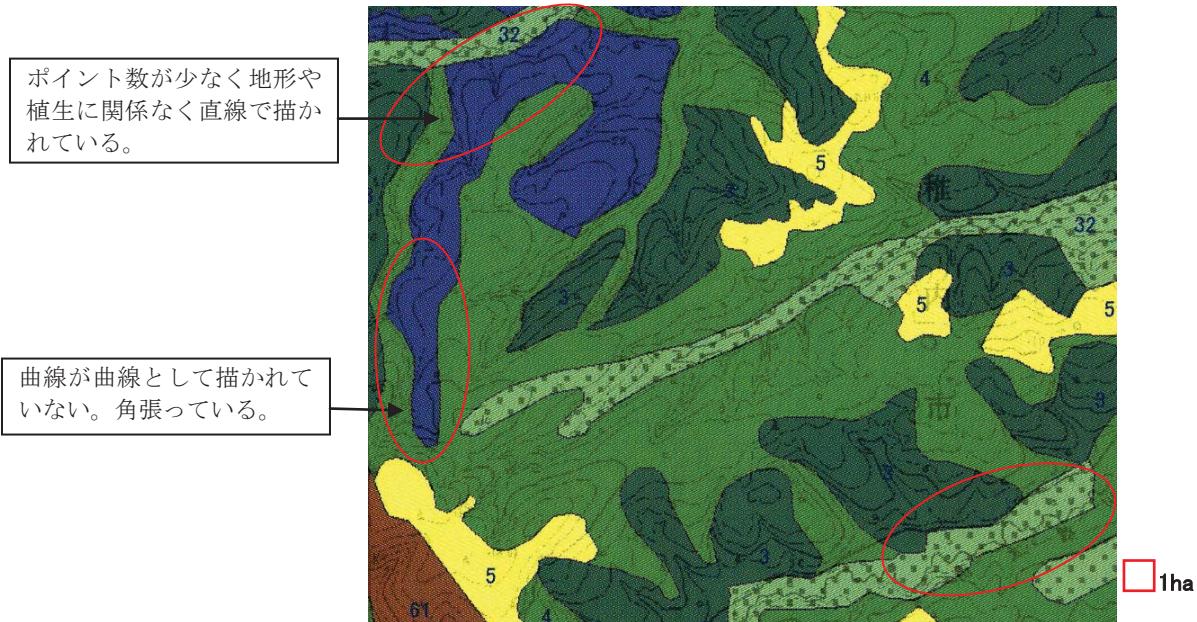
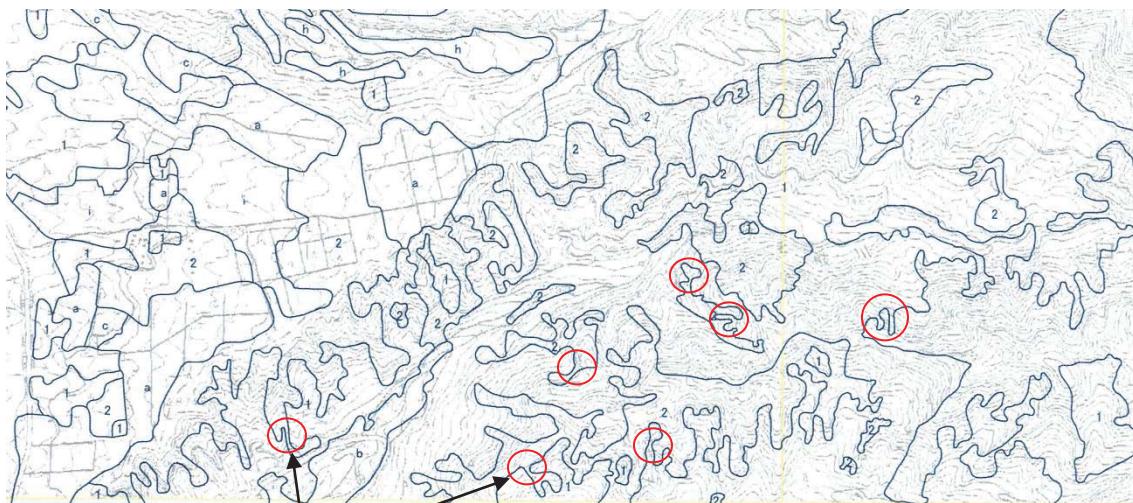


図 8 GIS データが粗い例



細長いポリゴンや湾曲しているポリゴンのくびれの幅が狭すぎて、1mm以下になっている

【注意】ディスプレイ上でオルソ画像等を拡大しすぎると、樹冠投影図に近いような、細かい判読線をとってしまう。判読線を入力する工程では、作業者全体でスケールを統一し、なめらかな判読線をひくことを心がける。

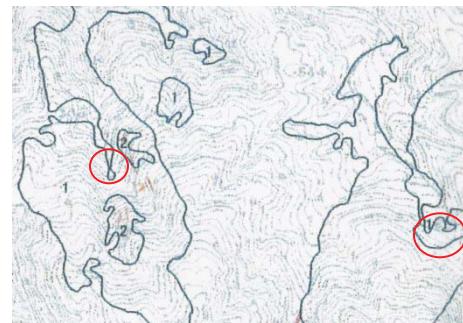


図9 ポリゴンの凹凸が細かすぎる例

□ 1ha

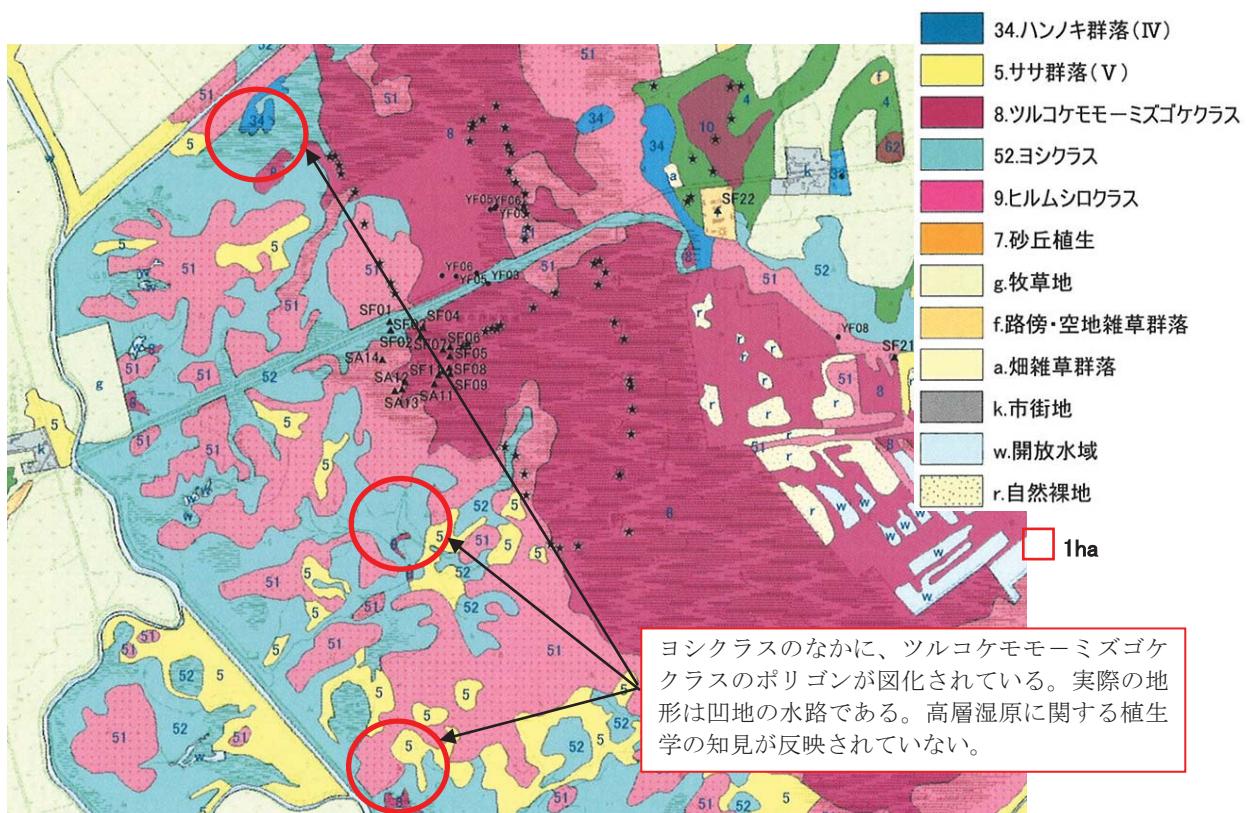


図10 地形形状や植生学の知見が生かされていない例

小面積混在型のパッチを代表させる方法（全体として地域の植生パターンが示されればよい）
(図 11)

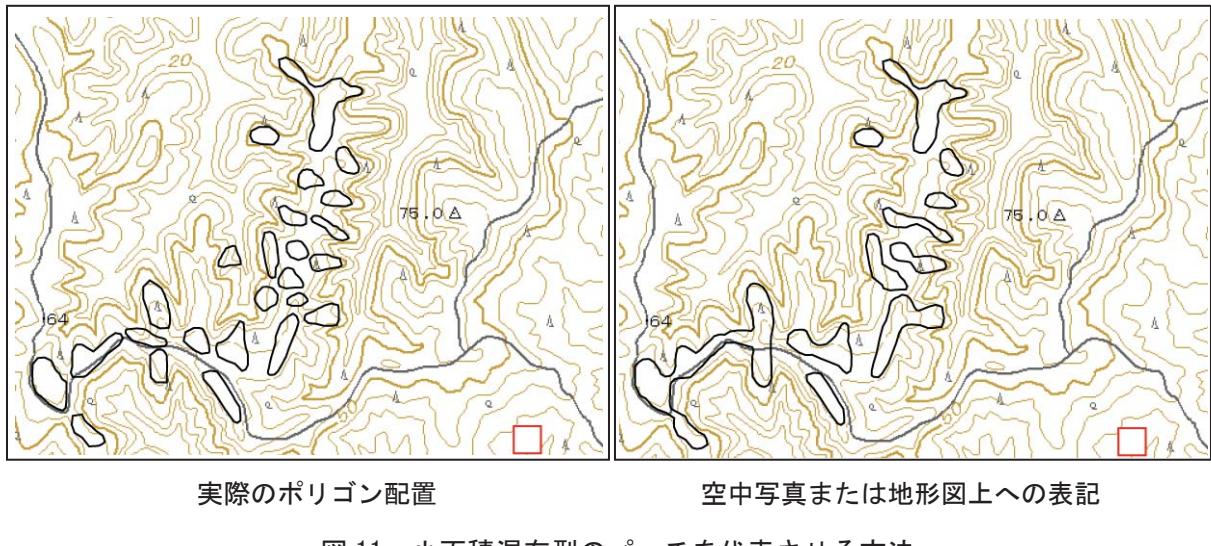


図 11 小面積混在型のパッチを代表させる方法

資料2 伐採跡地・土地利用等判読の手引き

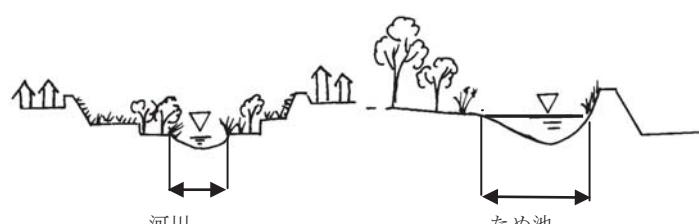
伐採跡地・土地利用等判読の手引き

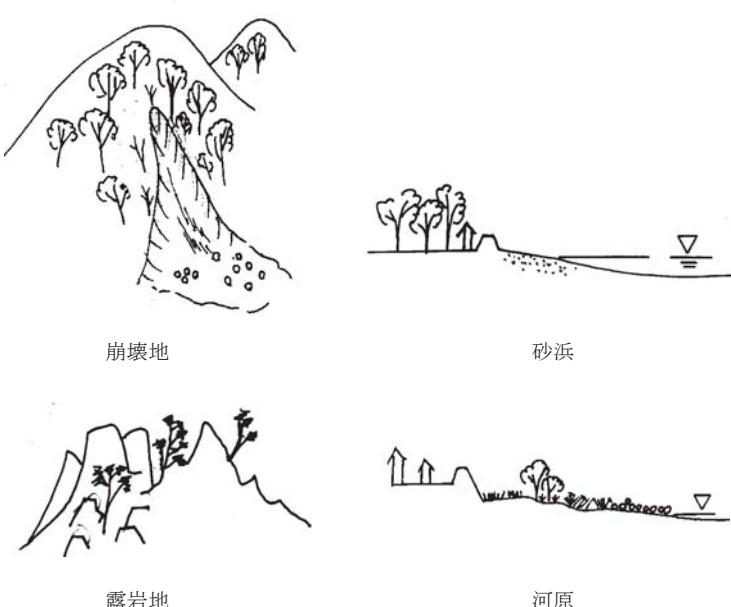
(伐採跡地・土地利用等判読に共通する事項)

写真への区分線・区分番号の記入	<p>(判読対象 I :)</p> <ul style="list-style-type: none"> w (水域) : 必要に応じて写真上に記入する。中州のある河川の水域等。 r (自然裸地) : 区分記号を写真上に記入する。区分線は必要に応じて記入する。裸地に植物がわずかに侵入している場合等 (自然裸地と提議する範囲を記入する)。 <p>(判読対象 II・III)</p> <ul style="list-style-type: none"> 原則として、区分線と区分記号は写真上に記入しなくてよい。 現地確認できた箇所、判読キーとなる箇所は記入してよい。
区分線と地形図の照合	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、判読の区分線と地形図上の区分線は一致させる。 写真上で、区分線と地形図が明らかに一致しない場合は、判読による区分線を優先して記入する。 (例) 写真撮影後に建設された高速道路、区画整理により直線的に整備された水田、河川改修により整備された新たな堤防、河川構造物等 凡例の特性によって、区分線と地形図の照合方法に注意が必要な場合は、各凡例の判読手引きに従う。 (例) 水位変動のあるため池

(判読対象 I *)

※判読対象 I とは、自然林、二次林、特殊立地の植生（雪田、河辺、海浜等に成立する植生）、二次草原、水域、自然裸地を指す

区分記号（凡例）	凡例の内容	備考
580600 w (水域)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 河川、湖、ため池、海等の水域。河川では、水面のみを抽出する。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> やや暗く黒っぽい単一な色調が平坦に一面を覆う。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 水域のうち、比較的水深が浅く、止水域または流の緩やかな箇所には、浮葉・沈水植物等の群落が分布する場合がある。写真情報と既存資料等により、明瞭に識別できる場合は、「特殊立地の植生」(例: ヒルムシロクラス) として区分する。 ため池や湖の縁には、ヨシ、マコモ等の挺水植物群落が分布する箇所がある。これも既存資料と写真情報から、明瞭に識別できる場合は、「特殊立地の植生」(例: ヨシクラス) として区分する。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 上記 (概要) と同じ。  <p>【北側の地形図】</p>  <p>【南側の地形図】</p>  <p>南側の水域区分線と連続するように水域の区分線を入れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区分線と区分記号は必要に応じて写真に表示する 河川は、地形図の二条河川を対象として表示可能な範囲で区分線を入れる。地形図と写真が著しく違がなければ、地形図の水際線を区分線とみなしてよい。 写真上で水位変動による水際線の変化が認められても無視する。 埋め立て、河川改修等により、水域が地形図と著しく異なる場合は写真判読結果を地形図に記入する。水位変動によって水際線が地形図と異なっていても地形図線を優先する。 原則として溜池等については地形図の区分線（水際線）を入れる。但し、1ha未満であっても植被が認められる溜池は「特殊立地の植生」として区分線と区分記号を入れる。 一本の河川が隣接する複数図面にかけて分布する場合は、区分線の入れ方に相違が生じないよう注意する。

580700 r (自然裸地)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 露岩地、崩壊地、河原、砂浜等の、自然的条件によって植被で覆われていない土地。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 岩石、砂礫等が一面を覆い、写真上では、明るい白色を呈する。 「特殊立地の植生」(砂丘植生、海岸断崖地植生、河川敷砂礫地植生等)を含む場合があるが、写真情報ではわかりにくい。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 荒廃裸地等で緑化のための植栽が行われている場合は、植被率、植生高にかかわらず植林地として区分する。 人工的に切り崩された不自然な地形を有する採石場と区別する。 地形や周辺の土地利用状況等から判断する。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 上記(概要)と同じ。 	<ul style="list-style-type: none"> 写真上には区分記号を記入する。区分線は必要に応じて表記する。 写真情報および既存資料から、1ha未満であっても、特殊立地の植生を含む可能性がある箇所は写真上に注記する。 河原、砂浜、露岩地等は自然性の草地(河原の自然草原、砂丘植生等)を小規模で含んでいる場合がある。しかし、写真条件(撮影時期と縮尺)によって、これらの「特殊立地の植生」が写真情報では識別できないことが多い。既存資料等により、特殊立地の植生がありそうな場合は、現地調査の必要な箇所として写真上に注記する。
--------------------	---	---

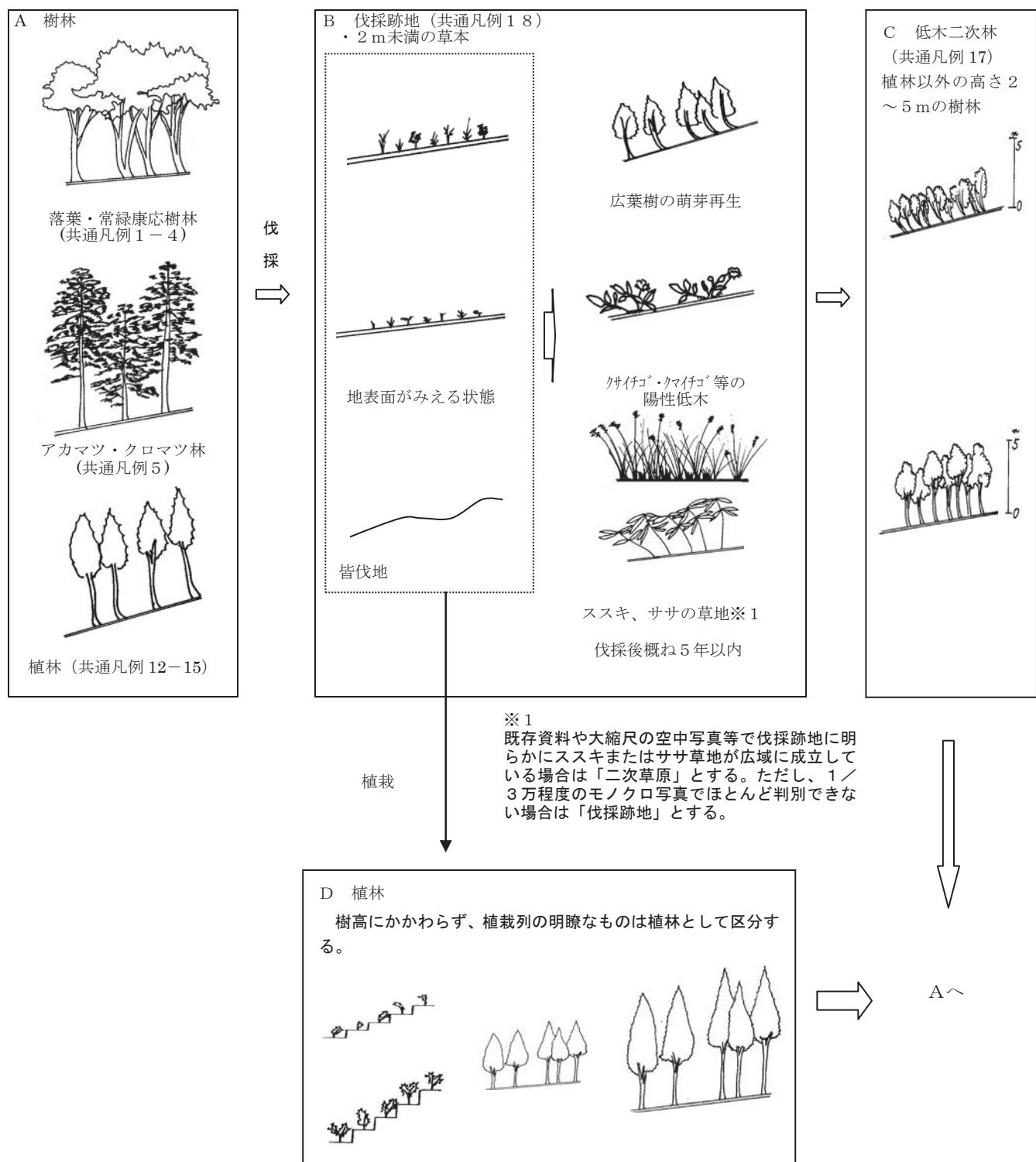
(判読対象Ⅱ)

※判読対象Ⅱとは、植林、竹林、低木二次林、伐採跡地を指す

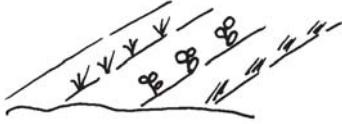
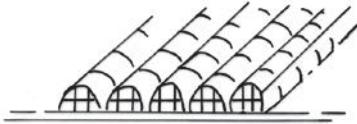
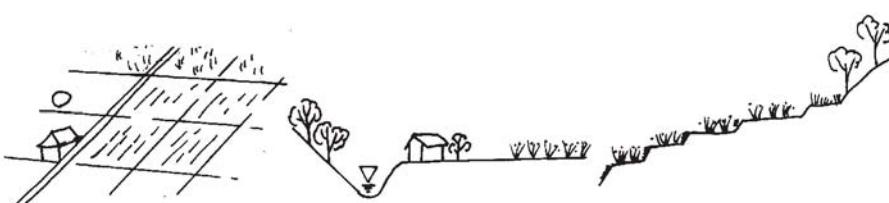
区分記号（凡例）	内 容	備 考
100000, 260000, 460000 伐採跡地	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 森林の伐採後、概ね5年以内に形成される草本群落または高さ1～2m程度の低木群落。 伐採跡地で植栽列が識別できないもの。皆伐地。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 高さ2m未満の草地または広葉樹低木林。 空中写真上では、周りを植林に囲まれ、地表面が全面または部分的に露出しているか、または肌理の細かな背の低い植生が地表を覆っている。 山地の斜面で、樹木がなく周辺の樹林地より明るい感じがする。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等) ※別紙-2</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 植生高約2m以上（5m未満）の低木群落は、「低木二次林」として区分する。 写真判読で、ススキ等の禾本科草本類またはササ類が識別できる優占する場合は「二次草原として区分してもよいが、小縮尺の写真情報では判別が困難である。 原則として、写真上で明らかに植栽列が識別できる場合は、それらの高さ、植被率にかかわらず「植林地」とする。例えば、新植後、下草刈り等の手入れがされておらず、陽性低木あるいはススキ等が優占的に覆っていても、植栽列が認められるのであれば植林地とする。 樹高にかかわらず、植栽列が明瞭に識別できる場合は植林として区分する。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 山地、丘陵地の植林地に隣接することが多く、平地では少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて区分記号と区分線を写真に表記する。

■ 伐採に関する判読区分の相互関係

これらの区分は、遷移系列上で時間的に近接しており、実際の群落の中身は交錯している。また、伐採跡地や新植地は、時間差や管理の度合いで優占する中身が異なってくる。



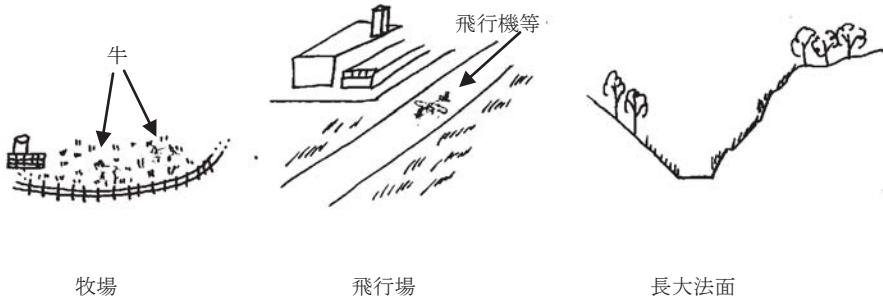
(判読対象III)

区分記号（凡例）	内 容	備 考
570300 a (畑)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸稻、麦、野菜等の畑作物を栽培している耕作地。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不整形の区画が明瞭で、栽培作物の緻密な筋、列を有する高さ2m未満の栽培草地。 ・区画は平坦または緩やかな傾斜を有し、区画の規模は小さい場合が多い。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不整形の「水田」は、季節によっては、畑と似た相観を示すが、畦や用水路の有無、地形状況等から判断する。 ・周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「放棄畑」と区別する。 ・地形図記号（荒れ地等）を参考にして「放棄畑」等と区分する。ただし、写真的撮影時期と地形図の作製・修正年次に留意すること。 ・都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雑草群落」とは、周辺の土地利用や地形状況、地形図記号等に着目して区分する。 ・畠地は、住宅地や水田等と混在する場合が多いが、1～3haの小規模なものは隣接する区分に含める。 ・ビニールハウス、温室等は、地形記号を参考にして畑とする。 ・沖縄の「サトウキビ畑」「パイナップル畑」もここに含める。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・平地部でもみられるが、山地、丘陵地の谷底低地または山腹斜面の山際に多い。 ・平地部に多いが、山地～丘陵地の谷底低地や山腹斜面にも分布する。 <div style="text-align: center;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 畠（野菜、麦等） ビニールハウス </div>	・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。
570400 b (水田)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水稻、い草、蓮等を栽培している耕作地。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦断に走る水路や畦で区画され、区内は水平、均一な色調を示す。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「畠」は、水田と似た相観を示すが、畦や用水路の有無、地形状況等から判断する。 ・周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「放棄畠」と区別する。 ・写真情報のほか、地形図記号（荒れ地等）を参考にして「放棄畠」等と区分する。ただし、写真的撮影年度と地形図の作製・修正年次に留意すること。 ・都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雑草群落」とは、周辺の土地利用や地形状況、地形図記号等に着目して区分する。 ・水田は、住宅地や畠等と混在する場合もあるが、1～3haの小規模なものは隣接する区分に含める。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖積平地に広く分布する。丘陵地～山地においても、谷底平地や山腹斜面（棚田）に分布する。 <div style="text-align: center;">  </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> 沖積平地 谷底平地 棚田 </div>	・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。

<p>570101 c (放棄畠)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 畠の放棄後に成立する植生高 2 m未満の草本群落。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 畠の形状を残した高さ 2 m未満の草地。 空中写真上では、不整形の区画が明瞭で、作物を栽培している筋が明瞭にみえない。 周辺の利用されている畠よりも荒れた感じがする。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 一面に草本類がやや不均一に覆っている。 周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「畠」と区別する。 地形図記号（荒れ地等）を参考にして「畠」等と区分する。写真の撮影年度と地形図の作製・修正年次に留意すること。 放棄畠は、作物が栽培されている畠に隣接する場合が多い。写真上で、明らかに利用されている畠との被覆状況を比較すると区別しやすい。 都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雜草群落」とは、周辺の土地利用や地形状況、地図記号等に着目して区分する。 「放棄水田」は、写真上で似た相観を示すが、用水路・畦の有無や周囲の土地利用状況から判断する。 畠の放棄後、一時的にススキ草地が成立する場合がある。既存資料や現地確認等によって耕作地跡に明らかにススキ草地が成立していると判断された場合は「二次草原」とする。 放棄後の年数が長いと、「低木二次林」へと遷移する。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 平地部でもみられるが、山地、丘陵地の谷底低地または山腹斜面の山際に多い。 畠と隣接することが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。
<p>570500 d (放棄水田)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 水田の放棄後に成立する植生高 2 m未満の草本群落。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 水田の形状を残した高さ 2 m未満の草地。 空中写真上では、畦や水路で囲まれた区画が明瞭で、稲作、稲刈り跡の均一な筋が明瞭にみえない。一面に草本類がやや不均一に覆っている。 利用されている周辺の水田より荒れた感じがする。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 一面に草本類がやや不均一に覆っている。 周囲の土地利用状況、作物の栽培列の有無等から「水田」と区別する。 地形図記号（荒れ地等）を参考にして「水田」等と区分する。写真の撮影年度と地形図の作製・修正年次に留意すること。 放棄水田は、稲作を行っている水田に隣接する場合が多い。写真上で、明らかに利用されている水田との被覆状況を比較すると区別しやすい。 都市域の住宅地に隣接することが多い「路傍・空地雜草群落」とは、周辺の土地利用や地形状況、地図記号等に着目して区分する。 「放棄畠」は、写真上で似た相観を示すが、用水路・畦の有無や周囲の土地利用状況から判断する。 水田の放棄後、ヨシ群落が成立する場合がある。既存資料や現地確認等によって水田跡地に明らかにヨシが優占すると判断された場合はヨシクラスとする。 放棄後の年数が長いとハンノキ等の湿地性の木本類が侵入し、「低木二次林」、「落葉広葉樹林・樹冠小」へと遷移する。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 沖積平地に多いが、山地、丘陵地の谷底低地の山際等にも小面積で分布する。 水田と隣接することが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。

<p>570200 e (果樹園・茶畠)</p> <p>570201 e 1 (茶畠)</p> <p>570202 e 2 (常緑果樹園)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね 2 m 以上の果樹（林檎、梨、葡萄、桃、蜜柑等）が栽培されている樹園地、または茶畠。そのほか、桑畠、苗木畠もここに含める。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 空中写真上では、区画の形状が明瞭で、果樹または茶畠の規則的な配列が明瞭である。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 山地斜面等には長期間放棄され、低木類が入っている場合がある。栽培種以外の低木類が 50% 以上で優占する箇所は「低木二次林」とする。 植栽され管理下にある栗園は果樹園とする。 地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域によって果樹の種類や規模、立地は様々である。 <p><u>(細分)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域によって茶畠、常緑果樹園を細分する。 	<ul style="list-style-type: none"> 原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。
<p>570100 f (路傍・空地雑草群落)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 都市とその周辺域の空地や造成地に成立する高さ概ね 1 m 未満の草地。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 空中写真上では、住宅地や建物、コンクリート構造物に隣接して区画の形状が明瞭であることが多い。 部分的に地表面も露出し、やや肌理の不均一な草地が用地を覆う。地表面と草地が斑状に混在することが多い。 比較的、明るい感じであるが、一様でなく牧草地よりもやや粗い感じがする。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 草地としては類似した相観を示す「放棄畠」「放棄水田」「二次草原」等とは、地形や隣接するまたは周囲の土地利用状況から判断する。住宅地に分布する草地はここに含める。 1 ~ 3 ha 程度のまとまった区画において、「造成地」と混在する場合は、優占率の高い方で区分する。 面積が概ね 1 ha に満たない場合は、市街地等隣接する区分に含める。 地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 住宅地の造成地、工場の資材置き場、一度造成された高水敷等、主として都市域に多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。

<p>560200 g (牧草地、採草地)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・播種等の植栽後、刈り取り等によって管理されている植生高 0.5~1.5m程度の牧場等の人工草地。 ・牧場、採草地ではイネ科の外来牧草が播種され定期的に耕起されるが多い。 ・牧場、飛行場（草地の滑走路）等の人為管理下にある草地もここに含める。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空中写真上では、肌理が細かく平滑な草地が平地または緩やかな傾斜の地表を一面に覆う。 ・区画は、畑に較べて大きい。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・踏みつけや刈り取りによって維持されているシバ草地（「二次草原」）や管理下にある「ゴルフ場・芝地」とは、植生高の高さ、周囲の土地利用状況等から区別する。 ・高速道路沿いの大規模法面（概ね 1ha 以上）のうち、均一な人工草地がまとまっている場合は、ここに含める。1ha 未満の場合は、道路（「市街地等」）に含める。 ・地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。 ・牧場に付随する 1 ~ 2ha 未満のサイロ、畜舎等の構造物は、「牧草地、採草地」に含める。構造物が 2 ~ 3ha 以上の場合は、「市街地等」として区分する。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・牧場、牧草地は、丘陵地の山頂、緩やかな斜面、台地等に大規模にまとまっていることが多い。 ・平地部の都市とその周辺地域では、飛行場、牧場等。 	<p>・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</p>
<p>560100 h (ゴルフ場・芝地)</p>	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・頻繁な刈り取りによって維持されている植生高 10 cm未満のゴルフ場や公園のシバ草地。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空中写真上では、樹林または人工構造物に囲まれた不整形の区画に、肌理が極めて細かく均一な草地が一面に地表を覆う。 ・頻繁に刈り取りされるため、刈り跡が帶状の列として見えることがある。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ゴルフ場・芝地」は、土地利用的な区分ではなく植被の質で区分する。 ・ゴルフ場内の 1ha 未満の樹林地は、隣接する区分に含める。 ・半自然状態にある放牧地のシバ草地（二次草原）とは、周囲の地形や土地利用状況から判断する。 ・地形図記号や周囲の土地利用状況を参考にする。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴルフ場は、都市周辺の起伏の緩やかな丘陵地、河川敷等に多い。 ・その他、大規模な公園、インターチェンジ盛土法面等にまとまって分布する。 	<p>・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</p>



牧場

飛行場

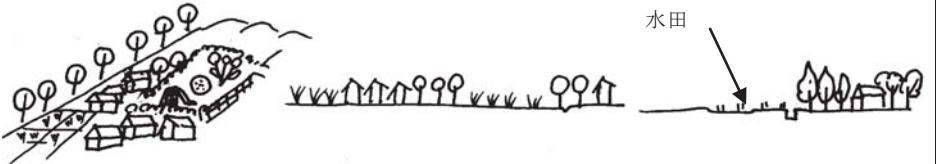
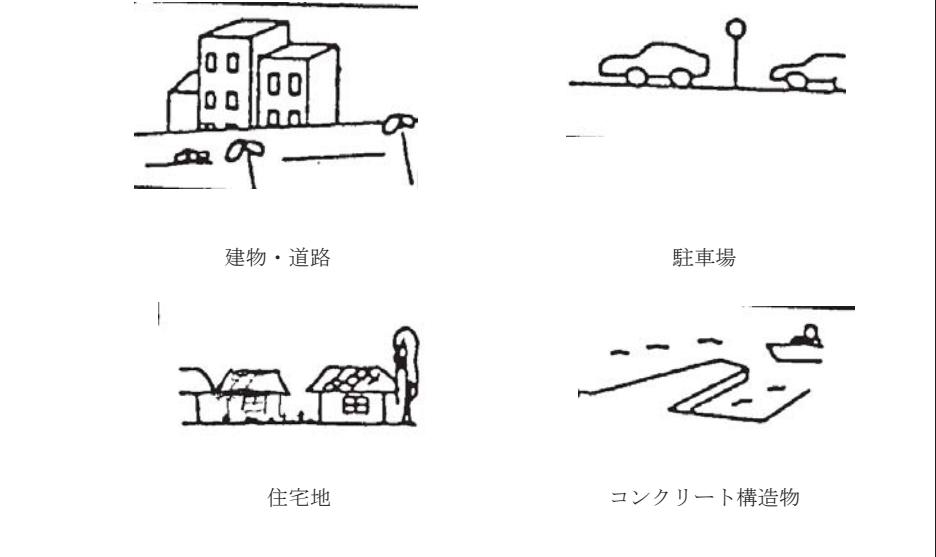
長大法面

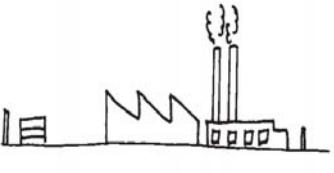
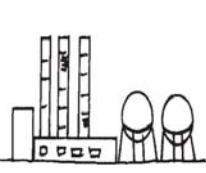
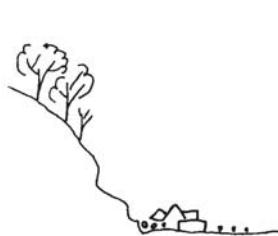
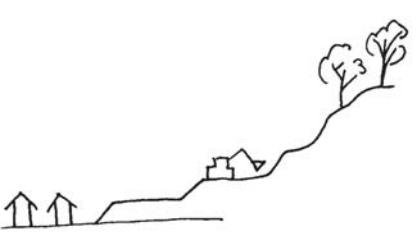


ゴルフ場

公園・グランド

インター・チェンジ

580101 i (緑の多い住宅地)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市域または集落において、公園的な樹林、植え込み、農地等の緑被が概ね 30%以上で住宅地等と混在する区域。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同上 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市域では、道路、河川・水路、地形線等によって括られる概ね 3～5 ha 程度のまとまりのある区画を単位として緑被率を判断する。ただし、その中に 1ha 以上の樹林地、農地、草地がある場合は緑の多い住宅地に含めずに抽出する。 ・都市域では、全体的な緑被の分布と住宅地のまとまり具合を考慮し、「緑の多い住宅地」と「住宅地等」を区分する。 ・第2回・第3回植生図では、同一基準で区分されていない場合が多いので注意する。 ・都市域の 1 ha 以上の残存樹林は、「落葉・常緑広葉樹林」として区分する。 ・地形図上で表現されている“樹林に囲まれた居住地”は、ほぼこれに該当する。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市とその周辺地域において、公園や並木等の多く含む住宅地。  <p>公園木、並木等と混在 小規模の樹林、農地と混在 屋敷林の多い集落</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。
580100 k (市街地等)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑被率 30%未満の市街地等。 ・大規模な植被はほとんどみられず、住宅地、ビル、道路、コンクリート・アスファルト等の人工構造物が卓越する区域。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・同上 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市域では、道路、河川・水路、地形線等によって括られる概ね 3～5 ha 程度のまとまりのある区画を単位として緑被率を判断する。 ・都市域では、全体的な緑被の分布と住宅地のまとまり具合を考慮し、「緑の多い住宅地」と「住宅地等」を区分する。 ・第2回・第3回植生図では、同一基準で区分されていない場合が多いので注意する。 ・植被のない運動場、グランド、学校敷地等はここに含める。 ・「養豚場」「養鶏場、鶏舎」はここに含める。※小規模のサイロ等は「牧草地、採草地」に含める。 ・緑被のない「墓地」「靈園」はここに含める。 ・水田等の耕作地が優占する地域に分布する住宅地は、地形図の界線で括られる住宅地のまとまりを対象として、1 ha 以上のものを抽出する。 ・「公園」は緑被がなければ「市街地等」に含める。まとまった面積（1 ha 以上）でシバが覆う場合は「ゴルフ場・芝地」とする。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市とその周辺地域のまとまった住宅地、市街地。  <p>建物・道路 駐車場 住宅地 コンクリート構造物</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。 <p>・原則として、幅 1.5 mm 未満（縮尺 1/2.5 万地形図）の道路は隣接する植生区分に含める。</p> <p>・大規模な高速道路、有料道路等概ね幅 1.5 mm 以上（縮尺 1/2.5 万地形図）の道路については、「市街地等」として道路の両側に区分線を入れる。これ以外の小規模な道路は、周辺の凡例に含める。</p> <p>・一本の道路が隣接する複数図面にかけて分布する場合は、区分線の入れ方に相違が生じないよう注意する。</p>

580300 L (工場地帯)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場（製造工場、化学工場、造船所、中小工場等）を主とする地区。 ・工場の敷地面積が、1ha以上のまとまった区画において50%以上を占める区域。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材置き場等に隣接して工場、倉庫等の細長い建造物が規則的に並んでいる。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図記号を参考に、建物の配列具合、敷地のまとまり等から「市街地等」と区分する。 ・土地の履歴が干拓地であっても、工場等が建設されている場合は、「工場地帯」等の該当する凡例を適用する。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨海部の重化学プラントや造船所、都市周辺では自動車工場、まとまった町工場等が該当する。 <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  工場  重化学プラント  造船所 </div>	<p>・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</p>
580400 m (造成地)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・採石場、ボタ山、造成中の宅地等の人工的な土地改変により、植被がみられない裸地。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地形が改変され、まとまって地肌が露出している。 ・宅地造成の場合、地形が平坦にならされ整形な区画となる。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期間放置された採石場や造成裸地等は、時間の経過につれて「路傍・空地雑草群落」、「低木二次林」へと変化する。これらの区分は、地表を覆う緑被の状態や周辺の土地利用状況から判断した上で、該当する凡例を適用する。 ・採石場は、地形図記号を参考に、写真撮影時点の範囲を判読・移写する。 ・資材置き場、学校敷地等、造成後に何らかの土地利用がされている裸地は、ここに含めない。資材置き場は、植被の状況により「路傍・空地雑草群落」等に、学校敷地は「市街地等」に含める。 ・林道等の道路脇で、材木置き場、車両待避所等として一時的に造成されている土地は、ここに含める。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市の周辺域では、大規模な宅地造成がみられる。 ・丘陵地～山地には、様々な規模の採石場が分布する。 	<p>・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。</p>
580401 m1 (煙害跡裸地)	<p><u>(細分)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・銅精錬所周辺の裸地を「煙害跡裸地」として細分する。山地や島嶼の斜面にまとまって地肌が露出している。過去に煙害によって裸地化され表土が変質したために植被の回復が進まない。 	
580402 m2 (泥炭採掘跡)	<p><u>(細分)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・北海道のサロベツ湿原の泥炭採掘跡地にみられる、肥料として活用されずに戻された浮遊泥炭粒子の集まり。植被はほとんどない。 <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  採石場  宅地造成 </div>	

580500 n (干拓地)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・頻水地形や水面を干して陸地化した区域。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海域に隣接し、かつての海底面がみえ、植被はみられない。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・干拓後に、工場や住宅地等が建設されている場合は、「工場地帯」、「市街地等」等、該当する凡例を適用する。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・海域または河口に隣接している。  <p style="text-align: center;">干拓地</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。
580200 p (残存・植栽樹群をもつ公園・墓地等)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較的新しく形成された残存・植栽樹群をもつ大面積の都市公園等。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・並木、樹群地、草地、芝地、グランド、駐車場、人工構造物、池等が混在する。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめた面積（1ha以上）でシバが覆う場合は「ゴルフ場・芝地」として区分する。 ・1ha以上のクランド、駐車場、人工構造物は「住宅地」として区分する。 ・1ha以上の面積でさまざまな植生・土地利用が混在しているが、単独で1haを越える並木、樹群地、草地、芝地、グランド、駐車場、人工構造物、池が存在しない場合はまとめて括る。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市とその周辺地域。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。
580800 s (残存・植栽樹群地)	<p><u>(概要)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・50～100年生の雑多な残存樹・植栽樹からなる樹群地。 ・屋敷林、社寺林、都市における植栽林、既存の断片林、混在林等。 <p><u>(相観)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・優占種がはっきりせず、群集名や群落名がはっきりしない。 <p><u>(類似凡例の区別点、区分のポイント等)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・林床が管理されていたり、欠如していても、高木層から群集名・群落名が類推できるものは「s」とはしない。 ・1ha以上の面積でさまざまな植生・土地利用が混在しているが、樹群の面積が1haを越える場合はまとめて括る。 <p><u>(立地)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市域または集落における屋敷林、社寺林、都市における植栽林、既存の断片林、混在林。 	<ul style="list-style-type: none"> ・原則として区分記号と区分線は、写真上へは表記しない。

更新履歴

- 2000.3.15 判読情報資料図作成指針の資料2「全国共通判読指針」として新規作成
- 2004.6.25 植生原図作成指針の別紙1「伐採跡地・土地利用等判読指針」として該当部分を抜粋
- 2007.6.5 細分凡例 e-1, e-2, p, s,, m-1 を追加
- 2008.6.4 表題の「指針」を「手引き」に変更、判読対象 I, II, IIIの説明を追加、「備考（写真表記等）」の列名を修正
区分記号のLを大文字に変更、区分記号のハイフンを削除
「特殊立地の植生」等の判読区分名に凡例名（例）を付記、w, m等の内容を修正

資料3 環境省統一凡例一覧

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

★ 平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒカラス域自然植生 (Ⅳ)ブナカラス域自然植生 (V)ブナカラス域代償植生 (VI)ヤツバカラス域自然植生 (VII)河辺・湿地・砂浜地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツバカラス域代償植生 (VII)植生等、(IX)植生等、(X)植生等
カラス域重複: A)高山帯自然植生を含む V)コケモモトウヒカラス域を含む F)ブナカラス域を含む
平成25年度更新状況: 新/凡例として登録 植生要検討として保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細区分	細コード	凡例名		副凡例	副凡例	副凡例	副凡例				
							新規凡例									
							新規凡例作成年	新規凡例プロックコード								
1	I 01	高山低木群落	00	00	00	00	01000	高山低木群落	1 13	4 2007	1	北海道				
2	I 01	高山低木群落	01	ハイマツ群落	00	00	01010	ハイマツ群落	2 101	4 2004	1	北海道				
3	I 01	高山低木群落	01	ハイマツ群落	01	コケモモーハイマツ群集	010101	コケモモーハイマツ群集	3 101	2 2004	5	中部				
4	I 01	高山低木群落	01	ハイマツ群落	02	イソツツジーハイマツ群集	010201	イソツツジーハイマツ群落	4 101	2 2004	1	北海道				
5	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	00	00	00	01	コケモモミネヤナギ群落	020000	高山ハイデ及び風衝草原	5 71	2 2004	5	中部			
6	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	01	ミネズオウ群落	01	コメバツガザクラミネズオウ群集	020101	コメバツガザクラミネズオウ群集	6 71	5	2013	5	中部			
7	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	01	ミネズオウ群落	02	ウラジマツシジクロマメキ群集	020102	ウラジマツシジクロマメキ群集	7 5	0	0	r				
8	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	01	ミネズオウ群落	01	エゾマツヤエゾヤマノエンドウ群集	020201	エゾマツヤエゾヤマノエンドウ群集	8 0	0	0	r				
9	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	02	エゾマツヤマノエンドウ群落	01	オヤマソウヒゲハリスケ群集	020301	オヤマソウヒゲハリスケ群集	9 0	0	0					
10	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	03	ヒゲハリスケ群落	01	イワオウガキタツリオリオウガキ群集	020401	イワオウガキタツリオリオウガキ群集	10 0	0	2013	5	中部			
11	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	04	タツリオリオウガキ群落	02	キタダケソウ群落	020402	(イワオウガキタツリオリオウガキ群集)								
12	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	04	タツリオリオウガキ群落												
13	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	06	コマクサーイワツメクサクラス	00	00	020600	コマクサーイワツメクサクラス	11 44	4 2010	1	北海道				
14	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	06	コマクサーイワツメクサクラス	01	ミヤマクロスグーチシマクモマグサ群集	020601	ミヤマクロスグーチシマクモマグサ群集	12 0	0	0					
15	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	06	コマクサーイワツメクサクラス	02	ブジハタザオーフンタデ群集	020602	ブジハタザオーフンタデ群集	13 4	0	0					
16	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	06	コマクサーイワツメクサクラス	03	イワツメクサ群落	020603	イワツメクサ群落	14 0	0	0					
17	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	06	コマクサーイワツメクサクラス	04	タカネビランジミヤマミナグサ群集	020604	タカネビランジミヤマミナグサ群集	15 0	0	2013	5	中部			
18	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	07	蛇紋岩地植生	00	00	020700	蛇紋岩地植生(1)	16 0	2 2008	2	東北				
19	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	08	高山ハイデ及び風衝草原(蛇紋岩地植生を含む)	00	00	020800	高山ハイデ及び風衝草原(蛇紋岩地植生を含む)								
20	I 02	高山ハイデ及び風衝草原	09	タカネノカリヤス群落(北海道)	01	タカネノカリヤス群落(北海道)	020901	タカネノカリヤス群落(北海道)	16 5	2 2010	1	北海道				
21	I 03	雪田草原	00	00	00	00	030000	雪田草原	17 52	0	0					
22	I 03	雪田草原	02	アオツバガザクラ群团	00	00	030200	アオツバガザクラ群团	18 0	0	0					
23	I 03	雪田草原	02	アオツバガザクラ群团	01	エゾコサザクラ群落	030201	エゾコサザクラ群落	19 0	0	0					
24	I 03	雪田草原	02	アオツバガザクラ群团	02	エゾツガザクラアオツガザクラ群落	030202	エゾツガザクラアオツガザクラ群落	20 0	0	0					
25	I 03	雪田草原	02	アオツバガザクラ群团	03	エゾツガハバニアコーオツガザクラ群落	030203	エゾツガハバニアコーオツガザクラ群落	21 0	0	0					
26	I 03	雪田草原	02	アオツバガザクラ群团	04	エゾツガザクラヒゲハリスケ群落	030204	エゾツガザクラヒゲハリスケ群落	22 0	0	0					
27	I 03	雪田草原	03	ショウジョウスゲ群落	01	イワイチヨウショウジョウスケ群落	030301	イワイチヨウショウジョウスケ群落	23 0	0	0					
28	II 04	亜高山帶針葉樹林(北海道)	01	エゾマツ群团	01	エゾマツトドマツ群落	040101	エゾマツトドマツ群落	24 75	0	0					
29	II 04	亜高山帶針葉樹林(北海道)	01	エゾマツ群团	02	アカエゾマツ群落	040102	アカエゾマツ群落	25 23	0	0					
30	II 04	亜高山帶針葉樹林(北海道)	01	エゾマツ群团	03	イチイートドマツ群落	040103	イチイートドマツ群落	26 3	0	0					
31	II 04	亜高山帶針葉樹林(北海道)	01	エゾマツ群团	04	ダケカンバーエゾマツ群落	040104	ダケカンバーエゾマツ群落	27 58	0	2010	1	北海道			
32	II 04	亜高山帶針葉樹林(北海道)	01	エゾマツ群团	05	アカエゾマツキタコヨウ群落(北海道)	040105	アカエゾマツキタコヨウ群落(北海道)	28 0	0	2010	1	北海道			
33	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群团	00	00	050100	オオシラビソ群团	29 2	0	0					
34	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群团	01	オオシラビソ群集	050101	オオシラビソ群集	30 57	0	0					
35	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群团	02	シラビソオオシラビソ群集	050102	シラビソオオシラビソ群集	31 36	0	0					
36	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群团	03	シコクシラベ群集	050103	シコクシラベ群集	32 0	0	0					
37	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群团	04	コメツガ群落	050104	コメツガ群落	33 42	0	0					
38	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群团	05	カラマツ群落	050105	カラマツ群落	34 27	0	2006	6	近畿			
39	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群团	06	シラビソ群集	050106	シラビソ群集	35 4	2006	6	近畿				
40	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群团	07	イトスゲートウヒ群落	050107	イトスゲートウヒ群落	36 1	2008	2	東北				
41	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群团	08	キタコヨウアカエゾマツ群落	050108	キタコヨウアカエゾマツ群落	37 1	2009	5	中部				
42	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群团	09	マイヅルソウコメツガ群集	050109	マイヅルソウコメツガ群集	38 5	2009	5	中部				

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域代償植生 (VII)植林地・砂丘植生等、(IX)植林地、耕作地植生
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む、B)コケモモトウヒクラス域を含む、C)ヤツババキクラス域を含む
平成25年度更新状況:新・凡例として登録 植生要検討として保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大コード	中区分	中コード	細区分	細コード	凡例名	凡例コード	新規凡例 ブロックコード		新規凡例 プロックコード		副凡例 (マイヅルゾウ ウーコヅガ 群集)	副凡例 副		
								新規凡例 作成年		新規凡例 2次メッシュ数					
								細	更新状況 レベル	注記	細				
43	II 05	亜高山帶針葉樹林	01	オオシラビソ群団	10	イラモミ群落	050110	イラモミ群落	39	0 2010	3	関東			
44	II 06	亜高山帶広葉樹林	01	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	00	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	060100	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	40	56					
45	II 06	亜高山帶広葉樹林	01	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	05	ミヤマハンノキ群落	060105	ミヤマハンノキ群落	41	22					
46	II 06	亜高山帶広葉樹林	01	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	06	ダケカンバ群集	060106	ダケカンバ群集	42	26	2003	2	東北		
47	II 06	亜高山帶広葉樹林	01	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	07	ササ-ダケカンバ群落	060107	ササ-ダケカンバ群落	43	42					
48	II 06	亜高山帶広葉樹林	01	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	08	タカネノカリヤス-ダケカンバ群集	060108	タカネノカリヤス-ダケカンバ群集	44	3	2004	5	中部		
49	II 06	亜高山帶広葉樹林	01	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	09	ナンゴニネキネギ-ダケカンバ群集	060109	ナンゴニネキネギ-ダケカンバ群集	45	0	2009	7	中国・四国		
50	II 06	亜高山帶広葉樹林	01	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	10	フサガヤ-ヒロハガシラ群集	060110	フサガヤ-ヒロハガシラ群集	46	2009	1				
51	II 06	亜高山帶広葉樹林	01	ミドリユキザサ-ダケカンバ群団	11	オオバユキザサ-ヤハズハンノキ群集	060111	オオバユキザサ-ヤハズハンノキ群集	46	2	2009	1	北海道		
52	II 06	亜高山帶広葉樹林	03	エゾメヅダ-ウコンウツギ群団	00	エゾメヅダ-ウコンウツギ群団	060300	エゾメヅダ-ウコンウツギ群団	47	14	2005	1	北海道		
53	II 06	亜高山帶広葉樹林	03	エゾメヅダ-ウコンウツギ群団	01	タケカンバ群落	060301	タケカンバ群落	48	8					
54	II 06	亜高山帶広葉樹林	03	エゾメヅダ-ウコンウツギ群団	02	イワノカリヤス-ダケカンバ群落	060303	イワノカリヤス-ダケカンバ群落	49	0					
55	II 06	亜高山帶広葉樹林	03	エゾメヅダ-ウコンウツギ群団	03	ミヤマハンノキ群落(北海道)	060304	ミヤマハンノキ群落(北海道)	50	30	2000	1	北海道		
56	II 06	亜高山帶広葉樹林	03	エゾメヅダ-ウコンウツギ群団	04	ミヤマハンノキ群落	060305	ミヤマハンノキ群落	51	93	2000	1	北海道		
57	II 06	亜高山帶広葉樹林	03	エゾメヅダ-ウコンウツギ群団	05	ササ-ダケカンバ群落	060401	ナナカマド-ミネカラエ群落	52	20					
58	II 06	亜高山帶広葉樹林	04	ミネカラエ群落	01	岩角地・風衝地底木群落	060500	岩角地・風衝地底木群落(II)	52.5	20	2009	7	中国・四国		
59	II 06	亜高山帶広葉樹林	05	岩角地・風衝地底木群落	00	高茎草原及び風衝草原	070100	高茎草原及び風衝草原	52.6	2011	5	中部			
60	II 07	高茎草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団	00	シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団	070101	シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団	53	50					
61	II 07	高茎草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団	01	トカラフクロ-タカネトウチソウ群落	070101	トカラフクロ-タカネトウチソウ群落	54	0					
62	II 07	高茎草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団	02	ミヤマキンボウゲ群落	070102	ミヤマキンボウゲ群落	55	0					
63	II 07	高茎草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団	03	ハイケイソウ-ミヤマイ群落	070103	ハイケイソウ-ミヤマイ群落	56	0					
64	II 07	高茎草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団	04	ミヤマイ群集	070104	ミヤマイ群集	57	0					
65	II 07	高茎草原及び風衝草原	01	シナノキンバイ-ミヤマキンボウゲ群団	05	センジョウアザミ-ミヤマジシウド群集	070105	センジョウアザミ-ミヤマジシウド群集	58	107	2014	5	中部		
★501	II 07	高茎草原及び風衝草原	02	ササ群落	00	070200 ササ群落(II)	070201 シマササ群落(II)	59	58						
66	II 07	高茎草原及び風衝草原	02	ササ群落	01	シマササ群落	070201 オクノカンスグ-チシマササ群集	60	0						
67	II 07	高茎草原及び風衝草原	02	ササ群落	02	トウゲフキ群落	070300 トウゲフキ群落	61	2	2005	1	北海道			
68	II 07	高茎草原及び風衝草原	03	トウゲフキ群落	00	070400 ナンゴクカイソウ群落	070500 シカ食害草原(II)	62	0	2009	7	中国・四国			
69	II 07	高茎草原及び風衝草原	04	ナンゴクカイソウ群落	00	070500 シカ食害草原(II)	080100 タケカンバ群落(III)	63	107	2014	5	中部			
70	II 07	高茎草原及び風衝草原	05	シカ食害草原	00	080100 タケカンバ群落(III)	080200 カエシマ群落(II)	64	4	2007	1	北海道			
71	III 08	高茎草原及び風衝草原	02	ササ群落	01	アカエゾマツ群落(沢伐林)	080201 カエシマ群落(II)	65	13						
72	III 08	高茎草原及び風衝草原	02	アカエゾマツ群落	00	080300 ササ群落(II)	080400 タシマササ群落(III)	66	24						
73	III 09	二次草原	01	ササ群落	01	シシマササ群落	080401 クマイササ群落	67	19						
74	III 09	二次草原	01	ササ群落	02	クマイササ群落	080402 クマイササ群落	68	0						
75	III 09	二次草原	01	ササ群落	00	080500 シカ食害地群落(II)	080600 ハンゴンソウ群落(II)	69	1	2009	1	北海道			
76	III 09	二次草原	02	タケカンバ群落	01	ハンゴンソウ群落	080601 ハンゴンソウ群落(II)	70	14						
77	III 09	二次草原	03	ハンゴンソウ群落	00	080700 フジカツラ群落	080800 ハンゴンソウ群落(II)	71	227						
78	III 10	伐採跡地群落	00	080800 ハンゴンソウ群落(II)	00	080900 伐採跡地群落(II)	081000 チシマササ-フナ群团	72	3						
79	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	01	チシマササ-フナ群团	00	081000 ヒメオキ-フナ群集	110101 ヒメオキ-フナ群集	73	20						
80	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	01	チシマササ-フナ群团	01	マルバマンサク-フナ群集	110102 マルバマンサク-フナ群集	74	73						
81	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	01	チシマササ-フナ群团	03	スキ-フナ群落	110103 キスキ-フナ群落	75	52						
82	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	01	チシマササ-フナ群团	04	クロモジ-フナ群集	110104 クロモジ-フナ群集	76	32						
83	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	01	エゾイタヤ-シナノキ群集	01	エゾイタヤ-シナノキ群集	110301 エゾイタヤ-シナノキ群集	77	117	2000	4	北陸			
84	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	03	エゾイタヤ-シナノキ群集	02	エゾイタヤ-ケヤキ群集	110302 エゾイタヤ-ケヤキ群集	78	79						
85	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	04	カシワ群落	01	カシワ群落	110401 カシワ群落(IV)	78	79						

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域自然植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・砂丘地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域自然植生等、(IX)植林地、(X)植生等、(XI)河辺・湿原・塩沼地・砂丘地・耕作地植生
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む、B)コケモモトウヒクラス域を含む、C)ヤツババキクラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録、要検討として登録(検査)、不使用

植生区分	大区分	中区分	細区分	細コード	凡例名	凡例コード	副凡例		新規凡例	
							新規凡例		新規凡例	
							新規凡例作成年	2次メッシュ数	新規凡例	新規凡例コード
87	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	04 カシワ群団	02 ヤマカモジグサーカシワ群集	110402	ヤマカモジグサーカシワ群集	細		79	31 2000 2 東北
88	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	04 カシワ群団	03 ネムノキーカシワ群集	110403	ネムノキーカシワ群集	細		80	5 2002 8 九州・沖縄
89	IV 11	落葉広葉樹林(日本海型)	04 カシワ群団	04 ミズナラ群落(海岸風衛型)	110404	ミズナラ群落(海岸風衛型)	細		81	12 2006 1 北海道
90	IV 12	下部針広混交林	01 サワシバ-ミズナラ群団	01 ドマツ-ミズナラ群落	120101	ドマツ-ミズナラ群落	細		82	177 2007 1 北海道
91	IV 12	下部針広混交林	01 サワシバ-ミズナラ群団	02 ミズナラ群落	120102	ミズナラ群落	細		83	192 2007 1 北海道
92	IV 12	下部針広混交林	01 サワシバ-ミズナラ群団	03 エゾイタヤ-ミズナラ群落	120103	エゾイタヤ-ミズナラ群落	細		84	192 2001 1 北海道
93	IV 12	下部針広混交林	01 サワシバ-ミズナラ群団	04 ドマツ群落(誘導林)	120104	ドマツ群落(誘導林)	細	トドマツ-ミ	85	64 2001 1 北海道
94	IV 12	下部針広混交林	01 サワシバ-ミズナラ群団	05 ドロノキ群落	120105	ドロノキ群落	細		85	2008 1 北海道
95	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	00	130100	スズタケーブナ群団	中		86	5
96	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	01 ヤマボウシ-ブナ群集	130101	ヤマボウシ-ブナ群集	細		87	31
97	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	03 ミヤコササ-ブナ群集	130103	ミヤコササ-ブナ群集	細		88	4
98	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	04 オオモミジガサ-ブナ群集	130104	オオモミジガサ-ブナ群集	細		89	7
99	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	05 スズタケーブナ群集	130105	スズタケーブナ群集	細		90	2
100	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	06 シラキ-ブナ群集	130106	シラキ-ブナ群集	細		91	74
101	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	07 ツクジシャカナ-ブナ群集	130107	ツクジシャカナ-ブナ群集	細		92	2
102	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	08 クワガタソウ-ブナ群落	130108	クワガタソウ-ブナ群落	細	(オオモミジ ガガーナ 群集)	93	2 2002 5 中部
103	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	09 ウラジロモミ-ブナ群集	130109	ウラジロモミ-ブナ群集	細		94	6 2006 6 近畿
104	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	10 コアジサイ-ブナ群集	130110	コアジサイ-ブナ群集	細	(ヤマボウシ 群集)	95	5 2008 5 中部
105	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	11 ブナ-イヌブナ群集	130111	ブナ-イヌブナ群集	細	(シラキ-ブ ナ群集)	96	0 2010 3 関東
106	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	01 スズタケーブナ群団	12 ツガ-ブナ群落	130112	ツガ-ブナ群落	細		97	25
107	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	02 イヌブナ群落	00	130200	イヌブナ群落	中		98	18
108	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	02 イヌブナ群落	01 チヤボガヤ-イヌブナ群集	130201	チヤボガヤ-イヌブナ群集	細		99	5
109	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	02 イヌブナ群落	02 ハクウソウボク-イヌブナ群集	130202	ハクウソウボク-イヌブナ群集	細		100	17 2000 2 東北
110	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	02 イヌブナ群落	03 モミ-イヌブナ群集	130203	モミ-イヌブナ群集	細		101	14 2000 2 東北
111	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	02 イヌブナ群落	04 アカシデ-モミ群落	130204	アカシデ-モミ群落	細	(モミ-イヌブ ナ群集)	102	0 2010 3 関東
112	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	02 イヌブナ群落	05 アブツヅリ-イヌブナ群集	130205	アブツヅリ-イヌブナ群集	細		103	0
113	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	03 ミズナラ群落	00	130300	ミズナラ群落(太平洋型)	中		104	36
114	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	03 ミズナラ群落	01 リヨウブ-ミズナラ群集	130301	リヨウブ-ミズナラ群集	細		105	0 2010 8 九州・沖縄
115	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	03 ミズナラ群落	02 ツクジコウモリソウ-ミズナラ群集	130302	ツクジコウモリソウ-ミズナラ群集	細		106	4
116	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	03 ミズナラ群落	03 ミヤコササ-ミズナラ群集(自然林)	130303	ミヤコササ-ミズナラ群集(自然林)	細		107	2011 3 関東
117	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	04 イヌシデ-アカシデ群落	01 イヌシデ-アカシデ群落	130401	イヌシデ-アカシデ群落	細		108	10 2010 8 九州・沖縄
118	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	05 コハウチワカエデ群落	02 カクレコウモリソウ-キリシマミシバツツジ群	130402	カクレコウモリソウ-キリシマミシバツツジ群	細		109	3 2004 5 中部
119	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	05 コハウチワカエデ群落	01 ケクロモジ-コハウチワカエデ群落	130501	ケクロモジ-コハウチワカエデ群落	細		110	25 2014 3 関東
120	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	05 コハウチワカエデ群落	02 ツクジコウモリソウ-キリシマミシバツツジ群	130502	ツクジコウモリソウ-キリシマミシバツツジ群	細		111	3 2004 5 中部
121	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	05 コハウチワカエデ群落	01 クリ-コナラ群集(自然林)	130601	クリ-コナラ群集(自然林)	細		112	5 2004 5 中部
122	IV 13	落葉広葉樹林(太平洋型)	06 コナラ群落	00	140100	カラジロモミ群落	中		113	37 2014 3 関東
123	IV 14	冷温帶針葉樹林	01 ウラジロモミ群落	01 ウラジロモミ-コメツガ群落	140101	ウラジロモミ-コメツガ群落	細		114	24 2000 2 東北
124	IV 14	冷温帶針葉樹林	01 ウラジロモミ群落	02 カニコウモリ-ウラジロモミ群落	140102	カニコウモリ-ウラジロモミ群落	細		115	24 2000 2 東北
125	IV 14	冷温帶針葉樹林	01 ウラジロモミ群落	03 サワダシ-ウラジロモミ群落	140103	サワダシ-ウラジロモミ群落	細		116	24 2000 2 東北
★301	IV 14	冷温帶針葉樹林	02 ヒノキアスナロ群落	00	140200	ヒノキアスナロ群落	中		117	24 2000 2 東北
126	IV 14	冷温帶針葉樹林	02 ヒノキアスナロ群落	01 ナ-ヒノキアスナロ群落	140201	ナ-ヒノキアスナロ群落	細		118	24 2000 2 東北

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名：凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・砂丘地・耕作地・植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域代償植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・砂丘地・耕作地・植生
クラス重複：A)高山帯自然植生を含む、B)コケモモトウヒクラス域を含む、C)ヤツババキクラス域を含む
平成25年度更新状況：新・凡例として登録、要検討として登録、検査、第7回以降不使用

植生区分	大区分	中コード	細区分	細コード	凡例名		副凡例	新規凡例 ブロックコード	新規凡例 プロックコード	シカ等食害 RL凡例				
					凡例名									
					2次メッシュ数	細分布								
128	IV	14	冷温带针葉樹林	03	クロベーキタゴヨウ群落	00	140300 クロベーキタゴヨウ群落	115	36					
129	IV	14	冷温带针葉樹林	03	クロベーキタゴヨウ群落	01	140301 アカミノイツヅギークロベ群集	116	61					
130	IV	14	冷温带针葉樹林	04	クロベーヒメコマツ群落	00	140400 クロベーヒメコマツ群落	117	12					
131	IV	14	冷温带针葉樹林	05	アスナロ群落	00	140500 アスナロ群落	118	3					
132	IV	14	冷温带针葉樹林	06	ツガ群落	00	140600 ツガ群落	119	40	2000 7 中国・四国				
133	IV	14	冷温带针葉樹林	06	ツガ群落	01	140601 コカンスゲーツガ群集	120	81					
134	IV	14	冷温带针葉樹林	06	ツガ群落	02	140602 ハノキーツヅガ群集	121	17					
135	IV	14	冷温带针葉樹林	06	ツガ群落	03	140603 アケボニツヅジーツヅガ群集	122	6	2004 8 九州・沖縄				
136	IV	14	冷温带针葉樹林	06	ツガ群落	04	140604 キリシマミツバツヅジーツヅガ群落	123	0	2010 8 九州・沖縄				
137	IV	14	冷温带针葉樹林	07	ツガートガサワラ群落	00	140700 ツガートガサワラ群落	124	3					
138	IV	14	冷温带针葉樹林	08	ヒノキ群落	00	140800 ヒノキ群落	125	69					
139	IV	14	冷温带针葉樹林	08	ヒノキ群落	01	140801 シノブカグマーヒノキ群集	126	3					
140	IV	14	冷温带针葉樹林	08	ヒノキ群落	02	140802 シャクナゲーヒノキ群集	127	29					
141	IV	14	冷温带针葉樹林	08	ヒノキ群落	03	140803 ツクジヤクナゲーヒノキ群集	128	11	2004 8 九州・沖縄				
142	IV	14	冷温带针葉樹林	08	ヒノキ群落	04	140804 マルバヒノキーヒノキ群集	129	0	2010 5 中部				
143	IV	14	冷温带针葉樹林	09	コウヤマキ群落	00	140900 コウヤマキ群落	130	3					
144	IV	14	冷温带针葉樹林	09	コウヤマキ群落	01	140901 ナーベコウヤマキ群落	131	1	2004 8 九州・沖縄				
145	IV	14	冷温带针葉樹林	10	スギ群落	00	141000 スギ群落	132	3					
146	IV	14	冷温带针葉樹林	10	スギ群落	01	141001 ヒメヒサカキースギ群集	133	4	2008 8 九州・沖縄				
147	IV	14	冷温带针葉樹林	11	モミ群落	00	141100 モミ群落	134	3	2007 5 中部				
148	IV	14	冷温带针葉樹林	11	モミ群落	01	141101 アオハダーモミ群落 (モミイヌブナ群集)	135	30	2000 2 東北				
149	IV	14	冷温带针葉樹林	13	ハリモミ群落	00	141300 ハリモミ群落	136	3	2004 5 中部				
150	IV	14	冷温带针葉樹林	14	サワラ群落	00	141400 サワラ群落			2011 3-5 関東・中部				
151	IV	14	冷温带针葉樹林	15	トドマツーキタゴヨウ群落	00	141500 トドマツーキタゴヨウ群落			2011 1 北海道				
152	IV	15	岩角地針葉樹林	01	アカマツ群落	01	150100 ヒメコマツアカマツ群落	137	88					
153	IV	15	岩角地針葉樹林	01	アカマツ群落	02	150101 ヒメコマツアカマツ群落	138	16					
154	IV	15	岩角地針葉樹林	01	アカマツ群落	02	150102 ミヤマキリシマアカマツ群落	139	0	2010 8 九州・沖縄				
155	IV	15	岩角地針葉樹林	02	ヒメコマツ群落	01	150200 ヒメコマツ群落	140	6					
156	IV	15	岩角地針葉樹林	02	ヒメコマツ群落	02	150201 ヒメコマツナゲークロベ群落			2013 7 中国・四国				
157	IV	16	渓畔林	01	サワグルミ群落	01	160101 ジュウモクナシシータサワグルミ群集	142	227					
158	IV	16	渓畔林	01	サワグルミ群落	03	160103 ヤハズアシサイサワグルミ群集	143	20					
159	IV	16	渓畔林	01	サワグルミ群落	04	160104 ヤマタイミンガサーサワグルミ群集	144	5	2006 5 中部				
160	IV	16	渓畔林	01	サワグルミ群落	05	160105 テヅカエデータカネミズキ群集			2013 2 東北				
161	IV	16	渓畔林	02	シオジ群落	00	160200 シオジ群落	145	0					
162	IV	16	渓畔林	02	シオジ群落	01	160201 ミヤマクマラビーシオジ群集	146	16					
163	IV	16	渓畔林	02	イワボタソニアシオジ群落	02	160202 イワボタソニアシオジ群集	147	16	2002 5 中部				
164	IV	16	渓畔林	03	ハリニレ群落	00	160300 ハリニレ群落	148	220					
165	IV	16	渓畔林	03	ハリニレ群落	01	160301 ハリニレ群落	149	42					
166	IV	16	渓畔林	03	ハリニレ群落	02	160302 オニヒヨウタンボクーハルニレ群集			2011 5 中部				
167	IV	16	渓畔林	04	ケヤキ群落	00	160400 ケヤキ群落(IV)	150	85					
168	IV	16	渓畔林	04	ケヤキ群落	01	160401 チヤボガヤーケヤキ群集	151	171					
169	IV	16	渓畔林	04	ケヤキ群落	02	160402 ヒメワハミツバーケヤキ群集	152	7					
170	IV	16	渓畔林	04	ケヤキ群落	03	160403 オオモミジーケヤキ群集	153	31	2000 2 東北				
171	IV	16	渓畔林	04	ケヤキ群落	04	160404 タマブキーケヤキ群集	154	25	2003 2 東北				
172	IV	16	渓畔林	05	アサガラ群落	01	160501 コクサギーアサガラ群落	155	2					

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域代償植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等、(IX)植林地、(X)耕作地植生
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む V)コケモモトウヒクラス域を含む F)ブナクラス域を含む C)ヤツババキクラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録 検/要検討して保留 削/第7回以降不使用

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細区分	細コード	凡例名		副凡例	新規凡例 ブロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例作成年	2次メッシュ数	細分 剖面 剖面	更新状況 レベル	注記	
							コード	コード										
							例	例										
173	IV	16	渓畔林	06	オオバアサガラ群落	00	160600	オオバアサガラ群落		156	1	2002	5	中部				
174	IV	16	渓畔林	07	カツラ群落	00	160700	カツラ群落	中	157	9	2002	1	北海道				
175	IV	16	渓畔林	08	ヤチダモ群落	01	160801	ハシドイーサチャタモ群集	細	158	27	1	2007	1	北海道			
176	IV	16	渓畔林	08	ヤチダモ群落	02	160802	エゾマツ-ヤチダモ群落	細	159								
177	IV	17	沿沢林	01	ヤチダモ群落	00	170100	ヤチダモ群落	中	161	9							
178	IV	17	沿沢林	01	ヤチダモ群落	02	170102	ハンノキ-ヤチダモ群集	細	162								
179	IV	17	沿沢林	02	ハンノキ群落	00	170200	ハンノキ群落(IV)	中	163	226							
180	IV	17	沿沢林	03	ズミ群落	01	170301	レンゲツツジ-ズミ群集	細	164	0	2010	3	関東				
181	IV	18	河辺林	01	ヤナギ高木群落	00	180100	ヤナギ高木群落(IV)	中	165	471							
182	IV	18	河辺林	01	ヤナギ高木群落	01	180101	オオバナギ-ドロノキ群集	細	166	40							
183	IV	18	河辺林	02	ケショウヤナギ群落	02	180102	ケショウヤナギ群落	細	167	19							
184	IV	18	河辺林	01	ヤナギ高木群落	03	180103	シロヤナギ群集	細	168	0							
185	IV	18	河辺林	01	ヤナギ高木群落	04	180104	ユビソヤナギ群落	細		2011	3	関東	r				
186	IV	18	河辺林	02	ヤナギ低木群落	00	180200	ヤナギ低木群落(IV)	中	169	311							
187	IV	18	河辺林	03	オニグルミ群落	00	180300	オニグルミ群落(IV)	中	170	4							
188	IV	18	河辺林	04	ヤマハンノキ群落	00	180400	ヤマハンノキ群落	中	171	159							
189	IV	18	河辺林	05	河辺ヤシヤブジ群落	00	180500	河辺ヤシヤブジ群落	中	172	8							
★303	IV	18	河辺林	06	河辺アカマツ群落	00	180600	河辺アカマツ群落	中		2014	3	関東					
190	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	00	ウラジロヨウラーク-ミヤマナラ群団	00	190100	ウラジロヨウラーク-ミヤマナラ群団	大	173	197							
191	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	01	ウラジロヨウラーク-ミヤマナラ群団	01	190101	ミヤマナラ群落	中	174	37							
192	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	01	ウラジロヨウラーク-ミヤマナラ群団	03	190103	ミネヤナギ群落	細	175	36							
193	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	01	ウラジロヨウラーク-ミヤマナラ群団	04	190104	キャラボク群落	細	176	14							
194	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	01	ウラジロヨウラーク-ミヤマナラ群団	02	190200	ヤシヤブシ群落	中	177	2							
195	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	02	ヤシヤブシ群落	00	190201	ミヤマキリシマ-ヤシヤブシ群落	細	178	5							
196	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	02	ヤシヤブシ群落	01	190202	ミヤマキリシマ-ヤシヤブシ群落	細	179	0							
197	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	03	オノイヌヤメイゲツ群落	01	190301	ミヤマナラバミ-オオイタヤメイゲツ群集	細	180	0							
198	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	04	オオヒメヅケ群落	01	190401	サイコクボタルオオヒメヅケ群集	細	181	0							
199	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	05	イワシテ群落	00	190500	イワシテ群落(IV)	中	182	9							
200	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	05	イワシテ群落	01	190501	イワシクバネウツギ-イワシテ群集	細	183	0							
201	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	06	ヤマボウシ群落	00	190600	ヤマボウシ群落	中	184	0							
202	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	07	ナナカマド群落	01	190700	コミネカエデ-ナナカマド群集	細	185	6							
203	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	09	ホンシヤクナゲ群落	00	190900	ホンシヤクナゲ群落	中	186	1	2000	7	中国・四国				
204	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	10	イワヒバ群落	00	191000	イワヒバ群落	中	188	0							
205	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	10	イワヒバ群落	01	191001	イワシモシケ-イワヒバ群落	細	187	8	2000	8	九州・沖縄				
206	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	10	イワヒバ群落	02	191002	タンギク-イワヒバ群集	細	188	6	2000	8	九州・沖縄				
207	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	11	シロヤシオ群落	00	191100	シロヤシオ群落	細	189	0							
208	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	12	ミヤマビャクシン群落	01	191201	タケシマクナゲ-ミヤマビャクシン群集	細	190	1	2006	8	九州・沖縄				
209	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	13	ミヤマハンノキ群落	00	191300	ミヤマハンノキ群落(IV)	中	191	4	2008	8	九州・沖縄				
210	IV	19	岩角地・風衝地低木群落	14	ニシキウツギ群落	01	191401	キリシマゴタイ-ニシキウツギ群落	大	192	0	2009	7	九州・沖縄				
211	IV	20	なだれ地自然低木群落	00	タニウツギ群落	00	191500	なだれ地自然低木群落	大	193	0	2010	8	九州・沖縄				
212	IV	20	なだれ地自然低木群落	01	タニウツギ群落	01	191600	タニウツギ群落	中	194	77							
213	IV	20	なだれ地自然低木群落	01	タニウツギ群落	02	191700	ヒメシャブシ-タニウツギ群落	細	195	0							
214	IV	20	なだれ地自然低木群落	01	タニウツギ群落	03	191800	ヒメシャブシ-タニウツギ群落	細	196	112							
215	IV	21	自然草原	02	ミヤマカラハシナノキ群落	01	191901	ウワミソウ-ミヤマカラハシナノキ群集	大	197	2							
216	IV	21	自然草原	00	ササ群落	00	192000	自然草原	大	198	59							
217	IV	21	自然草原	01	ササ群落	01	192100	ササ群落(IV)	中	199	54							
218	IV	21	自然草原	01	ササ群落	02	192200	シマザサ群落	細	200	0							
219	IV	21	自然草原	01	ササ群落	03	192300	シマザサ群落(IV)	細	201	37							

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

★ 平成26年度新凡例

凡例名：凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域自然植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域代償植生 (VII)河辺・湿原・砂丘植生等、(IX)植林地、耕作地植生
クラス重複：A)高山帯自然植生を含む、B)コケモモトトウヒクラス域を含む、C)ヤツババキクラス域を含む
平成25年度更新状況：新・凡例として登録 検 要検討として保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大区分	中コード	細区分	細コード	凡例名		副凡例	新規凡例 ブロックコード	新規凡例作成年	2次メッシュ数	細分布 域重複	更新状況 レベル	注記	
					コード	例名								
					例名	例名								
220	IV 21	自然草原	01	ササ群落	03	チマキササ群落	210103	チマキササ群落(IV)	202	1				
221	IV 21	自然草原	01	ササ群落	04	ヤケジマダケ群集	210104	ヤケジマダケ群集	203	4	2008	8	九州・沖縄	
222	IV 21	高茎草原及び風衝草原	01	ササ群落	05	イワノカリヤスチシマザサ群落	210105	イワノカリヤスチシマザサ群落	203.5	0	2009	1	北海道	●
223	IV 21	自然草原	02	シモツケンソウ群落	00		210200	シモツケンソウ群落	204	0				
224	IV 21	自然草原	02	シモツケンソウ群落	01	フシアカシヨウマーシモツケンソウ群集	210300	フシアカシヨウマーシモツケンソウ群集	205	7				
225	IV 21	自然草原	03	シマツノカリヤス群落	00		210301	シマツノカリヤス群落	206	0				
226	IV 21	自然草原	03	シマツノカリヤス群落	01	シマキンレイカーシマツノカリヤス群集	210301	シマキンレイカーシマツノカリヤス群集	207	0				r
227	IV 21	自然草原	04	オオヨモギーオオイタドリ群団	00		210400	オオヨモギーオオイタドリ群団	208	55				
228	V 22	落葉広葉樹二次林	01	ブナミズナラ群落	00		220100	ブナミズナラ群落	209	203				
229	V 22	落葉広葉樹二次林	01	ブナミズナラ群落	01	スギミズナラ群落	220101	スギミズナラ群落	210	32				
230	V 22	落葉広葉樹二次林	01	ブナミズナラ群落	01	クリミズナラ群集	220102	クリミズナラ群集	211	269				
231	V 22	落葉広葉樹二次林	01	ブナミズナラ群落	03	オオバクロモジミズナラ群集	220103	オオバクロモジミズナラ群集	212	295				
232	V 22	落葉広葉樹二次林	04	ブナニンニク林	04		220104	ブナニンニク林	213	119				
233	V 22	落葉広葉樹二次林	05	シロモジ群集	05		220105	シロモジ群集	214	5				
234	V 22	落葉広葉樹二次林	01	ブナミズナラ群落	06	キタコブシミズナラ群集	220106	キタコブシミズナラ群集	215	38	2000	2	東北	
235	V 22	落葉広葉樹二次林	01	ブナミズナラ群落	07	キンキマダマツクラーミズナラ群集	220107	キンキマダマツクラーミズナラ群集	216	7	2000	6	近畿	
236	V 22	落葉広葉樹二次林	01	ブナミズナラ群落	08	カイナンサンサラドウタンニミズナラ群落	220108	カイナンサンサラドウタンニミズナラ群落	217	0				
237	V 22	落葉広葉樹二次林	01	ブナミズナラ群落	09	クリミズナラ群集(中国山地)	220109	クリミズナラ群集(中国山地)	218	0				
238	V 22	落葉広葉樹二次林	01	ブナミズナラ群落	10	クリオウツウミズナラ群集	220110	クリオウツウミズナラ群集	218.5	0	2010	5	関東	
239	V 22	落葉広葉樹二次林	02	カシワ群落	00		220200	カシワ群落(V)	219	94				
240	V 22	落葉広葉樹二次林	03	ウダイカンバン群落	00		220300	ウダイカンバン群落	220	22				
241	V 22	落葉広葉樹二次林	04	リョウブ群落	00		220400	リョウブ群落	221	0				
242	V 22	落葉広葉樹二次林	04	リョウブ群落	01	リョウブミズナラ群落	220401	リョウブミズナラ群落	222	10	2000	6	近畿	
243	V 22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	00		220500	コナラ群落(V)	223	48				
244	V 22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	01	オクチヨウジザクラーコナラ群集	220501	オクチヨウジザ克拉ーコナラ群集	224	164				
245	V 22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	02	カスミザクラーコナラ群落	220502	カスミザクラーコナラ群落	225	33				
246	V 22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	03	ユキグニミツバツツジーコナラ群集	220503	ユキグニミツバツツジーコナラ群集	226	159	2001	4	北陸	
247	V 22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	04	イヌザクラーコナラ群集	220504	イヌザ克拉ーコナラ群集	227	21	2001	4	北陸	
248	V 22	落葉広葉樹二次林	05	コナラ群落	05	ホソバヒカゲスグーコナラ群集	220505	ホソバヒカゲスグーコナラ群集	228	44	2000	2	東北	
249	V 22	落葉広葉樹二次林	07	アカシデーイシデ群落	00		220700	アカシデーイシデ群落(V)	229	268				
250	V 22	落葉広葉樹二次林	08	クマシデ群落	00		220800	クマシデ群落	230	20				
251	V 22	落葉広葉樹二次林	08	クマシデ群落	01	コガケツギーグマシデ群集	220801	コガケツギーグマシデ群集	231	18				
252	V 22	落葉広葉樹二次林	09	シラカシ群落	00		220900	シラカシ群落	232	34				
253	V 22	落葉広葉樹二次林	09	シラカシ群落	01	ササシラカンハ群落	220901	ササシラカンハ群落	233	131				
254	V 22	落葉広葉樹二次林	09	シラカシ群落	02	レンゲツツジーシラカンハ群落	220902	レンゲツツジーシラカンハ群落	234	3				
255	V 22	落葉広葉樹二次林	09	シラカシ群落	03	エゾヤマナラシ群落	220903	エゾヤマナラシ群落	235	1	2007	1	北海道	

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名：凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツバヒカラス
 域自然植生 (VII)ヤツバヒカラス域代償植生 (VIII)河辺・湿原・塩沼地・砂丘植生等、(IX)植林地・耕作地植生
 クラス重複：A)高山帯自然植生を含む V)コケモモトウヒクラス域を含む F)ブナクラス域を含む
 平成25年度更新状況：新/凡例として登録 検 要検討して保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大区分	中コード	細区分	細コード	凡例名		副凡例	新規凡例 ブロックコード	新規凡例 プロックコード
					コード	コード			
					2次メッシュ数	細分 域重複 レベル			
256	V 22	落葉広葉樹二次林	10 ハンドイ群落	00	221000 ハシドイ群落	236 0			
257	V 22	落葉広葉樹二次林	11 ミズナラ群落	00	221100 ミズナラ群落(V)	237 6			
258	V 22	落葉広葉樹二次林	11 ミズナラ群落	01	221101 シラカンバーミズナラ群落	238 295	2000 1	北海道	
259	V 22	落葉広葉樹二次林	11 ミズナラ群落	02	221102 コナラーミズナラ群落	239 19			
260	V 22	落葉広葉樹二次林	11 ミズナラ群落	03	221103 ミヤコザサーミズナラ群集	240 0	2014 1	北海道	
★101	V 22	落葉広葉樹二次林	11 ミズナラ群落	04	221104 エゾムラサキツツジミズナラ群落	241 242	2000 4	北陸	
261	V 22	落葉広葉樹二次林	12 オニグリミ群落	00	221200 エノグリミ群落(V)	242 104	2001 2	東北	
262	V 22	落葉広葉樹二次林	13 ケヤキ群落	00	221300 ケヤキニセツ林	243 32	2005 2	東北	
263	V 22	落葉広葉樹二次林	14 ダケカンバ群落	00	221400 ダケカンバ群落(V)	243 32	2005 2	東北	
264	V 22	落葉広葉樹二次林	15 イヌナニセツ林	00	221500 イヌナニセツ林	243 32	2005 2	東北	
265	V 23	常緑針葉樹二次林	01 アカマツ群落	00	230100 アカマツ群落(V)	243 2			
266	V 23	常緑針葉樹二次林	02 ヒノキアスナロ群落	00	230200 ヒノキアスナロ群落(V)	245 18	2003 2	東北	
267	V 24	落葉広葉低木群落	00	00	240000 落葉広葉低木群落	247 354	2000 5	中部	
268	V 24	落葉広葉低木群落	01 ノリウツギ群落	00	240100 ノリウツギ群落	248 14			
269	V 24	落葉広葉低木群落	01 ノリウツギ群落	01	240101 ニシキウツギーノリウツギ群落	249 34			
270	V 24	落葉広葉低木群落	01 ノリウツギ群落	02	240102 タニナツギーノリウツギ群落	250 90			
271	V 24	落葉広葉低木群落	01 ノリウツギ群落	03	240103 ヤマカモジグサーリウツギ群集	251 8			
272	V 24	落葉広葉低木群落	01 ノリウツギ群落	04	240104 ツクシウツギーノリウツギ群落	252 0			
273	V 24	落葉広葉低木群落	02 ダイセンニンジバツツジ群落	01	240201 ススキダイセンニンジバツツジ群落	253 0			
274	V 24	落葉広葉低木群落	03 アセビ群落	00	240300 アセビ群落	254 1	2003 7	中国・四国	
275	V 24	落葉広葉低木群落	03 アセビ群落	01	240301 シシマママコナーアセビ群集	255 6	2001 8	九州・沖縄	
276	V 24	落葉広葉低木群落	04 ツツジ科植物群落	01	240400 レンデツツジ群落	256 2010	3	関東	
277	V 24	落葉広葉低木群落	04 ツツジ科植物群落	02	240401 アノンツツジ群落	256 0	2010 7	中国・四国	
278	V 24	落葉広葉低木群落	04 ツツジ科植物群落	03	240403 オンツツジ群落	256 0	2010 7	中国・四国	
279	V 24	落葉広葉低木群落	04 ツツジ科植物群落	04	240404 ヤマツツジ群落	257 2013	2	東北	
280	V 24	落葉広葉低木群落	05 コハシククロジ群落	01	240501 オオマルバテンニンシーコハシククロジル	281 0	2010 8	九州・沖縄	●
281	V 25	二次草原	01 ササ群落	00	250100 ササ群落(V)	257 346			
282	V 25	二次草原	01 ササ群落	01	250101 チシマザサーカマイザサ群落	258 83			
283	V 25	二次草原	01 ササ群落	02	250102 チマキササ群落(V)	259 6			
284	V 25	二次草原	01 ササ群落	03	250103 スタケ群落	260 2			
285	V 25	二次草原	01 ササ群落	04	250104 ミヤコザサ群落	261 60			
286	V 25	二次草原	01 ササ群落	05	250105 ハコネダケ群落	262 7			
287	V 25	二次草原	01 ササ群落	06	250106 ナガボソロワレモコウエゾミヤコザサ群	263 58	2003 1	北海道	
288	V 25	二次草原	01 ササ群落	07	250107 ミヤコザササ倭生群落	264 4	2006 6	近畿	●
289	V 25	二次草原	02 ススキ群	00	250200 ススキ群団(V)	265 613			
290	V 25	二次草原	02 ススキ群	01 エゾヤマハギーススキ群落	266 0				
291	V 25	二次草原	02 ススキ群	02 ノハナショウブーススキ群集	267 0				
292	V 25	二次草原	02 ススキ群	03 カワラマツバーススキ群落	268 1				
293	V 25	二次草原	02 ススキ群	04 ヤマトナオーススキ群落	269 1				
294	V 25	二次草原	02 ススキ群	05 ホクチアオミーススキ群落	270 0				
295	V 25	二次草原	02 ススキ群	06 ミヤマキシリマーススキ群落	271 8				●
296	V 25	二次草原	02 ススキ群	07 ヤマアワーマルバダケスキ群落	272 2	2009 5	中部		●
297	V 25	二次草原	02 ススキ群	08 ツルキジムシローヤマカヌカ群落	273 0	2010 8	九州・沖縄		●
298	V 25	二次草原	03 シハ群団	09 ツルキジムシローヤマカヌカ群落	274 14				
299	V 25	二次草原	03 シハ群団	10 ミヤマヌカボシソウイ群落	275 2	2006 6	近畿		●

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域代償植生 (VII)植林地、砂丘植生等、(IX)植林地、耕作地植生
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む V)コケモモトトウヒクラス域を含む F)ブナクラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録 植生要検討して保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細区分	細コード	凡例名		副凡例	新規凡例 ブロックコード	新規凡例作成年	2次メッシュ数	細分 離合群 単	更新状況 レベル	注記							
							凡例コード															
							シカ等食害 R・凡例	新規凡例 プロック														
300	V 25	二次草原	04	ヘビノネコサ群落	00		250400	ヘビノネコサ群落	中		276	0		北海道								
301	V 25	二次草原	05	オオヨモギ群落	00		250500	オオヨモギ群落	中		277	200		北海道								
302	V 25	二次草原	05	オオヨモギ群落	01	ハンゴンソウ群落	250501	ハンゴンソウ群落	細	換	278	8	2007	1	北海道							
303	V 25	二次草原	05	オオヨモギ群落	02	イケマーハンゴンソウ群落	250502	イケマーハンゴンソウ群落	細	シカ食害地	279	2	2008	1	北海道							
304	V 25	二次草原	05	オオヨモギ群落	03	オアワダチソウ群落	250601	オアワダチソウ群落	細	シカ食害地	280	2	2009	5	中部							
305	V 25	二次草原	06	マルバタケツキ群落	01	ヤマカモジグサ-マルバタケツキ群落	250601	ヤマカモジグサ-マルバタケツキ群落	細	シカ食害地	282	0	2010	8	九州・沖縄							
306	V 25	二次草原	07	イワヒメワラビ群落	01	ハイケイソウ-イワヒメワラビ群落	250701	ハイケイソウ-イワヒメワラビ群落	細	シカ食害地	282	0	2012	6	近畿							
307	V 25	二次草原	08	シカ食害草原	00		250800	シカ食害草原	中		283	761										
308	V 26	伐採跡地群落	00		00		260000	伐採跡地群落(V)	大		284	1	2008	1	北海道							
309	V 26	伐採跡地群落	01	シラカバ群落	00	01 風倒跡地植生	260001	風倒跡地植生	細		285	42										
310	V 27	常緑広葉樹林	01	シラカシ群落	01	シラカシ群集	270100	シラカシ群集	中		286	126										
311	V 27	常緑広葉樹林	01	シラカシ群落	03	シクハネガシ-シラカシ群集	270103	シクハネガシ-シラカシ群集	細		287	8										
312	V 27	常緑広葉樹林	01	シラカシ群落	00		270200	アラカジ群落	中	二次林を含む	288	211										
313	V 27	常緑広葉樹林	02	アラカジ群落	00		270201	ジャノヒゲ-アラカジ群集	細		289	0										
314	V 27	常緑広葉樹林	02	アラカジ群落	01	ジャノヒゲ-アラカジ群集	270202	ナンテン-アラカジ群集	細		290	11										
315	V 27	常緑広葉樹林	02	アラカジ群落	02	アラカジ群集	270300	アラカジ群落	中		291	59										
316	V 27	常緑広葉樹林	03	アカガシ群落	01	ミヤマシキミーアカラカシ群集	270301	ミヤマシキミーアカラカシ群集	細		292	44										
317	V 27	常緑広葉樹林	03	アカガシ群落	04	ツクバネガシ群落	270400	ツクバネガシ群落	中		293	50										
318	V 27	常緑広葉樹林	05	ウラジロガシ群落	00		270500	ウラジロガシ群落	中		294	101										
319	V 27	常緑広葉樹林	05	ウラジロガシ群落	01	ヒメオキ-ウラジロガシ群集	270501	ヒメオキ-ウラジロガシ群集	細		295	31										
320	V 27	常緑広葉樹林	05	ウラジロガシ群落	02	イスノキ-ウラジロガシ群集	270502	イスノキ-ウラジロガシ群集	細		296	71										
321	V 27	常緑広葉樹林	06	イチイガシ群落	00		270600	イチイガシ群落	中		297	3										
322	V 27	常緑広葉樹林	06	イチイガシ群落	02	ルリノキ-イチイガシ群集	270602	ルリノキ-イチイガシ群集	細		298	70										
323	V 27	常緑広葉樹林	07	ハナガシ群落	00		270700	ハナガシ群落	中		299	1										
324	V 27	常緑広葉樹林	07	ハナガシ群落	00		270800	シブカガシ群落	中		300	9										
325	V 27	常緑広葉樹林	08	シリカガシ群落	00		270801	シリモチ-シリカガシ群集	細		301	0										
326	V 27	常緑広葉樹林	09	イヌツヅグ群落	01	ハイノキ-イヌツヅグ群落	270901	ハイノキ-イヌツヅグ群落	細		302	1										
327	V 27	常緑広葉樹林	10	ヤマグルマ群落	01	ヒカゲツヅジ-ヤマグルマ群落	271001	ヒカゲツヅジ-ヤマグルマ群落	細		303	2										
328	V 27	常緑広葉樹林	10	ヤマグルマ群落	02	ユズリハ-ヤマグルマ群落	271002	ユズリハ-ヤマグルマ群落	細		304	0										
329	V 27	常緑広葉樹林	10	ヤマグルマ群落	03	イワナンテン-ヤマグルマ群集	271003	イワナンテン-ヤマグルマ群集	細		305	0	2010	5	中部							
330	V 27	常緑広葉樹林	10	ヤマグルマ群落	00		271100	シジイ群落	中		306	18										
331	V 27	常緑広葉樹林	11	コジイ群落	01	サカキ-コジイ群集	271101	サカキ-コジイ群集	細		307	22										
332	V 27	常緑広葉樹林	11	コジイ群落	02	カナメモチ-コジイ群集	271102	カナメモチ-コジイ群集	細		308	160										
333	V 27	常緑広葉樹林	11	コジイ群落	03	クロバイ-コジイ群集	271103	クロバイ-コジイ群集	細		309	0										
334	V 27	常緑広葉樹林	11	コジイ群落	00		271200	スタジイ群落	中		310	55										
335	V 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	00		271201	ヤブコウジ-スタジイ群集	細		311	308										
336	V 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	01	ヤブコウジ-スタジイ群集	271203	ホソバカナワラビ-スタジイ群集	細		312	92										
337	V 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	04	オオシマカランスグースタジイ群集	271204	オオシマカランスグースタジイ群集	細		313	0										
338	V 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	05	ミミズバ-イースタジイ群集	271205	ミミズバ-イースタジイ群集	細		314	176										
339	V 27	常緑広葉樹林	12	スタジイ群落	06	ヤクシマアシ-イースタジイ群集	271206	ヤクシマアシ-イースタジイ群集	細		315	10										
340	V 27	常緑広葉樹林	13	マテバシイ群落	00		271300	マテバシイ群落	中		316	0										
341	V 27	常緑広葉樹林	14	ホソバカナワラビ群落	00		271400	ホソバカナワラビ群落	細		317	0										
342	V 27	常緑広葉樹林	14	ヤブツバキ群落	00		271500	ヤブツバキ群落	中		318	14										
343	V 27	常緑広葉樹林	15	タブノキ群落	00		271600	タブノキ群落	中		319	142										
344	V 27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	01	イノデ-タブノキ群落	271601	イノデ-タブノキ群落	細		320	160										
345	V 27	常緑広葉樹林	16	タブノキ群落	02	ヤブニッケイ-タブノキ群落	271602	ヤブニッケイ-タブノキ群落	細		321	0										

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域自然植生 (VI)ヤツバカシクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツバカシクラス域自然植生等、(IX)植林地、砂丘植生等、(X)河辺、湿原、塩沼地、耕作地植生
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む V)コケモモトウヒクラス域を含む F)ブナクラス域を含む C)ヤツバカシクラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録 検 要検討して保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細区分	細コード	凡例名		副凡例	新規凡例 ブロックコード	新規凡例作成年	2次メッシュ数	細分 域重複	更新状況	注記								
							凡例コード																
							副凡例	新規凡例 ブロックコード															
347	VI 27	常緑広葉樹林		16 タブノキ群落	03 ムサシアブミータブノキ群集	271603	ムサシアブミータブノキ群集		細		322	26											
348	VI 27	常緑広葉樹林		16 タブノキ群落	04 ハクサンボクータブノキ群落	271604	ハクサンボクータブノキ群落		細		323	5											
349	VI 27	常緑広葉樹林		16 タブノキ群落	05 アコウータブノキ群落	271605	アコウータブノキ群落		細		324	12	2008	8	九州・沖縄								
350	VI 27	常緑広葉樹林		16 タブノキ群落	06 ハドノキータブノキ群落	271606	ハドノキータブノキ群落		細		325	12	2013	3	関東								
351	VI 27	常緑広葉樹林		16 タブノキ群落	07 レセイタマアジサイータブノキ群落	271607	レセイタマアジサイータブノキ群落		細		326	0											
352	VI 27	常緑広葉樹林		17 ホルトキ群落	00	271700	ホルトキ群落		中		327	58	2000	5	中部								
353	VI 27	常緑広葉樹林		18 カコノキ群落	00	271800	カコノキ群落		中		328	2	2001	7	中国・四国								
354	VI 27	常緑広葉樹林		19 ウバメガシ群落	00	271900	ウバメガシ群落(常緑広葉樹林)		中		329	1	2003	7	中国・四国								
355	VI 27	常緑広葉樹林		20 クロバイ群落	00	272000	クロバイ群落		中		330	32	2013	3	関東								
356	VI 27	常緑広葉樹林		21 イスノキ群落	00	272100	イスノキ群落		中		331	237											
357	VI 27	常緑広葉樹林		22 ハチジョウイヌツゲ群落	00	272200	ハチジョウイヌツゲ群落		中		332	0											
358	VI 28	暖温帶針葉樹林		01 モミ群落	00	280100	モミ群落(VI)		中		333	1											
359	VI 28	暖温帶針葉樹林		01 モミ群落	01 シキミーモミ群集	280101	シキミーモミ群集		細		334	1											
360	VI 28	暖温帶針葉樹林		01 モミ群落	02 コガクウツギモミ群集	280102	コガクウツギモミ群集		細		335	0											
361	VI 28	暖温帶針葉樹林		02 ナギ群落	00	280200	ナギ群落		中		336	1	2001	5	中部								
362	VI 28	暖温帶針葉樹林		03 イヌマキ群落	00	280301	ヒトヅハーヌマキ群落		細		337	7	2008	8	九州・沖縄								
363	VI 28	暖温帶針葉樹林		03 イヌマキ群落	01 ヒトヅハーヌマキ群落	280301	ヒトヅハーヌマキ群落		細		338	1	2009	4	北陸								
364	VI 28	暖温帶針葉樹林		04 ビャクシン群落	00	280400	ビャクシン群落		中		339	1	2011	6	近畿								
365	VI 28	暖温帶針葉樹林		05 スギ群落	00	280500	スギ群落(VI)		中		340	1	2012	7	中国・四国								
366	VI 28	暖温帶針葉樹林		05 スギ群落	01 タカラシダーススキ群集	280501	タカラシダーススキ群集		細		341	24	2004	5	中部								
367	VI 28	暖温帶針葉樹林		05 スギ群落	02 イソノキーススキ群落	280502	イソノキーススキ群落		細		342	0	0	0	調整								
368	VI 28	暖温帶針葉樹林		06 ヒノキ群落	00	280600	ヒノキ群落(VI)		中		343	0	0	0	0								
369	VI 28	暖温帶針葉樹林		07 トガサワラ群落	00	280700	トガサワラ群落(VI)		中		344	71											
370	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹		01 アカマツ群落	00	290100	アカマツ群落(VI)		中		345	2	2000	8	九州・沖縄								
371	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹		01 アカマツ群落	02 コハニミツバツジーアカマツ群集(自然林)	290102	コハニミツバツジーアカマツ群集(自然林)		細		346	94											
372	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹		01 アカマツ群落	03 オンツツジーアカマツ群集(自然林)	290103	オンツツジーアカマツ群集(自然林)		細		347	4											
373	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹		01 アカマツ群落	04 ヤツツジーアカマツ群集(自然林)	290104	ヤツツジーアカマツ群集(自然林)		細		348	215											
374	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹		01 アカマツ群落	05 キヂニミツバツジーアカマツ群集(自然林)	290105	キヂニミツバツジーアカマツ群集(自然林)		細		349	0	0	0	0								
375	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹		01 アカマツ群落	06 モチツツジーアカマツ群集(自然林)	290106	モチツツジーアカマツ群集(自然林)		細		350	94											
376	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹		02 クロマツ群落	00	290200	クロマツ群落(VI)		中		351	3	2008	7	中国・四国								
377	VI 29	岩角地・海岸断崖地針葉樹		02 クロマツ群落	01 イタドリークロマツ群落	290201	イタドリークロマツ群落		細		352	85											
378	VI 30	落葉広葉樹林		01 ケヤキ群落	00	300100	ケヤキ群落(VI)		中		353	32	0	0	0								
379	VI 30	落葉広葉樹林		01 ケヤキ群落	01 コクサギーケヤキ群集	300101	コクサギーケヤキ群集		細		354	0	2009	7	中国・四国								
380	VI 30	落葉広葉樹林		01 ケヤキ群落	02 イロハモジーケヤキ群集	300102	イロハモジーケヤキ群集		細		355	28											
381	VI 30	落葉広葉樹林		01 ケヤキ群落	03 コウヤツラビーケヤキ群集	300103	コウヤツラビーケヤキ群集		細		356	13	2001	7	中国・四国								
382	VI 30	落葉広葉樹林		01 ケヤキ群落	04 ケヤキームクノキ群集	300104	ケヤキームクノキ群集		細		357	2	2009	8	九州・沖縄								
383	VI 30	落葉広葉樹林		01 ケヤキ群落	05 ツワフキーケヤキ群落	300105	ツワフキーケヤキ群落		細		358	158											
384	VI 30	落葉広葉樹林		02 ムクノキーエノキ群落	00	300200	ムクノキーエノキ群落		中		359	3											
385	VI 30	落葉広葉樹林		02 ムクノキーエノキ群落	01 ムクノキーエノキ群落	300201	ムクノキーエノキ群落		細		360	3											
386	VI 30	落葉広葉樹林		03 ミズキ群落	00	300300	ミズキ群落(VI)		中		361	12											
387	VI 30	落葉広葉樹林		03 ミズキ群落	01 ウリノキミズキ群落	300301	ウリノキミズキ群落		細		362	345											
388	VI 30	落葉広葉樹林		04 イヌシテーカシテ群落	01 イヌシテーカシテ群落	300401	イヌシテーカシテ群落(VI)		細		363												
389	VI 30	落葉広葉樹林		05 シマサルベリ群落	01 ハドノキシマサルベリ群落	300501	ハドノキシマサルベリ群落		細		364												
390	VI 31	沼沢林		01 ハンノキ群落	00	310100	ハンノキ群落(VI)		中		365												
391	VI 31	沼沢林		01 ハンノキ群落	01 サクラバハシノキ群落	310101	サクラバハシノキ群落		細		366												
392	VI 31	沼沢林		02 クヌキ群落	00	310200	クヌキ群落(VI)		中		367												
393	VI 32	河辺林		01 ヤナギ高木群落	00	320100	ヤナギ高木群落(VI)		中		368												

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

★ 平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域代償植生 (VII)河辺・湿原・砂丘・樹木等、(IX)植木地、耕作地植生
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む VI)コケモモトウヒクラス域を含む F)ブナクラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録 植生要検討して保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大コード	中区分	中コード	細区分	細コード	凡例名	凡例コード	副凡例		新規凡例		新規凡例作成年	2次メッシュ数	細分群			
								新規凡例		新規凡例							
								プロックコード	プロックコード	新規凡例	新規凡例						
394	VI 32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	01	ジャヤナギ群落	320101	ジャヤナギ群落		363	8	中国・四国					
395	VI 32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	02	アカメヤナギ群落	320102	アカメヤナギ群落		364	4	2001	7	中国・四国			
396	VI 32	河辺林	01	ヤナギ高木群落	03	コゴメヤナギ群集	320103	コゴメヤナギ群集		365	1	2004	5	中部			
397	VI 32	河辺林	02	ヤナギ低木群落	00		320200	ヤナギ低木群落(VI)		366	350						
398	VI 32	河辺林	02	ヤナギ低木群落	01	ニコヤナギ群落	320201	ニコヤナギ群落		367	0						
399	VI 32	河辺林	02	ヤナギ低木群落	03	ドクツギーアキミ群集	320203	ドクツギーアキミ群集		368	43	2000	5	中部			
400	VI 32	河辺林	02	ヤナギ低木群落	04	タチヤナギ群集	320204	タチヤナギ群集		369	3	2002	5	中部			
401	VI 32	河辺林	03	カワラハシノキ群落	00		320300	カワラハシノキ群落		370	7						
402	VI 32	河辺林	04	フサザクラ群落	00		320400	フサザクラ群落		371	18						
403	VI 32	河辺林	04	フサザクラ群落	01	タマアジサイーフサザクラ群集	320401	タマアジサイーフサザクラ群集		372	80						
404	VI 32	河辺林	05	アキニレ群落	00		320500	アキニレ群落		373	0						
405	VI 32	河辺林	06	河辺ヤシバシ群落	00		320600	河辺ヤシバシ群落		374	4	2002	5	中部			
406	VI 32	河辺林	07	アキグミ群落	00		320700	アキグミ群落		375	23	2002	7	中国・四国			
407	VI 33	自然低木群落	01	ヤマナガギークシヤアツギ群团	00		330100	ヤマナガギークシヤアツギ群团		376	4						
408	VI 33	自然低木群落	02	オオバヤシヤブシ群落	00		330200	オオバヤシヤブシ群落(VI)									
409	VI 33	自然低木群落	02	オオバヤシヤブシ群落	01	ニオイウツギーオバヤシヤブシ群集	330201	ニオイウツギーオバヤシヤブシ群集		377	0						
410	VI 33	自然低木群落	02	オオバヤシヤブシ群落	02	セイタマジージサイーオバヤシヤブシ群	330202	セイタマジージサイーオバヤシヤブシ群		378	0						
411	VI 33	自然低木群落	02	オオバヤシヤブシ群落	03	ハチジョウススキーオオバヤシヤブシ群落	330203	ハチジョウススキーオオバヤシヤブシ群落		379	0						
412	VI 33	自然低木群落	03	ハドンキーラジロエノキ群团(自然林)	01	ガケアジサイーラセイタマアマジサイ群集	330301	ガケアジサイーラセイタマアマジサイ群集		380	0						
413	VI 33	自然低木群落	03	ハドンキーラジロエノキ群团(自然林)	02	カニクサーアカメガシワ群落	330302	カニクサーアカメガシワ群落		381	0						
414	VI 33	自然低木群落	04	ハマボウ群落	00		330400	ハマボウ群落		382	52						
415	VI 33	自然低木群落	05	ハマクサギ群落	00		330500	ハマクサギ群落		383	2	2000	7	中国・四国			
416	VI 33	自然低木群落	06	シママンネングサーアイワシテ群集	01	シママンネングサーアイワシテ群集	330700	シママンネングサーアイワシテ群集		384	7	2000	8	九州・沖縄			
417	VI 33	自然低木群落	07	イワシテ群落	01	イワシモツケ群落	330800	イワシモツケ群落		385	4	2002	8	九州・沖縄			
418	VI 33	自然低木群落	08	イブキモツメ群落	00		330900	イブキモツメ群落		386	2	2001	7	中国・四国			
419	VI 33	自然低木群落	09	ハマナツ群落	00		331000	ハマナツ群落		387	4	2007	6	近畿			
420	VI 33	自然低木群落	10	イワガサ群落	00		331100	イワガサ群落		388	0	2009	7	中国・四国			
421	VI 33	自然低木群落	11	カジワ群落	01	ネムノキーカジワ群集	331101	ネムノキーカジワ群集									
422	VI 34	海岸風衝低木群落	00				340000	海岸風衝低木群落		389	0						
423	VI 34	海岸風衝低木群落	01	トベラ群落	01	マサキートベラ群集	340101	マサキートベラ群集		390	177						
424	VI 34	海岸風衝低木群落	02	ウバメガシ群落	00		340200	ウバメガシ群落		391	0						
425	VI 34	海岸風衝低木群落	02	ウバメガシ群落	01	トベラーウバメガシ群集	340201	トベラーウバメガシ群集		392	176						
426	VI 34	海岸風衝低木群落	03	ハマビワ群落	01	オニヤフソツツバーハマビワ群集	340301	オニヤフソツツバーハマビワ群集		393	94						
427	VI 34	海岸風衝低木群落	03	ハマビワ群落	02	アカツツバーハマビワ群集	340302	アカツツバーハマビワ群集		394	72						
428	VI 34	海岸風衝低木群落	04	マルバニッケイ群落	00		340400	マルバニッケイ群落		395	5						
429	VI 34	海岸風衝低木群落	05	モクタチバナ群落	00		340500	モクタチバナ群落		396	0						
430	VI 34	海岸風衝低木群落	06	ヒヤシン群落	01	ハマヒサカギーヒヤシン群落	340601	ハマヒサカギーヒヤシン群落		397	2	2003	6	近畿			
431	VI 34	海岸風衝低木群落	07	オキナハハズ群落	00		340700	オキナハハズ群落		398	2	2008	8	九州・沖縄			
432	VI 34	海岸風衝低木群落	08	ハマヒサカギ群落	01	シラタマカズラーハマヒサカギ群落	340801	シラタマカズラーハマヒサカギ群落		399	1	2008	8	九州・沖縄			
433	VI 34	海岸風衝低木群落	09	マルバアキミ群落	00		340900	マルバアキミ群落									
434	VI 35	亜熱帯常緑広葉樹林	01	ボチョウジースタジイ群	00		350100	ボチョウジースタジイ群		400	0						
435	VI 35	亜熱帯常緑広葉樹林	01	ボチョウジースタジイ群	01	アマミテンナ・ショウースタジイ群	350101	アマミテンナ・ショウースタジイ群		401	3			r			
436	VI 35	亜熱帯常緑広葉樹林	01	ボチョウジースタジイ群	02	ケハダルリミノキースタジイ群	350102	ケハダルリミノキースタジイ群		402	9						
437	VI 35	亜熱帯常緑広葉樹林	01	ボチョウジースタジイ群	03	オオバナハイノキースタジイ群	350103	オオバナハイノキースタジイ群		403	1						
438	VI 35	亜熱帯常緑広葉樹林	01	ボチョウジースタジイ群	04	オキナワラシヨウ群集	350104	オキナワラシヨウ群集		404	12						

統一凡例一覽(大・中・細区分一覽表)

平成26年度新規例
★統一凡例一覧(大・小)

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトトウヒカラス域自然植生 (Ⅳ)ブナカラス域自然植生 (V)ブナカラス域代償植生 (VI)ヤツバカラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツバカラス域代償植生 (VII)河辺・湿原・砂丘植生等、(IX)植林地、耕作地植生
カラス域重複:A)高山帯自然植生を含む、B)コケモモトトウヒカラス域を含む、C)ヤツバカラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録 植生要検討して保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大区分	中コード	細区分	細コード	シカ等食害 RL凡例		副凡例	更新状況 注記	区分 レベル	クラス重複	新規凡例 プロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例作成年	2次メッシュ数	細分 離合群 単	新規凡例 プロックコード											
					新規凡例 プロックコード																						
					新規凡例 プロックコード																						
466	VI 36	亜熱帯常緑広葉樹林(隆起 石灰岩上)	01	ナガミボチヨウジリュウキユウガキ群 団	03	ガジュマルークロヨナ群集	360103	ガジュマルークロヨナ群集	428	56																	
467	VI 36	亜熱帯常緑広葉樹林(隆起 石灰岩上)	01	ナガミボチヨウジリュウキユウガキ群 団	04	アマミアラガシ群落	360104	アマミアラガシ群落	429	4																	
468	VI 36	亜熱帯常緑広葉樹林(隆起 石灰岩上)	01	ナガミボチヨウジリュウキユウガキ群 団	05	リュウキユウクロウメモドキースノキ群集	360105	リュウキユウクロウメモドキースノキ群集	431	8	2000	8	九州・沖縄	r													
469	VI 36	亜熱帯常緑広葉樹林(隆起 石灰岩上)	01	ナガミボチヨウジリュウキユウガキ群 団	06	ダイトイセイシボクータイトウビロウ群集	360106	ダイトイセイシボクータイトウビロウ群集	432	5	2008	8	九州・沖縄														
470	VI 36	亜熱帯常緑広葉樹林(隆起 石灰岩上)	06	アコウーガジュマル群落	00		360600	アコウーガジュマル群落	434	2	2008	8	九州・沖縄														
471	VI 37	亜熱帯湿生林(マングロー ブ林)	01	ハマジンチヨウ群落	00		370100	ハマジンチヨウ群落	435	0																	
472	VI 37	亜熱帯湿生林(マングロー ブ林)	02	マングローブ群落	00		370200	マングローブ群落	436	36																	
473	VI 37	亜熱帯湿生林(マングロー ブ林)	03	サガリバナーサキシマスオウノキ群落	00		370300	サガリバナーサキシマスオウノキ群落	437	1																	
474	VI 37	亜熱帯湿生林(マングロー ブ林)	03	サガリバナーサキシマスオウノキ群落	01	サガリバナ群集	370301	サガリバナ群集	438	4	2006	8	九州・沖縄														
475	VI 37	亜熱帯湿生林(マングロー ブ林)	03	サガリバナーサキシマスオウノキ群落	02	サキシマスマスオウノキ群集	370302	サキシマスマスオウノキ群集	439	4	2006	8	九州・沖縄														
476	VI 37	亜熱帯湿生林(マングロー ブ林)	03	サガリバナーサキシマスオウノキ群落	03	ハマボウーサキシマスオウノキ群落	370303	ハマボウーサキシマスオウノキ群落	440	2	2009	8	九州・沖縄														
477	VI 38	亜熱帯常緑針葉樹林	01	リュウキュウマツ群落	00		380100	リュウキュウマツ群落(VI)	441	0																	
478	VI 39	亜熱帯低木群落	01	ソテツ群落	00		390100	ソテツ群落	442	50																	
479	VI 39	亜熱帯低木群落	02	アダン群団	00		390200	アダン群団	443	115																	
480	VI 39	亜熱帯低木群落	02	アダン・群団	01	オオハマボウ群集	390201	オオハマボウ群集	444	29																	
481	VI 39	亜熱帯低木群落	02	アダン・群団	02	オオハマボウ群落	390202	オオハマボウ群落	445	39																	
482	VI 39	亜熱帯低木群落	03	モンジノキークサベラ群落	01	モンジノキークサベラ群落	390301	モンジノキークサベラ群落	446	0																	
483	VI 39	亜熱帯低木群落	03	モンジノキークサベラ群落	02	クサトベラ群落	390302	クサトベラ群落	447	0																	
484	VI 39	亜熱帯低木群落	03	モンジノキークサベラ群落	03	モンジノキ群落	390303	モンジノキ群落	459	0																	
485	VI 39	亜熱帯低木群落	05	海岸風衝低木群落(小笠原)	07	トデミウドノキ群落	390507	トデミウドノキ群落	460	0	2008	0	調整														
486	VI 39	亜熱帯低木群落	06	イボタクサギークサズラ群団	00		390600	イボタクサギークサズラ群団	461	1	2006	8	九州・沖縄														
487	VI 39	亜熱帯低木群落	06	イボタクサギークサズラ群団	01	ニッパヤシ群落	390601	ニッパヤシ群落	462	5	2008	8	九州・沖縄														
488	VI 39	亜熱帯低木群落	07	岩上低木群落	01	ダイトイワダンーガジュマル群集	390701	ダイトイワダンーガジュマル群集	707	0																	
489	VI 39	亜熱帯低木群落	07	岩上低木群落	02	シラゲテノノウメ群集	390702	シラゲテノノウメ群集	小笠原																		
490	VI 39	亜熱帯低木群落	08	オオバシロテヅーテリハコブガシ群団	01	ワダンノキ群集	390801	ワダンノキ群集	449	0																	
491	VI 39	亜熱帯低木群落	08	オオバシロテヅーテリハコブガシ群団	02	ヒサカキーガクアジサイ群落	390802	ヒサカキーガクアジサイ群落	450	0																	
492	VI 39	亜熱帯低木群落	08	オオバシロテヅーテリハコブガシ群団	03	オオトキワイヌビワ群落	390803	オオトキワイヌビワ群落	451	0																	
493	VI 39	亜熱帯低木群落	09	オオバシロテヅーテリハコブガシ群団	01	シマイヌキコバノアカテツ群集	390901	シマイヌキコバノアカテツ群集	小笠原																		
494	VI 39	亜熱帯低木群落	09	オオバシロテヅーテリハコブガシ群団	02	ムニアオガシヒコバノアカテツ群集	390902	ムニアオガシヒコバノアカテツ群集	456	0																	
495	VI 39	亜熱帯低木群落	09	オオバシロテヅーテリハコブガシ群団	04	アカテツ群落	390904	アカテツ群落	457	0																	
496	VI 39	亜熱帯低木群落	10	タコノキ群落	00		391000	タコノキ群落	452	0																	
497	VI 39	亜熱帯低木群落	11	ハドノキワラシロエノキ群団(自然林)	02	オガサワラワラシロエノキ群落	391102	オガサワラワラシロエノキ群落	2011	3	関東																

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名：凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域代償植生 (VII)植林地・砂丘植生等、(IX)植林地、耕作地植生
クラス重複：A)高山帯自然植生を含む、B)コケモモトウヒクラス域を含む、C)ヤツババキクラス域を含む
平成25年度更新状況：新・凡例として登録 検 要検討として保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大区分	中コード	細区分	細コード	凡例名		副凡例	注記	更新状況	区分レベル	クラス重複	シカ等食害 RL凡例	新規凡例 プロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例作成年	2次メッシュ数	細分群	
					コード	コード												
					例名	例名												
498	VI 39	亜熱帯低木群落	11 ハドンキーウラジロエノキ群団(自然林)	03 センダン群落	391103	センダン群落				458	0							
499	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	00 ケヤキ・シラカシ群落	400100	シイ・カシニ三次林				463	893							
500	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	01 ケヤキ・シラカシ群落	400101	ケヤキ・シラカシ群落				464	37							
501	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	02 アカガシニ三次林	400102	アカガシニ三次林				465	71							
502	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	03 シラカシニ三次林	400103	シラカシニ三次林				466	0							
503	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	04 シラカシ屋敷林	400104	シラカシ屋敷林				467	43							
504	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	05 ワラジロガシニ三次林	400105	ワラジロガシニ三次林				468	0	0	調整					
505	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	06 ツクバネガシニ三次林	400106	ツクバネガシニ三次林				469	0	0	調整					
506	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	07 アラカシニ三次林	400107	アラカシニ三次林				470	0	0	調整					
507	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	08 シラカシニ三次林	400108	シラカシニ三次林				471	0	0	調整					
508	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	09 コジイニ三次林	400109	コジイニ三次林				472	0	0	調整					
509	VII 40	常緑広葉樹二次林	01 シイ・カシニ三次林	10 シリカガシニ三次林	400110	シリカガシニ三次林				473	4	2004	7 中国・四国					
510	VII 40	常緑広葉樹二次林	02 タブノキーヤブニッケイニ三次林	00	400200	タブノキーヤブニッケイニ三次林				474	237							
511	VII 40	常緑広葉樹二次林	02 タブノキーヤブニッケイニ三次林	01 ヤマヤシテヅーヤブニッケイ群集	400201	ヤマヤシテヅーヤブニッケイ群集				475	0							
512	VII 40	常緑広葉樹二次林	03 ヒサカキニ三次林	00	400300	ヒサカキニ三次林				476	0							
513	VII 40	常緑広葉樹二次林	04 マテバシイニ三次林	00	400400	マテバシイニ三次林				477	1	2002	7 中国・四国					
514	VII 40	常緑広葉樹二次林	04 マテバシイニ三次林	01 ハクサンボクマテバシイ群落	400401	ハクサンボクマテバシイ群落				478	50							
515	VII 40	常緑広葉樹二次林	05 マサキーベラニ三次林	00	400500	マサキーベラニ三次林				479	0							
516	VII 40	常緑広葉樹二次林	06 ワバメガシニ三次林	00	400600	ワバメガシニ三次林				480	98							
517	VII 40	常緑広葉樹二次林	07 亜熱帯常緑広葉樹ニ三次林	01 ギヨシンカースタジイ群集	400701	ギヨシンカースタジイ群集				481	51	2000	8 九州・沖縄					
518	VII 40	常緑広葉樹二次林	07 亜熱帯常緑広葉樹ニ三次林	02 ホチヨウジーイシユ群落	400702	ホチヨウジーイシユ群落				482	44	2000	8 九州・沖縄					
519	VII 40	常緑広葉樹二次林	07 亜熱帯常緑広葉樹ニ三次林	03 ノガミボチヨウジヤブニッケイ群落	400703	ノガミボチヨウジヤブニッケイ群落				483	51	2000	8 九州・沖縄					
520	VII 40	常緑広葉樹二次林	07 亜熱帯常緑広葉樹ニ三次林	04 ケナガエサカキースタジイ群集	400704	ケナガエサカキースタジイ群集				484	7	2006	8 九州・沖縄					
521	VII 40	常緑広葉樹二次林	08 アカテツーハマビワ群集ニ三次林	00	400800	アカテツーハマビワ群集ニ三次林				485	4	2008	8 九州・沖縄					
522	VII 40	常緑広葉樹二次林	09 ヤブシバキニ三次林	00	400900	ヤブシバキニ三次林				486	0	2009	8 九州・沖縄					
523	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	00	410100	コナラ群落(Ⅷ)				487	450							
524	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	01 クリーコナラ群集	410101	クリーコナラ群集				488	219							
525	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	02 クスギーニコナラ群集	410102	クスギーニコナラ群集				489	228							
526	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	03 オニシバリーコナラ群集	410103	オニシバリーコナラ群集				490	86							
527	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	04 ノグリミーコナラ群集	410104	ノグリミーコナラ群集				491	17							
528	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	05 アベマキーコナラ群集	410105	アベマキーコナラ群集				492	214							
529	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	06 ケネザサーコナラ群集	410106	ケネザサーコナラ群集				493	17							
530	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	07 ケクロモジーコナラ群集	410107	ケクロモジーコナラ群集				494	32							
531	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	08 ポロボロノキーコナラ群集	410108	ポロボロノキーコナラ群集				495	0							
532	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	09 ヒトツバタコ群落	410109	ヒトツバタコ群落				496	1							
533	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	10 クロキーノラ群落	410110	クロキーノラ群落				497	0	0	調整					
534	VII 41	落葉広葉樹二次林	01 コナラ群落	11 フモトミズナラ群落	410111	フモトミズナラ群落				498	0	2009	5 中部					
535	VII 41	落葉広葉樹二次林	02 クヌギ群落	00	410200	クヌギ群落(Ⅷ)				499	0	0	2009	6 近畿				
536	VII 41	落葉広葉樹二次林	02 クヌギ群落	01 ニシノボンモジスズゲークヌギ群落	410201	ニシノボンモジスズゲークヌギ群落				500	0							
537	VII 41	落葉広葉樹二次林	03 アベマキ群落	00	410300	アベマキ群落				501	0							
538	VII 41	落葉広葉樹二次林	04 アカシティーステップ群落	00	410400	アカシティーステップ群落(Ⅸ)				502	112							

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

★ 平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツリバキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツリバキクラス域代償植生 (VII)植林地、砂丘植生等、(IX)植林地、耕作地植生
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む V)コケモモトウヒクラス域を含む F)ブナクラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録 植 要検討して保留 削)第7回以降不使用

大コード	植生区分	大区分	中コード	中区分	細区分	細コード	凡例名		副凡例	新規凡例 ブロックコード	新規凡例 プロックコード	シカ等食害 RL凡例				
							凡例名									
							2次メッシュ数	細分 域重複								
539	VII 41	落葉広葉樹二次林	05	オオシマサクラ群落	01	オオバヤシヤブシ群落	410501	オオバエゴノキーオオシマサクラ群集	細	503	0					
540	VII 41	落葉広葉樹二次林	06	オオバヤシヤブシ群落	00	オオバヤシヤブシ群落	410600	オオバヤシヤブシ群落	細	504	0					
541	VII 41	落葉広葉樹二次林	06	オオバヤシヤブシ群落	01	ニオイハツギーオバヤシヤブシ群集(二次	410601	ニオイハツギーオバヤシヤブシ群集(二次	中	505	0					
542	VII 41	落葉広葉樹二次林	07	アカメガシワーカラスサシショウ群落	00	アカメガシワーカラスサシショウ群落	410701	センダンーハマセンドン群集	細	506	423	改				
543	VII 41	落葉広葉樹二次林	07	アカメガシワーカラスサシショウ群落	01	センダンーハマセンドン群落	410701	センダンーハマセンドン群集	中	507	58	2000				
544	VII 41	落葉広葉樹二次林	08	ケヤキ群落	00	ケヤキ群落	410800	ケヤキ群落	細	508	31	2000				
545	VII 41	落葉広葉樹二次林	08	ケヤキ群落	01	ハゼノキーケヤキ群落	410801	ハゼノキーケヤキ群落	細	509	3	2004				
546	VII 41	落葉広葉樹二次林	08	ケヤキ群落	02	ケヤキ屋敷林	410802	ケヤキ屋敷林	細	510	22	2000				
547	VII 41	落葉広葉樹二次林	09	ミズキ群落	00	ミズキ群落	410900	ミズキ群落	中	510	22	2000				
548	VII 41	落葉広葉樹二次林	10	エノキ群落	00	エノキ群落	411000	エノキ群落	中	511	1					
549	VII 41	落葉広葉樹二次林	10	エノキ群落	01	アカメガシワーエノキ群落	411001	アカメガシワーエノキ群落	細	512	70	2000				
550	VII 41	落葉広葉樹二次林	10	エノキ群落	02	アキニレーエノキ群落	411002	アキニレーエノキ群落	細	513	9	2000				
551	VII 41	落葉広葉樹二次林	12	ハドンキーウラジロエノキ群団(二次林)	00	ハドンキーウラジロエノキ群団(二次林)	411200	ハドンキーウラジロエノキ群団(二次林)	中	514	111	2000				
552	VII 41	落葉広葉樹二次林	12	ハドンキーウラジロエノキ群団(二次林)	01	カギカズラーシマサルスベリ群落	411201	カギカズラーシマサルスベリ群落	細	515	3	2008				
553	VII 41	落葉広葉樹二次林	12	ハドンキーウラジロエノキ群団(二次林)	02	シマタコ群落	411202	シマタコ群落	細	516	2	2008				
554	VII 41	落葉広葉樹二次林	12	ハドンキーウラジロエノキ群団(二次林)	03	ウラジロエノキ群落	411203	ウラジロエノキ群落	細	517	2011	3				
555	VII 41	落葉広葉樹二次林	12	ハドンキーウラジロエノキ群落	04	シマグワ群落	411204	シマグワ群落	中	518	2013	3 開東				
556	VII 41	落葉広葉樹二次林	13	ムクノキ群落	00	ムクノキ群落	411300	ムクノキ群落	中	519	5	2001				
557	VII 41	落葉広葉樹二次林	14	クサギークサ群落	00	クサギークサ群落	411400	クサギークサ群落	中	520	0	0 調整				
558	VII 41	落葉広葉樹二次林	15	ヒメシャラ群落	01	カナクギーキヒメシャラ群落	411501	カナクギーキヒメシャラ群落	細	521	8	2008				
559	VII 41	落葉広葉樹二次林	16	カンコノキ群落	00	カンコノキ群落	411600	カンコノキ群落	中	522	0	2009				
560	VII 41	落葉広葉樹二次林	17	センダンニンニク	00	センダンニンニク	411700	センダンニンニク	中	523	0	2009				
561	VII 41	落葉広葉樹二次林	18	サキシマフヨウ群落	00	サキシマフヨウ群落	411800	サキシマフヨウ群落	中	524	494	●				
562	VII 42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	00	アカマツ群落(IV)	420100	アカマツジーアカマツ群集	細	525	84					
563	VII 42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	01	ヤマツジーアカマツ群集	420101	ヤマツジーアカマツ群集	F	526	229					
564	VII 42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	02	モチツヅジーアカマツ群集	420102	モチツヅジーアカマツ群集	細	527	2					
565	VII 42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	03	コハノミツハツツジーアカマツ群集	420103	コハノミツハツツジーアカマツ群集	細	528	183					
566	VII 42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	04	ユキグニミツハツツジーアカマツ群集	420104	ユキグニミツハツツジーアカマツ群集	細							
567	VII 42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	05	オジツジーアカマツ群集	420105	オジツジーアカマツ群集	細	529	20					
568	VII 42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	06	アカガシーアカマツ群落	420106	アカガシーアカマツ群落	細	530	0					
569	VII 42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	07	ネズーアカマツ群落	420107	ネズーアカマツ群落	細	531	76	2000				
570	VII 42	常緑針葉樹二次林	01	アカマツ群落	08	ウバメガシーアカマツ群落	420108	ウバメガシーアカマツ群落	細	532	15	2000				
571	VII 42	常緑針葉樹二次林	02	クロマツ群落	00	クロマツ群落(VII)	420200	クロマツ群落(VII)	中	533	99					
572	VII 42	常緑針葉樹二次林	03	リュウキュウマツ群落	00	リュウキュウマツ群落	420300	リュウキュウマツ群落	中	534	97					
573	VII 42	常緑針葉樹二次林	04	モミ群落	00	モミ群落(VII)	420400	モミ群落(VII)	中	535	10					
574	VII 43	タケ・ササ群落	00	タケ・ササ群落	00	タケ・ササ群落	430000	タケ・ササ群落	大	536	97					
575	VII 43	タケ・ササ群落	01	ヤダケ群落	01	ヤダケ群落	430100	ヤダケ群落	中	537	40					
576	VII 43	タケ・ササ群落	02	メタケ群落	00	メタケ群落	430200	メタケ群落	中	538	294					
577	VII 43	タケ・ササ群落	03	リュウキュウマツ群落	00	リュウキュウマツ群落	430300	リュウキュウマツ群落	中	539	45					
578	VII 43	タケ・ササ群落	04	アズマネササ群落	00	アズマネササ群落	430400	アズマネササ群落	中	540	75	2000				

統一凡例一覽(大・中・細区分一覽表)

★ 平成26年度新凡例

大区分		中コード		細区分		凡例名		副凡例		シカ等食害 R凡例		新規凡例 ブロック		
樺生区分		大コード				凡例 コード						新規凡例 ブロックコード		
												新規凡例作成年		
				2次メッシュ数		照合番号		副凡例				新規凡例 ブロックコード		
Ⅷ	43	タケ・ササ群落	05	ネザサ群落	00	430500	ネザサ群落	中	541	3	2006	5	中部	
Ⅷ	43	タケ・ササ群落	06	カンサンチク群落	00	430600	カンサンチク群落	中	542	2	2008	8	九州・沖縄	
Ⅷ	44	低木群落	00	クズ群落	00	440000	低木群落	大	543	445				
Ⅷ	44	低木群落	02	ツルダコ群落	00	440200	クズ群落	中	544	438				
Ⅷ	44	低木群落	03	ツルダコ群落	00	440300	ツルダコ群落	中	545	0				
Ⅷ	44	低木群落	04	マルハチ群集	01	440401	マルハチ群集(Ⅷ)	細	546	0				
Ⅷ	44	低木群落	10	モリヘコ群落	00	441000	モリヘコ群落	中	552	2000	8	九州・沖縄		
Ⅷ	44	低木群落	11	ソテツ群落	01	キダチハマグルマ-ソテツ群落	中	553	1	2008	8	九州・沖縄		
Ⅷ	44	低木群落	12	ハマゴウ群落	00	441200	ハマゴウ群落(Ⅷ)	中	554	0	2009	8	九州・沖縄	
●			13	外来種低木-次林	01	シチエンゲ群落	中	549	0					
Ⅷ	44	低木群落	14	外来種つる植物群落	00	441400	外来種つる植物群落	中		2013	2	関東		
Ⅷ	44	低木群落	15	ガクラジサイ群落	00	441500	ガクラジサイ群落	中		2013	3	関東		
Ⅷ	45	二次草原	01	スキ群団	00	450100	スキ群団(Ⅶ)	中	556	39				
Ⅷ	45	二次草原	01	スキ群団	01	450101	アズマネザサーススキ群集	細	557	126				
Ⅷ	45	二次草原	01	スキ群団	02	450102	ネザサーススキ群集	細	558	149				
Ⅷ	45	二次草原	01	スキ群団	03	450103	チガヤーススキ群落	細	559	5	2000	8	九州・沖縄	
Ⅷ	45	二次草原	01	スキ群団	04	450104	メガルカラヤーススキ群集	細	561	7				
Ⅷ	45	二次草原	02	シバ群団	00	450200	シバ群団(Ⅷ)	中	562	4	2008	8	九州・沖縄	
Ⅷ	45	二次草原	02	シバ群団	01	450201	コウライシハバ群落(Ⅷ)	中	563	84				
Ⅷ	45	二次草原	03	ウラジロ-コシダ群落	00	450300	ウラジロ-コシダ群落	中	564	78				
Ⅷ	45	二次草原	04	ダンチク群落	00	450400	ダンチク群落	中	565	0				
Ⅷ	45	二次草原	05	ハチジョウアザミ群落	00	450500	ハチジョウアザミ群落	中	566	0				
Ⅷ	45	二次草原	06	ハイキビ群落	00	450600	ハイキビ群落	中	570	0				
●			10	スズメノヒエ-スヌコビ工群落	01	451000	シマスマスノヒエ-スヌコビ工群落	細	572	92	2000	8	九州・沖縄	
Ⅷ	45	二次草原	11	ナガハカニクサー-スキ群団	00	451100	ナガハカニクサー-スキ群団	中	573	2	2002	8	九州・沖縄	
Ⅷ	45	二次草原	12	ニオウヤブマ群落	00	451200	ニオウヤブマ群落	中	574	1	2008	8	九州・沖縄	
Ⅷ	45	二次草原	13	タイワンカモノハシ群落	00	451300	タイワンカモノハシ群落	中	560	0	2010	8	九州・沖縄	
●			14	イフヒメラビ群落	01	451401	マツカゼシワ-イフヒメラビ群落	細	575	2011	3	関東		
Ⅷ	45	二次草原	14	ラリ-タマシダ群落	00	451501	ラリ-タマシダ群落	細	576	2011	3	関東		
Ⅷ	45	二次草原	15	シタ草原	02	451502	ユノミネシタ群落	細	577	2011	3	関東		
Ⅷ	45	二次草原	16	外来種二次草原	00	451600	外来種二次草原	中	578	2013	2	関東		
Ⅷ	45	二次草原	17	アオリリュウゼツラン群落	11	451611	アオリリュウゼツラン群落	細	579	2013	3	関東		
Ⅷ	45	二次草原	16	サイザルアサ群落	12	451612	サイザルアサ群落	細	580	2013	3	関東		
Ⅷ	45	二次草原	13	セイロシベ-クサ群落	13	451613	セイロシベ-クサ群落	細	581	2011	3	関東		
Ⅷ	45	二次草原	14	セイナガシタ群落	14	451614	セイナガシタ群落	細	582	0	2011	3	関東	
Ⅷ	45	二次草原	15	バラアサガオ群落	15	451615	バラアサガオ群落	細	583	2013	3	関東		
Ⅷ	45	二次草原	16	クサトケイソウ群落	16	451616	クサトケイソウ群落	細	584	2013	3	関東		
Ⅷ	45	二次草原	17	ハリケン-スキ群落	17	451617	ハリケン-スキ群落	細	585	2013	2	関東		
Ⅷ	45	二次草原	18	ホクチカラビ群落	18	451618	ホクチカラビ群落	細	586	2013	2	関東		
●			19	ハタヤマ-ヒメフウコウ群落	19	451619	ハタヤマ-ヒメフウコウ群落	細	587	2013	2	関東		
Ⅷ	45	二次草原	20	オニカラシ-バ群落	20	451620	オニカラシ-バ群落	細	588	2013	2	関東		
Ⅷ	45	二次草原	21	ハチジョウススキ群落	21	451700	ハチジョウススキ群落(Ⅷ)	中	589	2013	3	関東		
Ⅷ	46	伐採跡地群落	00	460000	伐採跡地群落	中	590	2012	1	H20北海道				
Ⅷ	46	伐採跡地群落	01	ワラビ群落	00	460101	ワラビ群落	中	591	4	2004	7	中国・四国	
Ⅷ	46	伐採跡地群落	02	山火事跡地群落	00	460200	山火事跡地群落	中	592	2012	1	H20北海道		
●			03	シロカエモモ-ミズゴケクラス	00	470100	シロカエモモ-ミズゴケクラス	中	593	107				
Ⅷ	47	温床-河川・池沼整備	00	470000	温床-河川・池沼整備	中	594	2012	1	H20北海道				

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

★ 平成26年度新凡例

凡例名：凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域 代償植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域自然植生 (VI)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
 域自然植生 (VII)ヤツバキクラス域代償植生 (VIII)河川・池沼植生等、(IX)植林地、砂丘植生
 クラス重複:A)高山帯自然植生を含む、B)コケモモトウヒクラス域を含む、C)ヤツバキクラス域を含む
 平成25年度更新状況:新・凡例として登録 検 要検討して保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大区分	中コード	細区分	細コード	凡例名		副凡例 新規凡例 ブロックコード	副凡例 新規凡例 プロックコード	副凡例 新規凡例 プロックコード			
					凡例名							
					2次メッシュ数	細区分 重複						
626	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモミズゴケクラス	01 ツルコケモモミズゴケクラス(代償植生)	470101	ツルコケモモミズゴケクラス(代償植生)	細	剣路温原植 生図による	副	578 1 2006 1 北海道		
627	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモミズゴケクラス	03 カラフトイソツヅジージ群落	470103	カラフトイソツヅジージ群落	細	剣路温原植 生図による	副	579 2 2007 1 北海道		
628	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモミズゴケクラス	04 カラフトイソツヅジーチヤミゴケ群落	470104	カラフトイソツヅジーチヤミゴケ群落	細	剣路温原植 生図による	副	580 1 2007 1 北海道		
629	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモミズゴケクラス	05 ニッコウシダーケシノハミズゴケ群落	470105	ニッコウシダーケシノハミズゴケ群落	細	剣路温原植 生図による	副	581 3 2007 1 北海道		
630	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモミズゴケクラス	06 ヒメタスグーラミズゴケ群落	470106	ヒメタスグーラミズゴケ群落	細	剣路温原植 生図による	副	582 3 2007 1 北海道		
631	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモミズゴケクラス	07 ブルテ・シュレンケ複合体群落	470107	ブルテ・シュレンケ複合体群落	細	剣路温原植 生図による	副	583 2 2007 1 北海道		
632	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモミズゴケクラス	08 ムジナスグーチヤミズゴケ群落	470108	ムジナスグーチヤミズゴケ群落	細	剣路温原植 生図による	副	583.5 2 2009 1 北海道		
633	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモミズゴケクラス	09 ヤチカンハ群落	470109	ヤチカンハ群落	細	剣路温原植 生図による	副	2011 1 北海道 r		
634	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	01 ツルコケモモミズゴケクラス	10 ヤマドリゼンマイートマリスグ群落	470110	ヤマドリゼンマイートマリスグ群落	細	剣路温原植 生図による	副	2013 1 北海道		
635	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	02 スマガヤオーダー	00	470200	スマガヤオーダー	中	剣路温原植 生図による	副	584 208 1 2003 8 九州・沖縄		
636	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	02 スマガヤオーダー	01 オオミズゴケ群落	470201	オオミズゴケ群落	細	剣路温原植 生図による	副	585 206 1 2006 1 北海道		
637	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	02 スマガヤオーダー	02 チマキザサーヌマガヤ群落	470202	チマキザサーヌマガヤ群落	細	剣路温原植 生図による	副	586 27 1 2006 1 北海道		
638	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	03 食養地小型植物群落	00	470300	食養地小型植物群落	中	剣路温原植 生図による	副	587 27 1 2006 1 北海道		
639	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	00	470400	ヨシクラス	中	水辺・湿地 の二次草原	副	588 1232 1 2006 1 北海道		
640	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	01 ミゾソハヨシ群落	470401	ミゾソハヨシ群落	細	水辺・湿地 の二次草原	副	589 136 1 2006 1 北海道		
641	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	02 ヒライーカモノハシ群集	470402	ヒライーカモノハシ群集	細	剣路温原植 生図による	副	590 9 2000 2 東北		
642	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	03 セイタカヨシ群落	470403	セイタカヨシ群落	細	剣路温原植 生図による	副	591 21 2001 7 中国・四国		
643	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	05 チマキザサーヨシ群落	470405	チマキザサーヨシ群落	細	剣路温原植 生図による	副	592 1 2003 1 北海道		
644	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	06 ヨシヤラヌメ群落	470406	ヨシヤラヌメ群落	細	剣路温原植 生図による	副	593 7 2003 1 北海道		
645	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	07 ツルスグーヌマドジョウツナギ群落	470407	ツルスグーヌマドジョウツナギ群落	細	剣路温原植 生図による	副	594 4 2003 1 北海道		
646	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	08 ヨシイワガリヤス群落	470408	ヨシイワガリヤス群落	細	剣路温原植 生図による	副	595 7 2003 1 北海道		
647	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	09 イワノガリヤスーカブスケ群落	470409	イワノガリヤスーカブスケ群落	細	剣路温原植 生図による	副	596 2 2007 1 北海道		
648	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	10 ツルスグームジナス群落	470410	ツルスグームジナス群落	細	剣路温原植 生図による	副	597 7 2003 1 北海道		
649	Ⅷ 47	湿原・河川・池沼植生	04 ヨシクラス	11 ツルスグーミツガシワ群落	470411	ツルスグーミツガシワ群落	細	剣路温原植 生図による	副	598 1 2007 1 北海道		

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域自然植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域自然植生 (IX)植林地・砂丘植生等、(X)植生地・耕作地植生
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む V)コケモモトトウヒクラス域を含む F)ブナクラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録 植生要検討して保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大区分	中コード	細区分	細コード	凡例名		副凡例	新規凡例 ブロックコード	新規凡例 プロックコード			
					凡例名							
					コード	名						
650	VII 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシクラス	12	ヤチャナギムジナス群落	470412	ヤチャナギムジナス群落				
651	VII 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシクラス	13	ホサキシモツケ群落	470413	ホサキシモツケ群落				
652	VII 47	湿原・河川・池沼植生	044	ヨシクラス	14	ナガボノシロワレモコウーヒメシダ群落	470414	ナガボノシロワレモコウーヒメシダ群落				
653	VII 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシクラス	15	イワノガリヤスツルスゲ群落	470415	イワノガリヤスツルスゲ群落				
654	VII 48	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシクラス	16	ムジナスデーヤチスゲ群落	470416	ムジナスデーヤチスゲ群落				
655	VII 47	湿原・河川・池沼植生	04	ヨシクラス	17	オオサンカクイ群落	470417	オオサンカクイ群落				
656	VII 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷秘境地植生	00	河川敷秘境地植生	470500	河川敷秘境地植生				
657	VII 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷秘境地植生	01	シリヨン群集	470501	シリヨン群集				
658	VII 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷秘境地植生	02	オキ群集	470502	オキ群集				
659	VII 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷秘境地植生	03	ホツスガヤ群落	470503	ホツスガヤ群落				
660	VII 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷秘境地植生	04	カワラハコヨモギ群团	470504	カワラハコヨモギ群团				
661	VII 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷秘境地植生	06	カワヨモギ群落	470506	カワヨモギ群落				
662	VII 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷秘境地植生	07	河川砂礫地外来草本群落	470507	河川砂礫地外来草本群落				
663	VII 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷秘境地植生	08	河川砂礫地外来低木群落	470508	河川砂礫地外来低木群落				
664	VII 47	湿原・河川・池沼植生	05	河川敷秘境地植生	09	フサフシツウキ群落	470509	フサフシツウキ群落				
665	VII 47	湿原・河川・池沼植生	06	ヒルムシロクラス	00		470600	ヒルムシロクラス				
666	VII 47	湿原・河川・池沼植生	06	ヒルムシロクラス	01	オニバス群落	470601	オニバス群落				
667	VII 47	湿原・河川・池沼植生	06	ヒルムシロクラス	02	外来水草群落	470602	外来水草群落				
668	VII 47	湿原・河川・池沼植生	08	溪流辺植生	00		470800	溪流辺植生				
669	VII 47	湿原・河川・池沼植生	08	溪流辺植生	01	リュウキュウツウワブキーサイゴクホンゴウシ ダ群团	470801	リュウキュウツウワブキーサイゴクホンゴウシ ダ群团				
670	VII 47	湿原・河川・池沼植生	08	溪流辺植生	02	サツキ群集	470802	サツキ群集				
671	VII 47	湿原・河川・池沼植生	08	溪流辺植生	03	キシツツジ群集	470803	キシツツジ群集				
672	VII 47	湿原・河川・池沼植生	08	溪流辺植生	04	ホソババグラーサツキ群集	470804	ホソババグラーサツキ群集				
673	VII 47	湿原・河川・池沼植生	08	溪流辺植生	05	ユキヤナギ群集	470805	ユキヤナギ群集				
674	VII 47	湿原・河川・池沼植生	09	河辺一年生草本群落	00		470900	河辺一年生草本群落(タウコギクラス等)				
675	VII 47	湿原・河川・池沼植生	09	河辺一年生草本群落	01	ヤナギタデ群落	470901	ヤナギタデ群落				
676	VII 47	湿原・河川・池沼植生	10	マザミーチゴザサ群团	00		471000	マザミーチゴザサ群团				
677	VII 47	湿原・河川・池沼植生	11	カワゴケノウクラス	00		471100	カワゴケノウクラス				
678	VII 48	塩沼地植生	00	ヒトモトスキ群落	00		480000	塩沼地植生				
679	VII 48	塩沼地植生	02	シオクグ群落	00		480100	ヒトモトスキ群落				
680	VII 48	塩沼地植生	02	シオクグ群落	01	シオクグ群集	480201	シオクグ群集				
681	VII 48	塩沼地植生	02	シオクグ群落	01	ハママツナーハマサジ群落	480301	ハママツナーハマサジ群落				
682	VII 48	塩沼地植生	03	ウラギクラス	01	ナガミノオニシバ群集	480302	ナガミノオニシバ群集				
683	VII 48	塩沼地植生	03	ウラギクラス	03	シバナ群集	480303	シバナ群集				
684	VII 48	塩沼地植生	03	ウラギクラス	04	アマモクラス	480400	アマモクラス				
685	VII 48	塩沼地植生	04	アマモクラス	04	アマモ群集	480401	アマモ群集				
686	VII 48	塩沼地植生	04	アマモクラス	05	ドロイ群集	480501	ドロイ群集				
687	VII 48	塩沼地植生	05	アリティマイクラス	01		480502	イセウキヤガラ群落				
688	VII 48	塩沼地植生	05	アリティマイクラス	02		480601	アッケシヅクワ群落				
689	VII 48	塩沼地植生	06	1年生アケシヅクワクラス	01		480700	ウミトリ群落				
690	VII 48	塩沼地植生	07	ウミトリ群落	00		480800	ウミトリ群落				

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

★ 平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域代償植生 (IX)植林地・砂丘植生等、(X)植生を含む (Y)コケモモトトウヒクラス域を含む (F)ブナクラス域を含む
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む Y)コケモモトトウヒクラス域を含む C)ヤツババキクラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録 植生要検討として保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大区分	中コード	細区分	細コード	凡例名		副凡例	新規凡例 プロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例作成年	2次メッシュ数	細分 区域重複	更新状況 レベル	注記	
					コード	コード									
					例名	例名									
691	Ⅶ 48	塩沼地植生	07	ウミミドリ群落	01	ツルヒキノカサーウミミドリ群集	480701	ツルヒキノカサーウミミドリ群集	480800	オオクグ群落	634	13/2000	2	東北	r
692	Ⅶ 48	塩沼地植生	08	オオクグ群落	00	カワツルモーリュウノヒデモ群落	480901	カワツルモーリュウノヒデモ群落	481000	ミミモチシタ群落	635	3/2002	7	中国・四国	
693	Ⅶ 48	塩沼地植生	09	汽水或汎水植物群落	01	アシアシ群集	490000	妙丘植生	490100	ハマナス群落	636	5/2002	7	中国・四国	
694	Ⅶ 48	塩沼地植生	10	ミモチシタ群落	00	ハマゴウ群落	490200	ハマゴウ群落	490300	ハイビャクシン群落	637	1/2008	8	九州・沖縄	
695	Ⅶ 49	砂丘植生	11	アイアン群落	01	クロイワ群落	490400	クロイワ群落	490501	オカヒシキーハマゴウ群集	638	0/2009	8	九州・沖縄	
696	Ⅶ 49	砂丘植生	00	ハマナス群落	00	ツガヤーハマゴウ群集	490600	ツガヤーハマゴウ群集	490701	ツカツカウボウムギ群集	639	437			
697	Ⅶ 49	砂丘植生	01	ハマゴウ群落	00	ハマゴウ群落	490800	ハマゴウ群落	490901	オカヒシキーハマゴウ群落	640	1/2009	8	九州・沖縄	
698	Ⅶ 49	砂丘植生	02	ハマゴウ群落	01	オカヒシキーハマゴウ群集	490901	オカヒシキーハマゴウ群落	491000	ウツクシムギ群落	641	0/2009	8	九州・沖縄	
699	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマゴウ群落	02	ハマゴウ群落	491100	ハマゴウ群落	491200	ツカツカウボウムギ群集	642	5			
700	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマゴウ群落	03	ツガヤーハマゴウ群集	491200	ツガヤーハマゴウ群集	491300	ツカツカウボウムギ群集	643	2/2008	8	九州・沖縄	
701	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマゴウ群落	04	ツカツカウボウムギ群落	491300	ツカツカウボウムギ群落	491400	ツカツカウボウムギ群集	644	0/2009	8	九州・沖縄	
702	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマゴウ群落	05	ツカツカウボウムギ群落	491400	ツカツカウボウムギ群落	491500	ツカツカウボウムギ群集	645	1/2009	8	九州・沖縄	
703	Ⅷ 49	砂丘植生	02	ハマゴウ群落	00	ツカツカウボウムギ群落	491500	ツカツカウボウムギ群落	491600	ツカツカウボウムギ群集	646	0/2009	8	九州・沖縄	
704	Ⅷ 49	砂丘植生	03	ハイビャクシン群落	00	ツカツカウボウムギ群落	491600	ツカツカウボウムギ群落	491700	ツカツカウボウムギ群集	647	4			
705	Ⅷ 49	砂丘植生	04	ハマベニケイソウ群落	01	オカヒシキーハマベニケイソウ群落	491700	オカヒシキーハマベニケイソウ群落	491800	ツカツカウボウムギ群集	648	0			
706	Ⅷ 49	砂丘植生	05	コウボウムギ群落	01	ハマニンニクークボウムギ群落	491800	ハマニンニクークボウムギ群落	491900	ツカツカウボウムギ群集	649	64			
707	Ⅷ 49	砂丘植生	05	コウボウムギ群落	02	ハマゴウ群落	491900	ハマゴウ群落	492000	ツカツカウボウムギ群集	650	18			
708	Ⅷ 49	砂丘植生	06	グンバイルカズ群落	00	ツカツカウボウムギ群落	492000	ツカツカウボウムギ群落	492100	ツカツカウボウムギ群集	651	15			
709	Ⅷ 49	砂丘植生	07	ハマニガナークロイワササ群団	00	ツカツカウボウムギ群落	492100	ツカツカウボウムギ群落	492200	ツカツカウボウムギ群集	652	24			
710	Ⅷ 49	砂丘植生	07	ハマニガナークロイワササ群団	01	ツキイゲ群落	492200	ツキイゲ群落	492300	ツカツカウボウムギ群集	653	0			
711	Ⅷ 49	砂丘植生	09	原生花園草原	01	ハマハタサオーエゾノスカシユリ群落	492300	ハマハタサオーエゾノスカシユリ群落	492400	ツカツカウボウムギ群集	654	2/2001	1	北海道	
712	Ⅷ 49	砂丘植生	10	磯浜植生	00	ツカツカウボウムギ群落	492400	ツカツカウボウムギ群落	492500	機浜植生	655	2012	8	北海道	
713	Ⅷ 49	砂丘植生	10	磯浜植生	01	エゾオグール群落	492500	エゾオグール群落	492600	ツカツカウボウムギ群集	656	10/2005	1	北海道	
714	Ⅷ 49	砂丘植生	10	外来種草本群落	02	イワタイケキ群集	492600	イワタイケキ群集	492700	ツカツカウボウムギ群集	656	0/2009	8	九州・沖縄	
★306	Ⅷ 49	砂丘植生	11	外来種草本群落	01	オオハマガヤ群落	492700	オオハマガヤ群落	492800	ツカツカウボウムギ群集	657	2014	3	関東	
715	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	00	海岸断崖地植生	00	海岸断崖地植生	500000	海岸断崖地植生	500100	コハマギク群落	658	88			
716	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	01	エゾカラナデシコホロマンノコギリ	01	コハマギク群落	500100	コハマギク群落	500200	ツカツカウボウムギ群集	659	28/2000	2	東北	r
717	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	01	エゾカラナデシコホロマンノコギリ	02	ハマオトコヨモギコハマギク群集	500200	ハマオトコヨモギコハマギク群集	500300	ツカツカウボウムギ群集	660	12/2000	2	東北	r
718	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	01	エゾカラナデシコホロマンノコギリ	03	エゾニユエーススキ群落	500300	エゾニユエーススキ群落	500400	ツカツカウボウムギ群集	661	29/2000	2	東北	
719	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	02	ツカツカウボウムギ群落	03	ラセイタソウーハマギク群集	500400	ラセイタソウーハマギク群集	500500	ツカツカウボウムギ群集	662	14/2001	2	東北	
720	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	02	ツカツカウボウムギ群落	04	ラセイタソウーハマギク群集	500500	ラセイタソウーハマギク群集	500600	ツカツカウボウムギ群集	666	0			
721	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウムギ群落	00	ハチジョウススキ群落	500600	ハチジョウススキ群落	500700	ツカツカウボウムギ群集	663	41			
722	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウムギ群落	01	オヒジクーハチジョウススキ群落	500700	オヒジクーハチジョウススキ群落	500800	ツカツカウボウムギ群集	664	60			
723	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウムギ群落	02	ツカツカウボウムギ群落	500800	ツカツカウボウムギ群落	500900	ツカツカウボウムギ群集	665	0			
724	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウムギ群落	03	ツカツカウボウムギ群落	500900	ツカツカウボウムギ群落	501000	ツカツカウボウムギ群集	666	11			
725	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウムギ群落	04	オキナワグスクハチジョウススキ群集	501000	オキナワグスクハチジョウススキ群集	501100	ツカツカウボウムギ群集	667	0			
726	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウムギ群落	05	オガサワラグスク群集	501100	オガサワラグスク群集	501200	ツカツカウボウムギ群集	668	0			
727	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウムギ群落	06	ラセイタソウーハマギク群落	501200	ラセイタソウーハマギク群落	501300	ツカツカウボウムギ群集	669	0			
728	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	03	ボタンボウムギ群落	01	オヒジクーハチジョウススキ群落	501300	オヒジクーハチジョウススキ群落	501400	ツカツカウボウムギ群集	670	0			
729	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	05	海鳥営巢地植物群落	02	ツカツカウボウムギ群落	501400	ツカツカウボウムギ群落	501500	ツカツカウボウムギ群集	671	69/2000	4	北陸	
730	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	06	海藻本群落	00	ツカツカウボウムギ群落	501500	ツカツカウボウムギ群落	501600	ツカツカウボウムギ群集	672	10/2000	2	東北	
731	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	07	オオイタドリ群落	00	ツカツカウボウムギ群落	501600	ツカツカウボウムギ群落	501700	ツカツカウボウムギ群集	673	19/2002	8	九州・沖縄	
732	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	08	カワラナデシコサススキ群落	01	ダルマギクーハマギク群落	501700	ダルマギクーハマギク群落	501800	ツカツカウボウムギ群集	674	2011	3	関東	
733	Ⅷ 50	海岸断崖地植生	09	ナガバニカモジクサススキ群落	01	ナガバニカモジクサススキ群落	501800	ナガバニカモジクサススキ群落	501900	ツカツカウボウムギ群集	675				

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツババキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・砂丘地・耕作地植生
域自然植生 (VIII)ヤツババキクラス域代償植生 (IX)植林地、草地・灌木地・耕作地植生
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む V)コケモモトウヒクラス域を含む F)ブナクラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録 植生要検討として保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大コード	大区分	中コード	中区分	細区分	コード	凡例名	凡例コード	副凡例		新規凡例 ブロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例 プロックコード	
									分区 レベル	更新状況 レベル								
734	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	10	ナンバンカラムシ群落	00		501000	ナンバンカラムシ群落	中	小笠原		2013	3	関東				
735	Ⅶ 50	海岸断崖地植生	11	モクビヤッコウ群落	00		501100	モクビヤッコウ群落	中	小笠原		2013	3	関東				
736	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	01	石灰岩地植生	00		501010	石灰岩地植生	中	小笠原		674	9					
737	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	01	石灰岩地植生	01	コイフキアザミーアカソ群集	510101	コイフキアザミーアカソ群集	中			676	20					
738	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	03	岩壁植生	00		510300	岩壁植生	中			677	5	2005	8	九州・沖縄		
739	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	00		510400	蛇紋岩地植生	中			678	0					
740	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	01	アカマツ群落(Ⅲ)	510401	アカマツ群落(Ⅲ)	細			679	35	2000	5	中部		
741	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	02	ヒロハドウダンツツジーアカマツ群落	510402	ヒロハドウダンツツジーアカマツ群落	細			680	0	2009	2	東北		
742	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	04	蛇紋岩地植生	03	ケスグーアラカン群落	510403	ケスグーアラカン群落	細			681	20	2000	2	東北		
743	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	05	風穴植生	00		510500	風穴植生	中									
744	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	05	風穴植生	01	コキンバイレンゲツツジ群落	510501	コキンバイレンゲツツジ群落	細									
★103	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	05	風穴植生	02	コケモモエノゾムラサキツツジ群落	510502	コケモモエノゾムラサキツツジ群落	細			2014	1	北海道				
745	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	00		510600	岩角地植生	中			2011	0	調整				
746	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	01	コメツツジ群落	510601	コメツツジ群落	細	移動	510200から	2011	0	調整				
747	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	02	オノエランーハコネコメツツジ群集	510602	オノエランーハコネコメツツジ群集	細			2011	3	関東	r			
748	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	03	チヨウジコメツツジ群集	510603	チヨウジコメツツジ群集	細			2011	5	中部				
749	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	04	アレノギクーアイノコマツ群落	510604	アレノギクーアイノコマツ群落	細			2012	8	九州・沖縄				
750	Ⅶ 51	岩角地・石灰岩地・蛇紋岩地植生	06	岩角地植生	06	オオシマツツジーリョウブ群落	510606	オオシマツツジーリョウブ群落	細	伊豆		2013	3	関東				
751	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	01	火山荒原植生	00		520100	火山荒原植生	中			682	16					
752	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	02	硫氣孔原植生	00		520200	硫氣孔原植生	中	小笠原		683	26					
753	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	02	硫氣孔原植生	01	イガガヤツリ群落	520201	イガガヤツリ群落	細			684	2					
754	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	03	ミヤマキリシマ群落	00		520300	ミヤマキリシマ群落	中			685	7					
755	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	03	ミヤマキリシマ群落	01	マイヅルソウニヤマキリシマ群集	520301	マイヅルソウニヤマキリシマ群集	細			686	0	2010	8	九州・沖縄	●	
756	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	03	ミヤマキリシマ群落	02	キリシマアザミ群落	520302	キリシマアザミ群落	細			687	13					
757	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	04	ヤマトタルブクロ群落	01	斐アザミーアマホタルブクロ群集	520401	斐アザミーアマホタルブクロ群集	細			688	0					
758	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	05	コメスキ群落	01	イタドリーコメスキ群落	520501	イタドリーコメスキ群落	細			689	0					
759	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	06	ハチジョウイタドリ群落	00		520600	ハチジョウイタドリ群落	中			690	0					
760	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	06	ハチジョウイタドリ群落	01	シマタヌキランーハチジョウイタドリ群集	520601	シマタヌキランーハチジョウイタドリ群集	細			691	0					
761	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	07	タマシダ群落	00		520700	タマシダ群落	中			692	0					
762	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	07	タマシダ群落	01	イタドリータマシダ群落	520800	噴氣孔原植生	細			693	3	2004	1	北海道		
763	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	08	噴氣孔原植生	00		520900	マルバサツキハチジョウアススキ群落	中			694	0	2008	0	調整		
764	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	09	マルバサツキハチジョウアススキ群落	00		520901	イタドリーハチジョウアススキ群落	細			695	1	2008	8	九州・沖縄		
765	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	09	マルバサツキハチジョウアススキ群落	01	マルバサツキーシャシャンボ群落	520902	マルバサツキーシャシャンボ群落	細			696	1	2008	8	九州・沖縄		
766	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	10	シャンシャンボ群落	01	ハマヒカリキーシャシャンボ群落	521001	ハマヒカリキーシャシャンボ群落	細			697	1	2008	8	九州・沖縄		
767	Ⅶ 52	火山荒原植生・硫氣孔原植生	10	シャンシャンボ群落	02	ヒガヘノズラーシャシャンボ群落	521002	ヒガヘノズラーシャシャンボ群落	細			698	0	2010	8	九州・沖縄		

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

★ 平成26年度新凡例

（V）ナクラス域自然生産、（IV）ナクラス域代償生産、（III）コケモモトウヒク拉斯域代償生産、（II）ヤツシロヒク拉斯域代償生産、（I）ヤツシロヒク拉斯域自然生産

大区分		中区分		細区分		凡例名		注記		副凡例		新規凡例ブロック		
大コード	植生区分	中コード	中区分	細コード	細区分	凡コード	ド	新規凡例ブロックコード	新規凡例作成年	2次メッシュ数	濫用番号	更新状況	区分レベル	
Ⅷ	Ⅴ2	火山荒原植生・硫気孔原植生	11	ハソツヅジ群落	01	ススキ－ソツヅジ群落		521101	スキ－ソツヅジ群落	699	02008	1	北海道	
Ⅷ	Ⅴ2	火山荒原植生・硫気孔原植生	12	イヌコリヤナギ群落	01	アキダマ－イヌコリヤナギ群落		521201	アキダマ－イヌコリヤナギ群落		02008	1	北海道	
Ⅷ	Ⅴ2	火山荒原植生・硫気孔原植生	13	ミネヤナギ群落	00	ミネヤナギ群落(Ⅲ)		521300	ミネヤナギ群落(Ⅲ)		2010	1	北海道	
Ⅷ	Ⅴ2	火山荒原植生・硫気孔原植生	13	ミネヤナギ群落	01	ミネヤナギ－カラマツ群落		521301	ミネヤナギ－カラマツ群落		2010	1	北海道	
Ⅷ	Ⅴ2	火山荒原植生・硫気孔原植生	14	ヒサカキ群落	01	ハチジョウススキ－ヒサカキ群落		521401	ハチジョウススキ－ヒサカキ群落		2013	3	関東	
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	00		00	530000	隆起珊瑚礁植生			700	54			
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	01	ソナレシハ群落	00	530100	ソナレシハ群落			701	0			
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	02	ハイシハ群落	00	530200	ハイシハ群落			702	0			
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	03	モクビヤツコウ群落	00	530300	モクビヤツコウ群落							
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	03	モクビヤツコウ群落	01	イハマツ－モクビヤツコウ群集		530301	イハマツ－モクビヤツコウ群集		704	1		
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	03	モクビヤツコウ群落	02	530302	イハマツ群落							
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	04	コウライシハ群落	00	530400	コウライシハ群落			705	25			
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	05	コハマシンチヨウ群集	00	530500	コハマシンチヨウ群集			706	0			
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	06	ミズガシニヒ群落	00	530600	ミズガシニヒ群落			708	92006	8	九州・沖縄	
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	08	トゲイドタ群落	00	530800	トゲイドタ群落			709	12008	8	九州・沖縄	
Ⅷ	Ⅴ3	隆起珊瑚礁植生	09	テンノウメ群落	01	ハリツルマサキ－テンノウメ群集		530901	ハリツルマサキ－テンノウメ群集		710	12008	8	九州・沖縄
IX	Ⅴ4	植林地	01	スキ・ヒキ・サララ植林	00	540100	スキ・ヒキ・サララ植林			711	1565			
IX	Ⅴ4	植林地	01	スキ・ヒキ・サララ植林	01	540101	スキ・巨木林			712	14200	8	九州・沖縄	
IX	Ⅴ4	植林地	02	アカマツ植林	00	540200	アカマツ植林			713	467			
IX	Ⅴ4	植林地	03	クロマツ植林	00	540300	クロマツ植林			714	573			
IX	Ⅴ4	植林地	04	エゾマツ植林	00	540400	エゾマツ植林			715	60			
IX	Ⅴ4	植林地	05	トドマツ植林	00	540500	トドマツ植林			716	246			
IX	Ⅴ4	植林地	06	アカエゾマツ植林	00	540600	アカエゾマツ植林			717	168			
IX	Ⅴ4	植林地	07	カラマツ植林	00	540700	カラマツ植林			718	563			
IX	Ⅴ4	植林地	08	リュウキユウマツ植林	00	540800	リュウキユウマツ植林			719	9			
IX	Ⅴ4	植林地	09	外國產樹種植林	01	540900	外國產樹種植林			720	234			
IX	Ⅴ4	植林地	09	ギンネム群落	01	540901	ギンネム群落			721	74			
IX	Ⅴ4	植林地	09	外國產樹種植林	02	540902	ニセアカシア群落			722	330			
IX	Ⅴ4	植林地	09	外國產樹種植林	03	540903	テーダマツ植林			723	39200	5	中部	
IX	Ⅴ4	植林地	09	外國產樹種植林	04	540904	モクマオウ類植林			724	1112000	8	九州・沖縄	
IX	Ⅴ4	植林地	09	外國產樹種植林	05	540905	ソウシジュ類植林			725	26200	8	九州・沖縄	
IX	Ⅴ4	植林地	09	外國產樹種植林	06	540906	ストローマツ類植林			726	642001	1	北海道	
IX	Ⅴ4	植林地	09	外國產樹種植林	07	540907	ニセアカシア植林			727	0	0	調整	
IX	Ⅴ4	植林地	09	外國產樹種植林	08	540908	インドコムノキ植林							
IX	Ⅴ4	植林地	10	その他植林	00	541000	その他植林(常緑針葉樹)			728	533			
IX	Ⅴ4	植林地	11	その他植林(常緑針葉樹)	00	541100	その他植林(常緑針葉樹)			729	34			
IX	Ⅴ4	植林地	11	その他植林(常緑針葉樹)	01	541101	モミ植林			730	222001	2	東北	
IX	Ⅴ4	植林地	11	その他植林(常緑針葉樹)	02	541102	ウラジロモミ植林			731	172003	5	中部	
IX	Ⅴ4	植林地	11	その他植林(常緑針葉樹)	03	541103	シラビバ植林			732	52004	5	中部	
IX	Ⅴ4	植林地	11	その他植林(常緑針葉樹)	04	541104	トウヒ植林			733	22004	5	中部	
IX	Ⅴ4	植林地	12	その他植林(落葉広葉樹)	00	541200	その他植林(落葉広葉樹)			734	108			
IX	Ⅴ4	植林地	12	その他植林(落葉広葉樹)	01	541201	ヤチダモ植林			735	442000	2	東北	
IX	Ⅴ4	植林地	12	その他植林(落葉広葉樹)	02	541202	クヌギ植林			736	1852000	8	九州・沖縄	
IX	Ⅴ4	植林地	12	その他植林(落葉広葉樹)	03	541203	オナガキ群落			737	212000	7	中国・四国	
IX	Ⅴ4	植林地	12	その他植林(落葉広葉樹)	04	541204	オオシマサクラ植林			738	112000	8	九州・沖縄	
IX	Ⅴ4	植林地	12	その他植林(落葉広葉樹)	05	541205	オオシマサクラ植林			739	452000	5	中部	

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

★ 平成26年度新凡例

凡例名 凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモトウヒクラス域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤツリバキクラス域自然植生 (VII)河辺・湿原・塩沼地・耕作地・林生地 (VIII)ヤツリバキクラス域代償植生 (IX)植林地、砂丘植生等、(X)植生地、耕作地・林生地
区域自然植生 (VII)高山帯自然植生を含む (V)コケモモトウヒクラス域を含む (F)ブナクラス域を含む
クラス重複:A)高山帯自然植生を含む (V)コケモモトウヒクラス域を含む (C)ヤツリバキクラス域を含む
平成25年度更新状況:新/凡例として登録 植生区分として登録 植生区分として登録 (検査要検討として保留削除) 第7回以降不使用

植生区分	大コード	中コード	細区分	細コード	凡例名		副凡例	新規凡例 ブロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例 プロックコード	新規凡例作成年	2次メッシュ数	細分 域重複	更新状況 レベル	注記	
					コード	コード										
					コード	コード										
815	IX 54	植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)	06 アキグミ植林	541206	アキグミ植林	細		副	副	副	740	23 2000	4 北陸		
816	IX 54	植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)	07 ハマナス植栽地	541207	ハマナス植栽地	細		副	副	副	741	0 0	0 調整		
817	IX 54	植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)	08 シラカンバ植林	541208	シラカンバ植林	細		副	副	副	742	52 2002	1 北海道		
818	IX 54	植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)	09 ヤシヤブシ植林	541209	ヤシヤブシ植林	細		副	副	副	743	0 2010	3 関東		
819	IX 54	植林地	12 その他植林(落葉広葉樹)	10 ケヤキ植林	541210	ケヤキ植林(常緑広葉樹)	細		副	副	副	744	0 2010	8 九州・沖縄		
820	IX 54	植林地	13 その他植林(落葉広葉樹)	00	541300	その他植林(常緑広葉樹)	中		副	副	副	745	3			
821	IX 54	植林地	13 その他植林(落葉広葉樹)	01 クスノキ植林	541301	クスノキ植林	細		副	副	副	746	87			
822	IX 54	植林地	13 その他植林(落葉広葉樹)	02 クスノキ巨木林	541302	クスノキ巨木林	細		副	副	副	747	6 2000	8 九州・沖縄		
823	IX 54	植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	03 クスノキ群落	541303	クスノキ群落	細		副	副	副	748	33 2000	7 中国・四国		
824	IX 54	植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	04 マテバシイ植林	541304	マテバシイ植林	細		副	副	副	749	40 2000	5 中部		
825	IX 54	植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	05 イヌノキ植林	541305	イヌノキ植林	細		副	副	副	750	0 0			
826	IX 54	植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	06 テリハボク植林	541306	テリハボク植林	細		副	副	副	751	26 2006	8 九州・沖縄		
827	IX 54	植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	07 アカギ群落	541307	アカギ群落	小笠原		副	副	副	751	2011	3 関東		
828	IX 54	植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	08 オオハマボウ植林	541308	オオハマボウ植林	小笠原		副	副	副	752	2013	3 関東		
829	IX 54	植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	09 ガジュマル群落	541309	ガジュマル群落	小笠原		副	副	副	752	2013	3 関東		
830	IX 54	植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	10 オカラサワラヒロク植林	541310	オカラサワラヒロク植林	細		副	副	副	753	12 2003	2 東北		
831	IX 54	植林地	13 その他植林(常緑広葉樹)	11 オカサワラヒロク植林	541311	オカサワラヒロク植林	伊豆		副	副	副	753	12 2003	2 東北		
832	IX 54	植林地	14 外国産樹種吹付地	01 イタチハギ吹付地	541401	イタチハギ吹付地	細		追	追	追	754	1245			
833	IX 54	植林地	14 外国産樹種吹付地	02 イタチハギ群落	541402	イタチハギ群落	細		副	副	副	755	147			
834	IX 55	竹林	00	00	550000	竹林	大					755	45			
835	IX 55	竹林	01 モウソウチク林	00	550100	モウソウチク林	中					756	9			
836	IX 55	竹林	02 マダケ・ハチク林	00	550200	マダケ・ハチク林	中					756	45			
837	IX 55	竹林	03 ナツラインチク・ホティチク林	00	550300	ナツラインチク・ホティチク林	中					757	9			
838	IX 55	竹林	04 ダイサンチク林	00	550400	ダイサンチク林	中					758	1276			
839	IX 56	牧草地・ゴルフ場・芝地	01 ゴルフ場・芝地	00	560100	ゴルフ場・芝地	中					759	1324			
840	IX 56	牧草地・ゴルフ場・芝地	02 牧草地	00	560200	牧草地	中					760	1714			
841	IX 57	耕作地	01 路傍・空地雜草群落	00	570100	路傍・空地雜草群落	中					761	1023			
842	IX 57	耕作地	01 路傍・空地雜草群落	01 放棄雜草群落	570101	放棄雜草群落	細					762	1 2008	5 中部		
843	IX 57	耕作地	01 路傍・空地雜草群落	02 クサイ-ミニボロス群集	570102	クサイ-ミニボロス群集	細					763	1363			
844	IX 57	耕作地	02 果樹園	00	570200	果樹園	中					764	211			
845	IX 57	耕作地	02 果樹園	01 茶園	570201	茶園	細					765	86			
846	IX 57	耕作地	02 果樹園	02 常綠果樹園	570202	常綠果樹園	細					766	1888			
847	IX 57	耕作地	02 果樹園	03 番園	570203	番園	細					767	1629			
848	IX 57	耕作地	03 番園	00	570300	烟草群落	改					768	2 2008	5 中部		
849	IX 57	耕作地	04 水田雜草群落	00	570400	水田雜草群落	中					769	1263			
850	IX 57	耕作地	04 水田雜草群落	01 ワサビ田	570500	放棄水田雜草群落	中					770	1914			
851	IX 57	耕作地	05 放棄水田雜草群落	00	580100	市街地	中					771	1794			
852	IX 58	市街地等	01 市街地	01 緑の多い住宅地	580101	緑の多い住宅地	細					772	502			
853	IX 58	市街地等	01 市街地	02 残存・植栽樹群をもつた公園・墓地等	580102	残存・植栽樹群をもつた公園・墓地等	中					773	1248			
854	IX 58	市街地等	03 工場地帶	00	580300	工場地帶	中					774	1806			
855	IX 58	市街地等	04 造成地	00	580400	造成地	中					775	1 2004	7 中国・四国		
856	IX 58	市街地等	04 造成地	01 煙害跡裸地	580401	煙害跡裸地	細					776	1 2006	1 北海道		
857	IX 58	市街地等	04 造成地	02 泥炭採掘跡裸地	580402	泥炭採掘跡裸地	細					777	65			
858	IX 58	市街地等	05 千拓地	00	580500	千拓地	中					778				

統一凡例一覧(大・中・細区分一覧表)

★ 平成26年度新凡例

凡例名：凡例名の(ローマ数字)は植生区分を示す。(Ⅲ)コケモモートウヒクラス域
 域自然植生 (Ⅳ)ブナクラス域自然植生 (V)ブナクラス域代償植生 (VI)ヤブツバキクラス
 クラス域重複：(Ⅷ)ヤブツバキクラス域代償植生 (Ⅸ)河辺・湿原・塩沼地、砂丘地、植生等、
 (X)植林地、耕作地植生 (VII)高山帯自然植生を含む (V)コケモモートウヒクラス域を含む
 平成25年度更新状況：新、凡例として登録 検要検討として保留 削)第7回以降不使用

植生区分	大コード	中区分	細区分	凡例コード	凡例名	副凡例		注記	更新状況	クラス域重複	区分レベル
						新規凡例	新規凡例				
860	X 58	市街地等	06 開放水域	580600	開放水域			中		判読区分w	
861	X 58	市街地等	07 自然裸地	580700	自然裸地			中		判読区分r	
862	X 58	市街地等	08 残存・植栽樹群地	580800	残存・植栽樹群地			中		判読区分s	